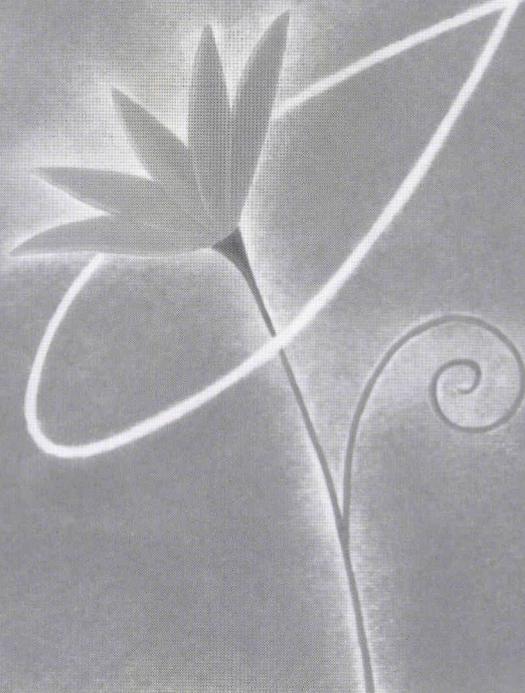


ジャック
Jack 21

英語 Vol.3

発展編



英語 Vol.3

解答・解説集

練成問題

P2 1

- | | | | | |
|--------|--------|--------|--------|--------|
| (1) イ | (2) ア | (3) ウ | (4) ア | (5) ウ |
| (6) イ | (7) イ | (8) エ | (9) エ | (10) イ |
| (11) イ | (12) ウ | (13) ウ | (14) ウ | (15) イ |
| (16) ウ | | | | |

訳と解説

- (1) 「朝遅くまで寝てはいけません。」*助動詞のうしろは動詞の原形。
- (2) 「外出してもよいが、5時までに帰宅しなければいけません。」《命令》
- (3) 「とても暖かいです。窓を開けてくれませんか。」《依頼》
- (4) 「ここでサッカーをしてもよいですか。」—「いいえ、いけません。」《許可》
- (5) 「(わたしが)窓を閉めましょうか。」—「はい、お願いします。」
- (6) 「わたしといっしょにコーヒーはいかがですか。」—「はい。」《勧誘》
- (7) 「あした、釣りに行きましょうか。」—「はい、そうしましょう。」*相手の意向をたずねる表現。
- (8) 「野球をしませんか。」* Let's の文の付加疑問文は、shall we を用いる。
- (9) 「あなたは今、その店に行く必要はありません。」
- (10) 「わたしはすぐに行かなければいけませんか。」—「いいえ、その必要はありません。」
- (11) 「わたしたちはここで待たなければいけませんか。」—「いいえ、その必要はありません。」
- (12) 「あなたはすぐに出発したほうがいい。」*《had better + 動詞の原形》
- (13) 「あなたはそこへ行かないほうがいい。」* had better の否定形は had better not の語順。
- (14) 「あなたは何本か虫菌があります。歯医者にみてもらうべきです。」
- (15) 「彼は毎週日曜日にわたしたちに会いに来たものです。」《過去の習慣》
- (16) 「わたしはその会議でタバコを吸わずにはいられませんでした。」

P3 2

- | | |
|-----------------------------------|--------------|
| (1) Shall we | (2) must not |
| (3) Will[Can / Would / Could] you | (4) has to |
| (5) don't have[need] to | (6) are able |
| (7) could | |

訳と解説

- (1) ㉔ 「きょうの午後、川へ釣りに行きましょう。」
㉕ 「きょうの午後、川へ釣りに行きましょうか。」
- (2) ㉔㉕ 「あなたに質問をします。本を見てはいけません。」
- (3) ㉔ 「その本を読み終わったあとわたしに貸してください。」
㉕ 「その本を読み終わったあとわたしに貸してくださいませんか。」*助動詞 would [could] は、will [can] の過去形のほかに、Would [Could] you ~? の形で《丁寧な依頼》を表す。
- (4) ㉔㉕ 「彼女はもっと一生懸命に英語を勉強しなければなりません。」
- (5) ㉔㉕ 「あなたはそれほど一生懸命に働く必要はありません。」
- (6) ㉔㉕ 「ケイトとわたしはフランス語を上手に話すことができます。」
- (7) ㉔㉕ 「わたしは昨夜、よく眠れませんでした。」

3

- | | | |
|-------------------------|-----------------------|-------------------------|
| (1) must not | (2) may look, mustn't | (3) Shall I, please |
| (4) should be | (5) cannot[can't] be | (6) will have to |
| (7) Do, have to | (8) would, take | (9) must be, had better |
| (10) cannot[can't] help | | |

解説

- (2) mustn't は must not の短縮形。発音注意 [mʌsnt]。
 (6) 助動詞(will)のうしろに助動詞(must)を続けることは

できないので、must のかわりに have to を用いて未来の文にする。

発展問題

1

P4

- | | | |
|----------------|-------------------------|-------------------------|
| (1) Shall I | (2) Shall we | (3) cannot[can't] write |
| (4) better not | (5) don't have[need] to | (6) must |
| (7) Nobody can | | |

訳と解説

- (1)Ⓐ 「あなたはわたしにあなたのかばんを運んでもらいたいですか。」
 Ⓑ 「(わたしが)あなたのかばんを運びましょうか。」
 (2)ⒶⒷ 「1時に昼食を食べましょうか。」 * Why don't we ~? は勧誘表現の1つ。
 (3)Ⓐ 「彼女にとって英語で手紙を書くことは難しい。」
 Ⓑ 「彼女は英語で手紙を書くことが簡単にはできません

ん。」

- (4)ⒶⒷ 「あなたは長い時間、テレビを見ないほうがよい。」
 (5)ⒶⒷ 「あなたはそのお金を支払う必要はありません。」
 * necessary 「必要な」
 (6)Ⓐ 「彼が病気であることは確かです。」
 Ⓑ 「彼は病気であるにちがいありません。」
 (7)Ⓐ 「だれにとってもその質問に答えるのは不可能です。」
 Ⓑ 「だれもその質問に答えられません。」

2

- | | | |
|------------------------------|------------------------|--------------------|
| (1) ought, as, can | (2) may be able | (3) had better not |
| (4) would like | (5) cannot[can't], too | (6) may well |
| (7) help laughing[but laugh] | | (8) used to |

解説

- (2) 助動詞(may)のうしろに助動詞(can)を続けることはできないので、can のかわりに be able to を用いる。

- (3) 「～しないほうがよい」は《had better not + 動詞の原形》で表す。

3

P5

- (1) Shall we buy a new bag for her?
- (2) (Mary) will be able to play the piano (next year.)
- (3) (You) had better take an umbrella with you as it may rain.
- (4) You had better not take a walk (late at night.)
- (5) I would like to live in the town some day.
- (6) She may well be proud of her daughter.
- (7) (My father) would often tell me to do my best.

解説

- (3) この with you の with は、《携帯》を表す。
(5) 「いつか」 some day

- (6) 「…を自慢する」 be proud of …
(7) 「…に～するように言う」 tell … to ～

4

- (1) She will be able to drive a car in a few weeks.
(2) I had to use English in that[the] country.
(3) You had better start[leave] as early[soon] as possible[you can].
(4) You[We] should not[shouldn't] make a noise in a[the] library.
* should not は ought not to も可。
(5) Will[Can / Would / Could] you bring me a cup[glass] of coffee?
[Would[Do] you mind bringing me a cup[glass] of coffee?]
(6) He must be sick[ill] in bed.

解説

- (4) 「～すべきでない」は、should not ～で表す。
(5) Would [Do] you mind ～ing? を用いてもよい。

- * 「1杯の…」 a cup[glass] of …
(6) 「病気で寝ている」 be sick[ill] in bed

練成問題

1

- (1) イ (2) ウ (3) ア (4) エ (5) ア
 (6) ウ (7) ウ (8) ア

訳と解説

- (1) 「太陽は地球より大きい。」
 (2) 「ジャックはわたしたちのクラスで最も速い走者です。」
 (3) 「彼女は先生と同じくらい上手にバイオリンを弾くことができます。」
 (4) 「わたしは四季の中で夏が1番好きです。」
 * 《like ... (the) best of [in] ~》「~の中で…が1番好きだ」
 (5) 「阿蘇山は浅間山ほど高くありません。」 * 《not as[so]

+原級+ as ...》「…ほど~ない」

- (6) 「わたしのおじはわたしの父より多くのお金を持っています。」 * 限定用法の形容詞を比較級で用いる場合は、《比較級+名詞+ than ~》の語順になる。
 (7) 「ロンドン是世界で最も大きな都市の1つです。」
 * 《one of the + 最上級+複数名詞》「最も…のうちの1つ」
 (8) 「できるだけ多くの本を読みなさい。」 * 《as ~ as - can》「できるだけ~」

2

- (1) tallest (2) earlier (3) (the) best
 (4) biggest (5) easier (6) happiest
 (7) hotter (8) the most useful (9) better
 (10) more interesting (11) countries (12) smaller, smaller
 (13) colder

訳と解説

- (1) 「トムはクラスの男の子全員の中で1番背が高い。」
 (2) 「グリーン夫人はグリーン氏より早く起きます。」
 * earlyのように、語尾が《子音字+y》の語の比較級・最上級は、yをiにかえてer, estをつける。
 (3) 「彼は男の子全員の中で最も上手にテニスをします。」
 * well - better - best
 (4) 「この木はこの公園で1番大きいです。」 * bigのように、語尾が《短母音+子音字》の語の比較級・最上級は、子音字を重ねてer, estをつける。
 (5) 「この本とあの本とでは、どちらのほうがやさしいですか。」
 (6) 「宏美はわたしのクラスの生徒全員の中で1番幸せな女の子です。」

- (7) 「今、沖縄は東京よりずっと暑い。」
 (8) 「これは5冊の中で最も役に立つ辞書です。」
 * usefulのような長いつづりの語の比較級・最上級はmore, mostを用いて作る。
 (9) 「健は太郎より野球をするのが上手です。」
 (10) 「『坊っちゃん』と『こころ』とでは、どちらのほうがおもしろいですか。」
 (11) 「オーストラリアは日本にとって最も重要な国の1つです。」
 (12) 「世界はますますせまくなってきています。」
 * 《比較級+ and +比較級》「だんだん~, ますます~」
 (13) 「高く登れば登るほど、ますます寒くなります。」
 * 《the + 比較級..., the + 比較級~》「…すればするほど, ますます~」

3

- (1) shorter, mine (2) not, as (3) younger
 (4) cannot[can't], well (5) longer than (6) best[most], all sports

- | | | |
|----------------|-----------------------|------------------|
| (7) more, than | (8) than any, student | (9) the, speaker |
| (10) best cook | (11) No other | (12) than, two |
| (13) by | (14) taller | (15) half |
| (16) you can | (17) to | (18) the best |

訳と解説

- (1) ① 「わたしの鉛筆はあなたのものより長い。」
 ② 「あなたの鉛筆はわたしのものより短い。」
- (2) ① 「地球は月より大きい。」
 ② 「月は地球ほど大きくない。」
- (3) ① 「メアリーはトムほど年をとっていない。」
 ② 「メアリーはトムより若い。」
- (4) ① 「孝は花子より上手にテニスをすることができます。」
 ② 「花子は孝ほど上手にテニスをすることができます。」
- (5) ① 「信濃川は日本で1番長い川です。」
 ② 「信濃川は日本の他のどの川よりも長い。」
- (6) ① 「わたしは他のどのスポーツよりもサッカーが好きです。」
 ② 「わたしはすべてのスポーツの中で1番サッカーが好きです。」
- (7) ① 「健康ほど大切なものはありません。」
 ② 「健康は他の何よりも大切です。」
- (8) ① 「クラスでビルほどハンサムな生徒はいません。」
 ② 「ビルはクラスで他のどの生徒よりもハンサムです。」
- (9) ① 「彼女はクラスで1番上手に英語を話せます。」
 ② 「彼女はクラスで1番上手な英語の話し手です。」
- (10) ① 「このクラスでサリーほど上手に料理ができる女の子

はいません。」

- ② 「サリーはこのクラスの女の子全員の中で料理が1番上手な人です。」
- (11) ① 「だれも今までにそんなに美しい人形を見たことはありません。」
 ② 「これほど美しい人形は他にありません。」
- (12) ① 「マイクはその3人の中で1番年上です。」
 ② 「マイクは他の2人より年上です。」
- (13) ① ② 「彼はあなたより3歳年上です。」 *この by は「…だけ」と《程度・差異》を表す前置詞。
- (14) ① 「ジャックは身長が5フィート6インチです。ヘンリーは5フィート4インチです。」
 ② 「ジャックはヘンリーより2インチ背が高い。」
 *1フィート = 30.48cm, 1インチ = 2.54cm
- (15) ① 「わたしの国はあなたの国の2倍の大きさです。」
 ② 「あなたの国はわたしの国の半分大きさです。」
- (16) ① ② 「できるだけ早くこの手紙を投函してください。」
- (17) ① 「わたしの父は犬よりもねこのほうが好きです。」
 ② 「わたしの父は犬よりねこを好みます。」 * prefer A to B 「BよりAを好む」
- (18) ① 「わたしは今までにこのようなよい物語を読んだことがありません。」 * such ~ as 「…のような~」
 ② 「これはわたしが今までに読んだ最もよい物語です。」

発展問題

P8 1

- | | | |
|----------------------|--------------------------|--------------------|
| (1) much[far] better | (2) one, most famous | (3) Nothing, more |
| (4) other, large | (5) times, heavy | (6) half, that |
| (7) prefer | (8) as[so] old as, looks | (9) second biggest |

解説

- (1) 比較級を強めて「ずっと~」という場合は much を用いる。
- (3) 完成する英文は「健康ほど大切なものはありません。」の意味。
- (4) 完成する英文は「琵琶湖ほど大きな湖は日本にありません。」の意味。
- (6) the population 「人口」という名詞の繰り返しを

避けるために、代名詞 that を用いて《that (= the population) of Japan》「日本のそれ」とすることに注意する。

- (8) 《not as [so] + 原級 + as …》「…ほど~ない」を用いる。「見かけほど」の部分は as のうしろに《主語 + 動詞》を続け、as it looks で表す。この look は「(…のように)見える」の意味。
- (9) 「…番目に~な」は《the + 序数詞 + 最上級》で表す。

2

- (1) Mike is the tallest boy in our class.
- (2) Roy does not[doesn't] study as[so] hard as you.
- (3) My sister can dance better than I (can).
- (4) Jack can run (the) fastest (of all the students) in our class.
- (5) Yoko is cleverer than any other girl in the class.
- (6) Mt. Fuji is higher than any other mountain in Japan.
[No (other) mountain in Japan is higher than Mt. Fuji.]

訳と解説

- (1) 「マイクはわたしたちのクラスで他のどの男の子よりも背が高い。」→「マイクはわたしたちのクラスで1番背の高い男の子です。」
- (2) 「あなたはロイより一生懸命勉強します。」→「ロイはあなたほど一生懸命勉強しません。」
- (3) 「わたしはわたしの姉[妹]ほど上手に踊れません。」
→「わたしの姉[妹]はわたしより上手に踊れます。」

- (4) 「ジャックより速く走れる生徒はわたしたちのクラスにはいません。」→「ジャックはわたしたちのクラス(の生徒全員の中)で1番速く走れます。」
- (5) 「洋子ほど賢い女の子はクラスにいません。」
→「洋子はクラスで他のどの女の子よりも賢い。」
- (6) 「富士山は日本のすべての山の中で1番高い。」→「富士山は日本で他のどの山よりも高い。」[「富士山より高い山は日本にはありません。」]

3

- (1) My mother gets up earliest in my family.
- (2) No one in my class speaks English better than that student.
- (3) He walked as fast as he could.
- (4) Nothing is more important than helping each other.
- (5) He has about three times as many books as I (do.)
- (6) (People) say the climate of Tokyo is much milder than that of New York.

P9

解説

- (2) 「あの学生ほど上手に英語を話す人はわたしのクラスにだれもいません。」という英文を完成させる。
- (3) 「できるだけ～」は《as ~ as - can》で表す。過去のことなので、can を過去形にする。

- (4) 「助け合うこと」は helping each other で表す。
* each other 「お互い」
- (5) 限定用法の形容詞なので、《as + 原級 + 名詞 + as》の語順となることに注意する。

4

- (1) Please speak more slowly. [Speak more slowly, please.]
- (2) We have more snow in February than in January.
- (3) My father is three years younger than your father.
[My father is younger than your father by three years.]
- (4) I want to buy a better dictionary than the[that] old one.
- (5) This morning, I got up earlier than usual(,) and took a walk.
- (6) It is getting warmer and warmer day by day.
- (7) Nothing is more important than to be honest.
[Nothing is so[as] important as to be honest.]

解説

- (2) 「2月に雪がたくさん降ります。」は We have much snow in February. と表す。これを比較級を用いて「1月」と比較する文にする。
- (4) 「その古い辞書よりよい(辞書)」は、「よい辞書」 a

good dictionary を比較級を用いた形にする。前に出た名詞は one で表す。

- (5) 「いつもより」 than usual, 「散歩をする」 take a walk

練成問題

1

P10

- (1) エ (2) ウ (3) イ (4) エ (5) ウ
 (6) ア (7) ウ (8) ウ

訳と解説

- (1) 「わたしはすでに宿題を終えました。」《完了》
 (2) 「わたしは1度もこんなに大きな建物を見たことはありません。」《経験》
 (3) 「彼はちょうど帰宅したところです。」《完了》
 (4) 「あなたはもう宿題をしましたか。」《完了》

- (5) 「わたしは彼女を知って10年になります。」《継続》
 (6) 「あなたは今までにアメリカへ行ったことがありますか。」《経験》
 (7) 「わたしはまだおばに手紙を書いていません。」《完了》
 (8) 「あなたはこの町にどのくらい住んでいますか。」《継続》

2

- (1) イ (2) ウ (3) イ (4) ウ (5) ウ
 (6) イ (7) イ

訳と解説

- (1) 「その図書館は1905年からそこにあります。」
 (2) 「わたしは京子を知って5年になります(わたしは京子を5年間知っています)。」
 (3) 「わたしは京都を3回訪れたことがあります。」
 * 空所の直後に Kyoto があるので、これを目的語にとることができる他動詞の visit を選ぶ。

- (4) 「トムは昨夜、その本を読みました。」
 * 過去を表す副詞(句)(ここでは last night)があるので、過去形の文になる。
 (5) 「彼女はきのう、その箱を作りました。」
 (6) 「父はちょうど今、帰宅しました。」
 (7) 「いつ彼は学校へ出発しましたか。」* leave for ... 「…へ向けて出発する」

3

P11

- (1) visited (2) lived (3) been (4) eaten (5) seen
 (6) heard (7) cleaned (8) met (9) known (10) left
 (11) stolen (12) written (13) came (14) spoken (15) been, been
 (16) came (17) saw

訳と解説

- (1) 「わたしは1度も北海道を訪れたことがありません。」
 (2) 「彼らは5年間、この町に住んでいます。」
 (3) 「あなたは今までにカナダへ行ったことがありますか。」
 (4) 「わたしたちはまだ夕食を食べていません。」
 (5) 「あなたは今までにこんなに大きな魚を見たことがありますか。」
 (6) 「わたしは長い間、彼から便りをもらっていません。」
 * hear from ... 「…から便りをもらう」
 (7) 「あなたはもう部屋を掃除しましたか。」
 (8) 「恵美、あなたはわたしの父に会ったことがあります

- か。」
 (9) 「わたしたちは子供のころからの知り合いです。」
 * each other 「お互い」
 (10) 「わたしの兄[弟]はちょうど学校へ出発したところですよ。」
 (11) 「だれかがわたしの腕時計を盗んでしまいました。」
 * steal - stole - stolen
 (12) 「わたしはちょうどマイクへ手紙を書いたところです。」
 (13) 「わたしは日本に来たときから、京都を訪れたいと思っています。」
 (14) 「あなたは今までにスミスさんと英語で話したことがあ

りますか。」

(15) 「どこへ行ってきたのですか。」—「図書館へ行ってきました。」

(16) 「わたしはちょうど今、帰宅しました。」

(17) 「わたしが彼に会ったとき、彼はギターを弾いていました。」

4

- | | |
|-------------------------------------|-------------------------|
| (1) Have, ever seen | (2) been to, once |
| (3) have just had[eaten / finished] | (4) has been[stayed] in |
| (5) has gone | (6) have lost |
| (7) Have, done[finished], yet | (8) How long, known |
| (9) have been | |

解説

(4) 「わたしのおじは2年間、中国にいます。」という英文を完成させる。

(8) 「あなたはどのくらいの間、正男を知っていますか。」という英文を完成させる。

P12 5

- | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|
| (1) エ | (2) ウ | (3) エ | (4) ウ | (5) エ |
| (6) ウ | (7) ア | | | |

訳と解説

- (1) 「あなたはどのくらい名古屋にいますか。」《継続》
 ア 「わたしはちょうど宿題を終えたところです。」《完了》
 イ 「わたしは今までにこんなに大きな建物を見たことはありません。」《経験》
 ウ 「わたしはペンをなくしてしまいました。」《結果》
 エ 「恵子と由美は知り合って5年になります。」《継続》
- (2) 「あなたは今までに酸性雨について聞いたことがありますか。」《経験》
 ア 「マイクは京都へ行ってしまいました。」《結果》
 イ 「わたしたちはもう教室の掃除をしました。」《完了》
 ウ 「わたしは1度も富士山に登ったことはありません。」《経験》
 エ 「わたしはきのうからずっと忙しい。」《継続》
- (3) 「だれかがわたしの新しい自転車を盗んでしまいました。」《結果》
 ア 「わたしの父は3回、オーストラリアへ行ったことがあります。」《経験》
 イ 「あなたはもうその本を読み終えましたか。」《完了》
 ウ 「あなたはどのくらい日本に住んでいますか。」《継続》
 エ 「わたしの父は会社へ行きました。」《結果》
- (4) 「わたしは1度も外国へ行ったことはありません。」《経験》
 ア 「彼らはちょうど日本に着いたところです。」《完了》

- イ 「わたしはカメラをなくしてしまいました。」《結果》
 ウ 「わたしは彼のお父さんに1度、会ったことがあります。」《経験》
 エ 「その少年はきのうから何も食べていません。」《継続》
- (5) 「わたしは長い間、この本を読みたいと思っています。」《継続》
 ア 「わたしは2回、京都を訪れたことがあります。」《経験》
 イ 「ケイトは郵便局へ行ってしまいました。」《結果》
 ウ 「わたしはまだレポートを書いていません。」《完了》
 エ 「ジャックは去年から北海道にいます。」《継続》
- (6) 「春が来ました。」《結果》
 ア 「メアリーはきのうから学校を休んでいます。」《継続》 * be absent from … 「…を欠席する」
 イ 「わたしはその市を2回、訪れたことがあります。」《経験》
 ウ 「わたしたちの市は大きくなりました。」《結果》
 エ 「あなたは今までに英語で手紙を書いたことがありますか。」《経験》
- (7) 「どこへ行ってきたのですか。」—「本屋へ行ってきました。」《完了》
 ア 「わたしはちょうどニュージーランドから帰ってきたところです。」《完了》
 イ 「わたしたちは3年間、山田さんに会っていません。」《継続》

ウ 「メアリーはどのくらい、病気で寝ていますか。」《継続》

エ 「わたしは何回もその美術館へ行ったことがあります。」《経験》 * many times 「何回も」

6

P13

- | | | |
|----------------------|-----------------------|---------------------|
| (1) has gone | (2) has lost | (3) have |
| (4) been, since | (5) has been, since | (6) have lived, for |
| (7) has been in, for | (8) have studied, for | (9) has, been |
| (10) heard from | | |

訳

- (1)㉔ 「彼はシンガポールへ行きました。だから、彼は今、ここにいません。」
㉕ 「彼はシンガポールへ行ってしまいました。」
(2)㉔ 「彼は傘をなくして、今は持っていません。」
㉕ 「彼は傘をなくしてしまいました。」
(3)㉔ 「わたしはカメラをなくしてしまいました。」
㉕ 「わたしはカメラをなくしたので、今、持っていません。」
(4)㉔ 「トムはきのう、忙しかった。彼は今もまだ忙しい。」
㉕ 「トムはきのうから忙しい。」
(5)㉔ 「彼女のおじさんは先週の土曜日に病気になり、まだ病気です。」
㉕ 「彼女のおじさんは先週の土曜日から病気です。」

- (6)㉔ 「彼らは10年前に大阪に来ました。彼らはまだ大阪に住んでいます。」
㉕ 「彼らは10年間、大阪に住んでいます。」
(7)㉔ 「わたしの兄[弟]は3か月前、北海道へ行き、まだそこにいます。」
㉕ 「わたしの兄[弟]は3か月間、北海道にいます。」
(8)㉔ 「わたしたちは3年前に英語の勉強を始め、今もまだ英語を勉強しています。」
㉕ 「わたしたちは3年間、英語の勉強をしています。」
(9)㉔ 「彼はその店へ行きました。彼は今、ここに戻ってきています。」
㉕ 「彼はその店にちょうど行ってきたところです。」
(10)㉔㉕ 「あなたはニューヨークにいるお父さんから手紙をもらいましたか。」

7

- | |
|---|
| (1) I have been ill for two weeks. |
| (2) She has been in Tokyo since last December. |
| (3) My father has been busy since yesterday. |
| (4) How long have you known him? |
| (5) How many times[How often] has he visited Australia? |
| (6) My children have gone to school. |
| (7) Susan has lost her pen. |

訳と解説

- (1) 「わたしは2週間前、病気になりました。わたしはまだ病気です。」 → 「わたしは2週間、ずっと病気です。」
(2) 「彼女は去年の12月に東京に来ました。彼女はまだ東京にいます。」 → 「彼女は去年の12月から東京にいます。」
(3) 「わたしの父はきのうから忙しい。」
(4) 「あなたは彼と知り合ってからどれくらいになるのです

か。」

- (5) 「彼は何回、オーストラリアを訪れたことがありますか。」
(6) 「子供たちは学校へ行きました。だから、今はここにいません。」 → 「子供たちは学校へ行ってしまいました。」
(7) 「スーザンはペンをなくしました。だから、今は持っていません。」 → 「スーザンはペンをなくしてしまいました。」

P14 1

- (1) How long, been (2) has been dead (3) have passed, died
 (4) haven't heard (5) How often have (6) ever heard

解説

- (1) 「あなたは日本にどのくらいいますか。」という英文を完成させる。
 (2) 「わたしのおばは5年間、亡くなっている状態です。」という英文を完成させる。
 (3) 「わたしの父が亡くなってから10年が経っています。」という英文を完成させる。

2

- (1) since (2) has been dead (3) ago
 (4) has passed (5) have, seen (6) hasn't written
 (7) have had (8) never[not] been (9) never, as
 (10) biggest, ever

訳と解説

- (1) ①② 「わたしの祖母が亡くなってから3年になります。」
 (2) ①② 「わたしの祖父が亡くなってから5年以上になります。」 * more than ... 「…以上」
 (3) ① 「わたしのおじが亡くなってから2年になります。」
 ② 「わたしのおじは2年前に亡くなりました。」
 (4) ①② 「わたしがフランスへ旅行に行ってから1年経っています。」 * take a trip to ... 「…へ旅行に行く」
 (5) ① 「最後に彼に会ってから長い間経っています。」
 ② 「長い間、彼に会っていません。」
 (6) ① 「わたしは長いこと彼から便りをもらっていません。」
 ② 「彼は長いことわたしに手紙を書いていません。」
 * write to ... 「…に手紙を書く」
 (7) ①② 「東京では2週間、雨が降っていません。」
- * 「雨が降る」は名詞 rain を用いて We have rain. のように表すことができる。
- (8) ① 「これはディックの初めての東京への旅行です。」
 ② 「ディックは以前に東京に行ったことが1度もありません。」
 (9) ① 「これは今までにわたしが読んだ中で1番おもしろい本です。」
 ② 「わたしはこれまでにこんなにもおもしろい本を読んだことがありません。」
 (10) ① 「わたしはこのような大きな犬を今まで見たことはありません。」 * この like は「…のような」という意味の前置詞。
 ② 「これはわたしが今までに見た中で1番大きな犬です。」

P15 3

- (1) I have been to the station to see her off.
 (2) Mike and I have known each other for three years.
 (3) (It) has been a long time since I saw you (last.)
 (4) How many times have you ever been to America?
 (5) Three years have already passed since that day.
 (6) How long has he been sick in bed?
 (7) (This is) the most beautiful picture I have ever seen.

解説

- (1) 「…を見送る」 see ... off
 (2) 「マイクとわたしはお互いに3年間、知っています。」という英文を完成させる。
 (3) 「最後にあなたに会ってから長い間経っています。」という英文を完成させる。
 (4) 「これはわたしが今まで見た中で1番美しい絵です。」という英文を完成させる。

4

- (1) We have not[haven't] seen[met] him for a long time.
- (2) Five years have passed since I came to Japan.
- (3) I hear (that) he has been absent from school for a week.
- (4) I have just been to the bookstore.
- (5) I have never seen such a large[big] fish (as this).
- (6) My grandmother has been dead for seven years.

解説

- (2) 「わたしが日本に来てから5年が経っています。」という英文を完成させる。

- (6) 「わたしの祖母は7年間、亡くなっている状態です。」という英文を完成させる。

練成問題

P16 1

- (1) ウ (2) イ (3) ア (4) イ (5) ウ
 (6) ア (7) イ (8) ア

訳と解説

- (1) 「彼は先生のように上手に英語を話せるようになりたいと思っています。」《名詞的用法》
 ア 「わたしは何か飲み物が欲しい。」《形容詞的用法》
 イ 「わたしの父はブラウンさんを訪ねるために札幌へ行く予定です。」《副詞的用法・目的》
 ウ 「彼は手紙を書くことが好きです。」《名詞的用法》
- (2) 「彼は再び歩き始めました。」《名詞的用法》
 ア 「彼女はあなたに会えて幸せでした。」《副詞的用法・原因》
 イ 「英語で手紙を書くことは簡単ではありません。」《名詞的用法》
 ウ 「京都には訪れるべき場所がたくさんあります。」《形容詞的用法》
- (3) 「彼女は留学することに決めました。」《名詞的用法》
 ア 「彼の希望は音楽家になることです。」《名詞的用法》
 イ 「わたしに何か食べるものをください。」《形容詞的用法》
 ウ 「彼女は貧しい人々を助けるために働いています。」《副詞的用法・目的》
- (4) 「ニューヨークには見るべき場所がたくさんあります。」《形容詞的用法》
 ア 「わたしは映画を見に行くことが好きです。」《名詞的用法》
 イ 「わたしたちには遊ぶ時間がありませんでした。」《形容詞的用法》
 ウ 「わたしはそれを聞いて悲しかった。」《副詞的用法・原因》
- (5) 「わたしはあなたにお話しすることがあります。」《形容

詞的用法》

- ア 「彼女はパンを買いにスーパーマーケットへ行きました。」《副詞的用法・目的》
 イ 「彼らは来年、日本を訪れたいと思っています。」《名詞的用法》
 ウ 「彼には話す友達がいません。」《形容詞的用法》
- (6) 「彼女は散歩をするために早起きました。」《副詞的用法・目的》 * take a walk 「散歩する」
 ア 「わたしは友達に会いに公園へ行きました。」《副詞的用法・目的》
 イ 「彼女は人形を作ることが好きです。」《名詞的用法》
 ウ 「東京には訪れるべき場所がたくさんあります。」《形容詞的用法》
- (7) 「彼女はボーイフレンドから手紙をもらい、とてもうれしかった。」《副詞的用法・原因》
 ア 「彼はとても大きな声で笑い始めました。」《名詞的用法》
 イ 「わたしはそのニュースを聞いてとても残念に思いました。」《副詞的用法・原因》
 ウ 「わたしはきょう、する仕事がたくさんあります。」《形容詞的用法》
- (8) 「彼は成長して偉大な政治家になりました。」《副詞的用法・結果》
 ア 「わたしの祖父は80歳まで生きました。」《副詞的用法・結果》
 イ 「彼女は何か冷たい飲み物を欲しがっていました。」《形容詞的用法》
 ウ 「わたしはケーキとクッキーを作ることが大好きです。」《名詞的用法》

P17 2

- (1) ア (2) ウ (3) エ (4) イ (5) イ
 (6) イ

訳と解説

- (1) 「わたしにはいっしょに遊ぶ友達がたくさんいます。」

* 「…といっしょに遊ぶ」は play with …なので、withが必要。

- (2) 「何か温かい飲み物をいただけませんか。」 * 《-thing + 形容詞 + to ~》の語順。
- (3) 「彼は旧友に会いに、オーストラリアへ行きました。」
- (4) 「わたしはそのニュースを聞いて驚きました。」

- (5) 「外は寒い。かぜをひかないように気をつけなさい。」
* 不定詞の否定形。
- (6) 「7月にこの川で泳ぐのは危険です。」 * 「この川で泳ぐ」は swim in this river なので、inが必要。

3

- (1) is to travel (2) many books to (3) nothing to eat
(4) lived to be

解説

- (1) 不定詞が補語の文。

- (3) 「何も…ない」は nothing を用いる。

4

- (1) To understand different cultures is important for us.
(2) He has a lot of things to do.
(3) (I) called her to ask about the (party.)
(4) He grew up to be a doctor.

解説

- (1) 不定詞が主語(ここでは To understand different

cultures)になる場合は単数扱いになることに注意する。

発展問題

1

P18

- (1) to do (2) to see (3) to hear
(4) to eat (5) nothing to (6) sad to
(7) likes[loves] to (8) so, could[would / might] (9) to be

訳と解説

- (1)Ⓐ 「わたしはきょう、たくさんの宿題をやらなければいけません。」
Ⓑ 「わたしはきょう、やるべき宿題がたくさんあります。」
- (2)ⒶⒷ 「わたしはいつか、またあなたに会いたい。」 * some day 「いつか」
- (3)ⒶⒷ 「彼が成功したという知らせを聞いて、わたしはとてもうれしく思いました。」
- (4)Ⓐ 「家に着いたとき、わたしはテーブルの上に食べ物を見つけました。」

- Ⓑ 「家に着いたとき、わたしはテーブルの上に食べるものを見つけました。」
- (5)Ⓐ 「わたしはきょうの午後、ひまです。」
Ⓑ 「わたしはきょうの午後、やることはありません。」
- (6)Ⓐ 「そのニュースは彼女を悲しくさせました。」
Ⓑ 「彼女はそのニュースを聞いて、悲しかった。」
- (7)ⒶⒷ 「わたしの姉[妹]は料理することがとても好きです。」 * be fond of … 「…が好きだ」
- (8)ⒶⒷ 「彼はその列車に乗るために駅へ走りました。」
- (9)ⒶⒷ 「わたしの祖母は95歳まで生きました。」

2

- (1) to write on (2) Don't forget (3) have, more careful not
(4) something hot to (5) surprised to hear (6) to say
(7) to

解説

- (1) ここでの「書くもの」は紙などを指すので、「…に書くものがない」と考え、nothing to write on とする。
- (2) 「毎日、英語を勉強することを忘れてはいけません。」と

いう英文を完成させる。

- (7) 「～する[した]最初の…」は the first … to ～で表すことができる。

P19 3

- (1) Will you come to my house to have dinner with us (tomorrow?)
- (2) (Would you) lend me something to write with (?)
- (3) My sister was very surprised to read E-mail from my mother.
- (4) (I) am looking for something interesting to read.
- (5) Kamakura has many beautiful places to visit.
- (6) We were pleased to hear that he was safe.
- (7) Be careful not to drop the vase.

解説

- (2) ここでの「書くもの」は筆記具を指すので、「…で書く」

と考え、something to write with とする。

- (4) 「…を探す」 look for …

4

- (1) I have no time to read a newspaper.
[I don't have (any) time to read a newspaper.]
- (2) I have nothing interesting to tell you.
[I don't have anything interesting to tell you.]
- (3) Many people lost their houses to live in.
- (4) She tried not to make a mistake.
- (5) He lived to be eighty-five years old.

解説

- (3) 「家に住む」は live in a house なので、in が必要。

練成問題

1

P20

- (1) ウ (2) ウ (3) イ (4) ウ (5) ウ
(6) ウ

訳と解説

- (1) 「わたしに駅への道を教えてくれるなんて、あなたはとても親切です。」
(2) 「わたしはあなたにあなたのことについて教えてもらいたいです。」
(3) 「彼はわたしに、彼に近づかないよう言いました。」

*不定詞の否定形。

- (4) 「彼女は兄[弟]に何を買えばよいのかわかりませんでした。」
(5) 「駅へはどう行けばいいのか、教えてくださいませんか。」
(6) 「きのうはとても寒くて、わたしたちは泳げませんでした。」

2

- (1) It, to (2) too, to (3) too, for
(4) that, can't[cannot], it (5) so, I couldn't (6) of you to
(7) of him to (8) so, that (9) tall enough

訳と解説

- (1)ⒶⒷ 「あの山に登ることは簡単ではありません。」
(2)ⒶⒷ 「わたしはとても忙しいので、あなたを訪問することができません。」
(3)ⒶⒷ 「とても寒いので、わたしは外で遊ぶことができません。」
(4)ⒶⒷ 「この問題はとても難しいので、わたしには解くことができません。」
(5)ⒶⒷ 「わたしはとても疲れていたので、昨夜は勉強でき

ませんでした。」

- (6)ⒶⒷ 「そう言ってくれるなんて、あなたはとても親切です。」
(7)ⒶⒷ 「そんな間違いをするなんて、彼は不注意でした。」
(8)ⒶⒷ 「わたしに道を教えてくれるなんて、彼女は親切でした。」
(9)Ⓐ 「彼はとても背が高いので、天井に手が届きます。」
* as は理由を表す接続詞。
Ⓑ 「彼は天井に手が届くほど背が高い。」

3

P21

- (1) important for you to (2) of[for] him to (3) wants me, eat
(4) what to say (5) learned how to drive (6) to
(7) too, for (8) old enough (9) enough to bring me water

解説

- (2) stupid 「愚かな」

- (8) 「彼の息子はこんな簡単なことを理解するのに十分な年齢です。」という英文を完成させる。

4

- (1) (It) is difficult to master English in one or two years.
(2) My mother wanted me to be a doctor like my father.
(3) Please tell me where to get the ticket.
(4) (This milk is) too hot for me to (drink.)
(5) He was kind enough to lend us his car.

解説

(1) 「1年や2年で」 in one or two years

(2) 「…のような」 like …

発展問題

P22 1

- (1) easy for, to (2) necessary for you (3) not to watch
- (4) want, to (5) how to (6) when to
- (7) kind enough to (8) as

訳と解説

- (1) ① 「彼はその本を簡単に読むことができます。」
② 「その本を読むのは、彼には簡単です。」
- (2) ①② 「あなたはきょう、彼を手伝う必要はありません。」
- (3) ① 「父はわたしに、『テレビを見てはいけません。』と言いました。」
② 「父はわたしに、テレビを見ないように言いました。」
- (4) ① 「7時にあなたを起こしましょうか。」 * wake … up
「…を起こす」
② 「あなたはわたしに7時に起こしてもらいたいです

か。」

- (5) ① 「その子供はコンピュータを使うことができます。」
② 「その子供はコンピュータの使い方を知っています。」
- (6) ① 「出発する時間をわたしに教えてください。」
② 「いつ出発すべきか、わたし教えてください。」
- (7) ① 「彼女は親切にもわたしに道を教えてくださいました。」
② 「わたしに道を教えてくれるなんて、彼女は親切でした。」
- (8) ①② 「わたしを駅まで連れていってくれるなんて、彼女は親切でした。」

2

- (1) which way to (2) enough, in
- (3) enough for anyone[anybody / everyone / everybody] to play
- (4) sure to

解説

- (1) 《which + 名詞 + to ~》の語順。
- (2) 「この家は住むのに十分広い。」という英文を完成させ

る。

- (3) 「このゲームはだれでもできるほどやさしい。」という英文を完成させる。

3

- (1) It is impossible for us to understand his English.
- (2) The weather was so bad that we could not[couldn't] swim.
- (3) He is rich enough to buy the car. [He is so rich as to buy the car.]

訳と解説

- (1) 「わたしたちは彼の英語を理解できません。」
→ 「彼の英語を理解することはわたしたちには不可能です。」

- (2) 「天気がとても悪かったので、わたしたちは泳げませんでした。」
- (3) 「彼はとてもお金持ちなのでその車を買えます。」
→ 「彼はその車を買うほどお金持ちです。」

4

- (1) I advised him not to tell a lie.
- (2) This book is small enough to put in our pocket.
- (3) Will you tell me which train to take?
- (4) It is time for little children to go to bed.
- (5) (It) was kind of you to help me.
- (6) I would like you to introduce Mary to my mother.
- (7) (This) problem is easy enough for you to solve.

解説

- (1) 「うそを言う」 tell a lie
- (2) 「この本はポケットに入れるのに十分小さい。」という英文を完成させる。
- (5) 「わたしを手伝ってくれるなんて、あなたは親切でし

た。」という英文を完成させる。

- (6) 「AをBに紹介する」 introduce A to B
- (7) 「この問題はあなたが解くには十分簡単です。」という英文を完成させる。

5

- (1) I want[would like] you to tell[show / teach] me how to use this machine.
- (2) I was too surprised to speak for a while.
- (3) She is old enough to travel alone.
- (4) He has enough money to buy the car.
- (5) It is a good habit to keep a diary before you go to bed.
* before you go to bed は before going to bed も可。
- (6) It is difficult to write English well, but it is more difficult to speak it well.

解説

- (2) 「口をきく」 → 「話す」 speak
- (4) 「買えるだけのお金」 → 「買うのに十分なお金」

- (5) keep a diary は write up your diary や write in your diary も可。

練成問題

P24 1

- | | | | | |
|--------|--------|--------|--------|--------|
| (1) ア | (2) ウ | (3) ウ | (4) ア | (5) ア |
| (6) ア | (7) ウ | (8) ウ | (9) エ | (10) ウ |
| (11) ウ | (12) イ | (13) ウ | (14) ア | (15) エ |
| (16) ウ | | | | |

訳と解説

- (1) 「スケートをすることはとても楽しい。」*主語の働きをする動名詞。
- (2) 「わたしの趣味はテニスをすることです。」*補語の働きをする動名詞。
- (3) 「辞書を使わずにこの雑誌を読むことができますか。」*前置詞のうしろは動名詞。
- (4) 「恵美は英語を話すことが上手です。」* be good at … 「…が上手である」
- (5) 「わたしはテニスをするのが好きです。」* be fond of … 「…が好きだ」
- (6) 「パーティーに招待していただきありがとうございます。」* Thank you for … 「…をありがとう。」, invite A to B 「AをBに招待する」
- (7) 「お店に買い物に行きましょう。」* go ~ing 「～しに行く」
- (8) 「わたしは彼と再び会うことを楽しみにしています。」* look forward to ~ing 「～するのを楽しみにして待つ」の to は前置詞。
- (9) 「彼は科学者になることを決心しました。」decide は不定詞のみを目的語にとる。
- (10) 「わたしはいつかニューヨークに行きたい。」* would like to ~ 「～したい」
- (11) 「ボブはピアノのレッスンを受けることを楽しんでます。」
- (12) 「その男の子は物語を読み終わりました。」
- (13) 「わたしの赤ん坊の世話をしていただけませんか。」《依頼》* take care of … 「…の世話をする」
- (14) 「けさ、雪が降りやみました。」* stop ~ing 「～するのをやめる」
- (15) 「彼は疲れていたので、コーヒーを1杯飲むために立ち止まりました。」* stop to ~ 「～するために立ち止まる」
- (16) 「あなたは先月、わたしと会ったことを覚えていますか。」* remember ~ing 「〔過去において〕～したことを覚えている」

P25 2

- | | | |
|----------------------------|---------------------|----------------|
| (1) Collecting[To collect] | (2) making[to make] | (3) leaving |
| (4) using | (5) crossing | (6) swimming |
| (7) driving | (8) dropping | (9) singing |
| (10) coming | (11) shopping | (12) laughing |
| (13) buying | (14) seeing | (15) traveling |
| (16) lying | (17) to help | (18) singing |

訳と解説

- (1) 「日本の切手を収集することはわたしの父の趣味です。」*動名詞も不定詞も主語の働きをする。
- (2) 「わたしの兄〔弟〕は模型の船を作ることが好きです。」* like は動名詞も不定詞も目的語にとる。
- (3) 「家を出る前にわたしに電話をしてください。」
- (4) 「辞書を使わずにこの本を読むことができますか。」
- (5) 「通りを渡るときには注意なさい。」* in ~ing 「～するときに」
- (6) 「ジョンは水泳がとても得意です。」
- (7) 「母は車を運転することを恐れていました。」* be afraid of … 「…を恐れる」

- (8) 「本屋へ立ち寄るのはどうですか。」
 (9) 「わたしは歌うのがへたです。」
 (10) 「わたしに会うために来てくれてありがとうございます。」
 (11) 「あなたはきのう、買い物に行きましたか。」
 (12) 「彼女は彼のことを笑わずにはいられませんでした。」
 (13) 「わたしは新しいカメラを買おうと考えています。」
 (14) 「わたしは彼に再び会うことを楽しみにしています。」

- (15) 「ジャックは1人で旅行することに慣れてしています。」
 (16) 「彼らは草の上に横たわることを楽しみました。」
 * lie の～ing 形は lying となることに注意。
 (17) 「あなたにきょうの午後、わたしの宿題を手伝ってほしい。」
 (18) 「ここで歌うのをやめてください。わたしの赤ちゃんが眠っています。」

3

- (1) Getting up (2) in listening (3) good at
 (4) in catching (5) fond of (6) going
 (7) without visiting

訳と解説

- (1)①② 「朝早く起きることはあなたの健康にとってよい。」
 (2)① 「彼女はラジオを聞くことが好きです。」
 ② 「彼女はラジオを聞くことに興味があります。」
 * be interested in … 「…に興味がある」
 (3)① 「わたしの母はとても上手に料理します。」
 ② 「わたしの母は料理するのがとても上手です。」
 (4)① 「トムは大きな魚を捕まえることができました。」
 ② 「トムは大きな魚を捕まえることに成功しました。」

* succeed in … 「…に成功する」

- (5)①② 「わたしの父は釣りが好きです。」
 (6)①② 「家に帰る前にあなたはそれをしなければなりません。」
 (7)① 「彼はわたしの家の近くまで来たものの、わたしを訪ねませんでした。」
 ② 「彼はわたしを訪れることなくわたしの家の近くまで来ました。」

発展問題

1

- (1) How, having (2) visit, before leaving (3) stop reading
 (4) on working (5) On (6) opening

訳と解説

- (1)①② 「公園で昼食をとるのはどうですか。」
 * Let's ~. = How about ~ing? = Shall we ~?
 (2)① 「祖母はローマを訪れることなしにイタリアを立ちたくありませんでした。」
 ② 「祖母はイタリアを立つ前にローマを訪れたいと思っていました。」
 (3)① 「彼はその物語を読み続けました。」 * continue to

～ 「～し続ける」

- ② 「彼はその物語を読むのをやめませんでした。」
 (4)①② 「彼らは長い時間、働き続けました。」
 * go on ~ing 「～し続ける」
 (5)①② 「警官を見かけるとすぐにその男性は逃げ出しました。」 * on ~ing 「～するとすぐに」
 (6)① 「窓を開けてもいいですか。」
 ② 「窓を開けてもかまいませんか。」 * 《許可》を求める表現。

2

- (1) looking forward to calling (2) at driving
 (3) in crossing (4) could, help laughing * help laughing は but laugh も可。

- (5) before going (6) calling (7) never goes skiing
 (8) went[kept] on (9) visiting

解説

- (1) 「〔人〕を訪れる」 call on …
 (6) 《依頼》の表現。

- (8) all night (long) 「一晩中」
 (9) 「～する価値がある」 worth ～ing

P27 3

- (1) Making a good speech needs a lot of practice.
 (2) The doctor advised me to stop drinking coffee.
 (3) I went out after calling you.
 [After calling you, I went out.]
 (4) Thank you for helping me with my homework.
 (5) They weren't afraid of losing the game.
 (6) She is interested in taking care of old people.
 (7) I'm looking forward to talking[speaking] with him again.
 (8) How about coming to see me with your (brother?)
 (9) Would you mind showing me around the town?
 (10) The snow kept the train from leaving the station.
 (11) (I) cannot see you without remembering your mother.
 (12) I want you to finish doing the work in a few days.

解説

- (1) 「人前で上手に話をする事」を動名詞を用いて主語にする。
 (4) 「(人)の…を手伝う」《help + 人 + with …》
 (9) Would you mind ～ing? は依頼表現ではあるが、「～するのを気にしますか。」の意味を表すので、pleaseは用いない。* 「～に…を案内する」 show ～ around …

- (10) 「雪がその列車が駅を出発することを妨げました。」という英文を完成させる。
 * 「…が～するのを妨げる」 keep … from ～ing
 (11) 「会うと必ず思い出す」→「思い出すことなしに会うことはできない」と考える。
 (12) want - to ～の形にする。

練成問題

1

P28

- (1) イ (2) ウ (3) ア (4) イ (5) イ
 (6) イ (7) イ (8) イ (9) ウ

訳と解説

- (1) 「次のバスが来るまで待ちましょう。」
 (2) 「彼はよくそをつくので、わたしは彼が好きではありません。」*このasは《理由》を表す。
 (3) 「わたしは彼に日本料理が好きかどうかたずねました。」
 (4) 「わたしが彼から最後に便りをもらってから3年になります。」*sinceは「…以来」の意味。《It is + 年[月など] + since …》の形で、「…して以来～年[月]たつ」という意味。
 (5) 「彼はとても疲れているので歩き続けられませんか。」
 *《so … that …》「とても…なので～」、walk on 「歩

き続ける」

- (6) 「バスに間に合うように早起きしなさい。」
 *《so that - may[can]…》「～ができるように」、
 be in time for … 「…に間に合う」
 (7) 「わたしはトムを訪問しましたが、彼は家にいませんでした。」
 (8) 「急ぎなさい、さもないと遅れますよ。」
 *《命令文…、or …》「…しなさい、さもないと～。」、
 hurry up 「急ぐ」
 (9) 「彼は水曜日が金曜日のどちらかにここに来ます。」
 *《either A or B》「AかBのどちらか」

2

- (1) エ (2) ア (3) カ (4) ウ (5) イ
 (6) オ

訳と解説

- (1) 「もし一生懸命に勉強しなければ成功しないでしょう。」
 * unlessは「もし～しなければ」の意味。
 (2) 「もし彼が忙しければ、わたしは彼を手伝うつもりです。」
 (3) 「雨が激しく降っていたので、彼は外出するのをやめました。」* go out 「外出する」

- (4) 「彼は子供だったけれども、その状況が理解できました。」
 (5) 「わたしは彼にそこへ行きたいかどうかたずねました。」
 *このifはwhetherと同じく「…かどうか」の意味で、
 名詞節を導く。
 (6) 「彼は日本にいる間に、何度も京都を訪れました。」
 * many times 「何度も」

3

P29

- (1) I knew Mike had a lot of old coins.
 (2) I thought she would pass the examination.
 (3) He went to the station so that he might see his father off.
 (4) Mr. Tanaka taught the students that the earth is round.

訳と解説

- (1) 「わたしはマイクがたくさん古い硬貨を持っているのを知っていました。」
 (2) 「わたしは彼女がその試験に合格するだろうと思いました。」*従属節に助動詞が含まれる場合は、時制の一致

は助動詞を過去形にする。

- (3) 「彼は父親を見送りに駅へ行きました。」* mayの過去形はmightである。
 (4) 「田中先生は生徒たちに地球は丸いと教えました。」*時制の一致の例外(=不変の真理)。

- | | | |
|----------------------|----------------|----------------|
| (1) Though[Although] | (2) If you | (3) while |
| (4) When, years old | (5) unless | (6) As soon as |
| (7) so, not | (8) or | (9) both, and |
| (10) as well as | (11) both, and | |

訳と解説

- (1) ㉠ 「彼は金持ちだったが、幸せではありませんでした。」
 ㉡ 「彼は金持ちだったけれども、幸せではありませんでした。」
- (2) ㉠ 「あした、また来なさい、そうすればわたしの姉[妹]に会えるでしょう。」
 ㉡ 「もしあした、また来れば、わたしの姉[妹]に会えるでしょう。」
- (3) ㉠ 「彼女はパリに滞在中にフランス語を一生懸命勉強しました。」 * during は前置詞。
 ㉡ 「彼女はパリにいる間に、フランス語を一生懸命勉強しました。」 * 句を節にする問題。while は接続詞。《主語＋動詞》が続く。
- (4) ㉠ ㉡ 「10歳のときに彼はパリへ行きました。」 * 句を節にする問題。at the age of …は「…歳のとき」という意味で、同じ内容は when を用いた節で表すことができる。
- (5) ㉠ ㉡ 「もしわたしの車を返してくれないのなら、警察を呼びますよ。」
- (6) ㉠ 「わたしはホテルに着いて、すぐに寝ました。」 * get to … 「…に到着する」
 ㉡ 「わたしはホテルに着くとすぐに、寝ました。」 * as soon as … 「…するとすぐに」
- (7) ㉠ 「そのコーヒーは、わたしが飲むには熱すぎました。」
 ㉡ 「そのコーヒーはとても熱かったので、わたしは飲めませんでした。」 * 《too … (for -) to ~》「(-が)～するには…すぎる」は、《so … that - can't ~》を用いて書きかえられる。
- (8) ㉠ 「もしタクシーに乗らなければ、試験に遅れるでしょう。」 * be late for … 「…に遅れる」
 ㉡ 「タクシーに乗りなさい、さもないと試験に遅れるでしょう。」
- (9) ㉠ 「彼はテニスをします。彼は野球もします。」
 ㉡ 「彼はテニスと野球の両方をします。」 * 《both A and B》「AもBも両方とも」
- (10) ㉠ 「スミスさんはゴルフだけでなくテニスもします。」 * 《not only A but (also) B》「AだけでなくBも」
 ㉡ 「スミスさんはゴルフはもちろんテニスもします。」 * 《B as well as A》「Aと同様Bも」
- (11) ㉠ 「彼には名声と同様に富もあります。」
 ㉡ 「彼には名声と富の両方があります。」

発展問題

- | | | |
|----------------------|---------------------------|---------------------------|
| (1) Though[Although] | (2) before, gets[becomes] | (3) Hurry, or |
| (4) both, and | (5) As soon as | (6) either, or |
| (7) since, saw[met] | (8) while | (9) well |
| (10) afraid that | (11) was | (12) if[whether], will be |
| (13) so that | (14) neither, nor | (15) if it is |
| (16) that he took | (17) but, was | |

解説

- (1) have a cold 「かぜをひいている」
- (2) 「～しないうちに」→「～する前に」と考える。時を表す副詞節中では未来の内容も現在形で表すことに注意する。
- (5) as soon as … 「…するとすぐに」 * struck は strike 「打つ」の過去形。
- (9) 「持っていない」と否定の意味なので、no pen, no pencil となっていることに注意。
- (10) 「[望ましくないこと]を思う」は、I am afraid (that) …で表すことができる。afraid は that 節を従えることができる形容詞の1つである。
- (11) 主節の時制が過去(knew)なので、従属(名詞)節の動詞は時制の一致を受ける。

- (12) if[whether]以下は副詞節ではなく名詞節なので、未来の内容を表すには will などを用いる。
- (15) この if 節は条件を表す副詞節なので、未来の内容も現在形で表す。

- (16) take off … 「…を脱ぐ」
- (17) not only A but (also) B が主語になる場合は、動詞は B の人称・数に一致させる。

2

P31

- (1) My sister was so busy that she didn't go skiing (with us.)
- (2) Let's go back before it begins to rain.
- (3) As soon as he left (high school, he went to Australia.)
- (4) (She) said that she wanted to go there.
- (5) Who will take care of the dog while you're away (next week?)

解説

- (4) 日本語は「行きたい」となっているが、ここでは時制の一致を受けるので過去形で表す。
- (5) 「…の世話をする」 take care of …

3

- (1) When we got[arrived] home, it began[started] raining[to rain].
- (2) He was so tired that he could not[couldn't] swim across the river.
[He was too tired to swim across the river.]
- (3) It is[has been] two years since I last heard[got a letter] from him.
* last は文末に置いても可。
- (4) Though[Although] it was raining hard[heavily], they went out.
[It was raining hard[heavily], but they went out.]
- (5) She is not only kind but (also) honest.
- (6) I left home at eight so[in order] that I could[might] catch[be in time for] the bus.
- (7) If you don't change your mind, you will fail (in) the examination.
[Unless you change your mind, you will fail (in) the examination.]
- (8) The American asked me if[whether] I could speak English (or not).

解説

- (3) 「…から便りをもらう」 hear from …
- (6) 「[列車など]に間に合う」は catch …, または be in time for …で表すことができる。
- (8) if[whether] 節中の(助)動詞が時制の一致を受けることに注意する。

練成問題

P32 1

- (1) 2 彼は立派な科学者になりました。
- (2) 4 父は昨夜、わたしたちにおもしろい話をしてくれました。
- (3) 1 鳥は森の中でさえずります。
- (4) 5 彼女はいつも、部屋をきれいにしておきます。
- (5) 2 君は赤いドレスを着るとかわいく見えます。
- (6) 3 わたしは歌うことが好きです。
- (7) 1 彼は昨年、アメリカ合衆国に住んでいました。
- (8) 4 わたしはあなたにかわいいドレスを作りましょう。
- (9) 5 わたしたちは東京ドームをビッグエッグと呼びます。
- (10) 1 わたしの姉[妹]は今、庭にいます。
- (11) 1 博物館にはたくさんの人がいました。
- (12) 5 その知らせは彼をうれしくさせるでしょう。
- (13) 2 暖かくなってきています。
- (14) 3 わたしはきのう、おじから手紙を受け取りました。
- (15) 4 わたしは毎朝、犬に水をあげます。
- (16) 5 わたしたちは娘をメアリーと名づけました。

解説

- (1) he = a great scientist なので SVC の文。
- (2) 「～に(us)…を(an interesting story)」の語順なので SVOO の文。last night は修飾語句。
- (3) in the woods は修飾語句なので SV の文。
- (4) her room = clean なので SVOC の文。always は修飾語。
- (5) you = pretty なので SVC の文。in a red dress は修飾語句。
- (6) to 不定詞は like の目的語になっているので SVO の文。
- (7) in the Unites States, last year はそれぞれ修飾語句なので SV の文。
- (8) 「～に(you)…を(a pretty dress)」の語順なので SVOO の文。この make は「～に…を作ってやる」の意味。
- (9) Tokyo Dome = Big Egg なので SVOC の文。
- (10) in the yard, now はそれぞれ修飾語(句)なので SV の文。
- (11) There is[are]…の文なので第 1 文型(S = many people, V = were)。in the museum は修飾語句。
- (12) him = happy なので SVOC の文。ここでの make は「～を…にする」の意味。
- (13) it = warm なので SVC の文。it は天候を表す主語。
- (14) I ≠ a letter なので SVO の文。from my uncle, yesterday はそれぞれ修飾語(句)。
- (15) 「～に(my dog)…を(water)」の語順なので SVOO の文。every morning は修飾語句。
- (16) our daughter = Mary なので SVOC の文。

P33 2

- | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|
| (1) イ | (2) ア | (3) ウ | (4) ウ | (5) ア |
| (6) ア | (7) イ | (8) イ | (9) ア | |

訳と解説

- (1) 「彼は幸せに見えました。」 * SVC の文。《look + 形容詞》で「…に見える」という意味。happily は副詞。happiness は「幸せ」という意味の名詞。look at … は「…を見る」という意味。
- (2) 「彼女の歌は美しく聞こえました。」 * SVC の文。《sound + 形容詞》で「…に聞こえる」という意味。sweetly は副詞。the がないので sweet の最上級 sweetest は不可。
- (3) 「赤ちゃんが寝ています。静かにしてください。」 * SVC の文。《keep + 形容詞》で「…のままにいる」という意味。quietly は副詞。much は比較級を強調するので much quiet は不可。

- (4) 「わたしは彼が親切だと思いました。」 * SVOC の文。kindly は副詞, kindness は「親切さ」という意味の名詞。
- (5) 「彼は子供たちに何かを買ってあげました。」 (= He bought his children something.)
- (6) 「あなたにわたしの家族の写真を送ります。」 (= I'll send you a picture of my family.)
- (7) 「この絵が欲しいならば、あなたにそれをあげましょう。」 * 直接目的語が代名詞 it の場合には、ふつう第4文型はとらない。(×) I'll give you it.
- (8) 「そのゲームで遊びたいならば、あなたにそれを貸してあげましょう。」
- (9) 「母はわたしにコーヒーを1杯いれてくれました。」 (= My mother made me a cup of coffee.)

3

- (1) looked, happy[glad] (2) turn[become] yellow (3) teaches music to us
 (4) bought the dictionary for (5) you tell[give], address (6) do, call
 (7) keep, clean (8) leave, open

解説

- (3) teach … to ~ を用いて第3文型の文を作る。
 (4) buy … for ~ を用いて第3文型の文を作る。
 (6) you は一般的な「人々」を表す。

- (7)(8) 第5文型の文。命令文なので S は省略。意図的に「…にしておく」ことを表すには keep を、今までの状態を放っておくことを表すには leave を用いる。

発展問題

1

- (1) Kyoto has (2) are there (3) had, snowed
 (4) mine (5) taught me (6) good singer
 (7) careful driver (8) for me (9) to me
 (10) made (11) made him (12) makes us
 (13) do, call (14) him strong (15) this book interesting
 (16) lead[take] (17) What brought

訳と解説

- (1) ① ② 「京都には見るべき場所がたくさんあります。」 * There is[are] … in A. = A have[has] … 「A には…があります。」
- (2) ① 「あなたは自分の部屋に何冊の本を持っていますか。」
 ② 「あなたの部屋には何冊の本がありますか。」
- (3) ① ② 「先週、東京に雪が降りました。」 * 「雪が降る」は、名詞 snow を用いて We have snow. または、天候を表す it と動詞 snow を用いて It snows. のように表すことができる。
- (4) ① ② 「この本はわたしのものです。」 * belong to … 「…

- に属する」
- (5) ① 「ホワイト先生はわたしのフランス語の先生でした。」
 ② 「ホワイト先生はわたしにフランス語を教えてくださいました。」
- (6) ① 「彼は上手に歌います。」
 ② 「彼は上手な歌手です。」
- (7) ① 「父は慎重に運転をします。」
 ② 「父は慎重な運転手です。」
- (8) ① ② 「おじはわたしに模型飛行機を買ってくれました。」
- (9) ① ② 「今年の夏、健はわたしにカナダからはぎを送ってくれました。」

練成問題

1

P36

- (1) ア (2) ウ (3) エ (4) オ (5) カ

訳と解説

- (1) 「その本は世界中で読まれています。」
 (2) 「この橋は6年前に造られました。」
 (3) 「多くのライオンがこの地域で見つかります。」
 (4) 「この花は英語で何と呼ばれていますか。」*疑問詞

Whatは補語になっている。Whatのあとに疑問文を続ける。

- (5) 「この大きな家を建てるために何本の木が使われましたか。」

2

- (1) were painted[drawn] by (2) written in (3) be invited
 (4) will be built (5) be finished[done] (6) be seen
 (7) was given to, by (8) Are, spoken (9) Was, room cleaned
 (10) Is, interested

解説

- (2) 「(やさしい)英語で」 in (easy) English
 (3)~(6) 助動詞を含む文の受動態は《助動詞+be+過去分詞》の形。

(3) 「…を招待する」 invite …

(7) 空所の数から判断し、to me とする。

(10) 「…に興味がある」 be interested in …

3

P37

- (1) is loved (2) was, her (3) were taken by
 (4) is spoken (5) can be seen (6) was given to
 (7) be kept (8) be elected (9) Were, written
 (10) is spoken (11) were (12) is, called
 (13) were, taken (14) took us (15) do
 (16) Do, sell (17) Did, paint (18) did not read

訳と解説

- (1)① 「みんなわたしの息子を愛しています。」
 ② 「わたしの息子はみんなに愛されています。」
 (2)① 「彼女がこの人形を作りました。」
 ② 「この人形は彼女によって作られました。」
 (3)① 「わたしのおじが3年前にこれらの写真を撮りました。」
 ② 「これらの写真は3年前にわたしのおじに撮られました。」
 (4)① 「オーストラリアでは英語を話します。」
 ② 「オーストラリアでは英語が話されます。」*「一般的

な人々」なのでby themは省略する。

(5)① 「夜には、わたしたちは空に星を見ることができます。」

② 「夜には、星が空に見えます。」

(6)① 「父がわたしにすてきな腕時計をくれました。」*第4文型の文。

② 「すてきな腕時計が父によってわたしに与えられました。」*空所の数から判断し、to me とする。My father gave a nice watch to me. の受動態と考えてもよい。

(7)① 「台所をきれいにおこななければなりません。」

*第5文型の文。

- ① 「台所はきれいにされておかなければなりません。」
- (8)a 「生徒たちは彼を議長に選ぶでしょう。」 *第5文型の文。
 ① 「彼は生徒たちによって議長に選ばれるでしょう。」
- (9)a 「漱石がそれらの本を書いたのですか。」
 ① 「それらの本は漱石によって書かれたのですか。」
- (10)a 「あの国では何語を話すのですか。」
 ① 「あの国では何語が話されているのですか。」
- (11)a 「これらのケーキをいつ作ったのですか。」
 ① 「これらのケーキはいつ作られたのですか。」
- (12)a 「この列車を何と呼びますか。」
 ① 「この列車は何と呼ばれますか。」
- (13)a 「これらの写真をどこで撮りましたか。」
 ① 「これらの写真はどこで撮られましたか。」
- (14)a 「この前の日曜日、わたしたちは両親に東京ディズニーランドに連れていってもらいました。」 *受動態から

能動態への書きかえ。

- ① 「この前の日曜日、両親はわたしたちを東京ディズニーランドに連れていってくれました。」
- (15)a 「その仕事は彼によってなされるべきです。」 *受動態から能動態への書きかえ。
 ① 「彼がその仕事をするべきです。」
- (16)a 「砂糖はあの店で売られていますか。」 *受動態から能動態への書きかえ。
 ① 「砂糖をあの店で売っていますか。」
- (17)a 「これらの絵は彼によって描かれたのですか。」 *受動態から能動態への書きかえ。
 ① 「彼がこれらの絵を描いたのですか。」
- (18)a 「この本は父によって読まれました。」 *受動態から能動態への書きかえ。
 ① 「父はこの本を読みませんでした。」

- (1) These computers are used (by us) every day.
 (2) This letter was written by Mr. White yesterday.
 (3) The cake was cut into eight pieces by my mother.
 (4) I was spoken to by a stranger on my way to school.
 (5) Was this picture taken by your brother?
 (6) When was this car found by Mr. Green?
 (7) What is this flower called in English?
 (8) His aunt gave the toy to him. [His aunt gave him the toy.]
 (9) Do they[you] speak English in Canada?

訳と解説

- (1) 「わたしたちは毎日、これらのコンピュータを使います。」
 → 「これらのコンピュータは毎日、(わたしたちによって)使われます。」 * by us は省略可。
- (2) 「きのう、ホワイトさんはこの手紙を書きました。」
 → 「きのう、この手紙はホワイトさんによって書かれました。」
- (3) 「母はそのケーキを8つに切りました。」 → 「そのケーキは母によって8つに切られました。」
 * cut の活用は cut - cut - cut。
- (4) 「登校中、見知らぬ人がわたしに話しかけました。」
 → 「登校中、わたしは見知らぬ人に話しかけられました。」
 * speak to … 「…に話しかける」, on one's way to … 「…への途中で」

- (5) 「あなたのお兄[弟]さんがこの写真を撮りましたか。」
 → 「この写真はあなたのお兄[弟]さんによって撮られましたか。」
- (6) 「グリーンさんはいつこの車を見つけたか。」
 → 「この車はいつグリーンさんによって見つけられましたか。」
- (7) 「英語でこの花を何と呼びますか。」 → 「英語でこの花は何と呼ばれますか。」 * by you は省略。
- (8) 「そのおもちゃは彼のおばさんによって彼に与えられました。」 → 「彼のおばさんがそのおもちゃを彼に与えました。」 *前置詞 to を用いて第3文型か、または第4文型に書きかえることができる。
- (9) 「カナダでは英語が話されますか。」 → 「カナダでは英語を話しますか。」 *適当な主語を補う。

- (1) More than ten passengers were killed in the car accident.
 (2) The lost child will be found by the police officer.
 (3) (This PC) has not been used (for years.)
 (4) Is wine sold at that store?
 (5) What is this bird called in English?

解説

- (1) 事故や戦争などで「死ぬ」という場合は、ふつう be killed で表す。* kill … 「…を殺す」
 (2) 未来の受動態《will be + 過去分詞》。* 「迷子」lost

child

- (3) 現在完了の受動態の否定文は、《have[has] not been + 過去分詞》の形。

発展問題

1

P39

- (1) were (2) will be taught (3) known to
 (4) not be spoken (5) be kept (6) laughed at by
 (7) By whom was (8) Who[Whom], made by (9) at
 (10) was, surprised (11) covered with (12) was invited
 (13) was made from (14) born on (15) old
 (16) ought[has], be changed

訳と解説

- (1) ㉔ 「先週、友子はたくさんの本を読みました。」
 ㉕ 「先週、たくさんの本が友子によって読まれました。」
 (2) ㉔ 「ホワイト先生が英語を教えるでしょう。」
 ㉕ 「英語はホワイト先生によって教えられますでしょう。」
 (3) ㉔ 「みんながその都市の名前を知っています。」
 ㉕ 「その都市の名前はみんなに知られています。」
 * be known to … 「…に知られている」
 (4) ㉔ 「あなたはこの部屋の中では日本語を話してはいけません。」
 ㉕ 「日本語はこの部屋の中では話されてはいけません。」
 (5) ㉔ 「あなたは自分の部屋をきれいにしておかなければなりません。」
 ㉕ 「自分の部屋はきれいにされておかなければなりません。」
 (6) ㉔ 「彼らは彼を笑いました。」
 ㉕ 「彼は彼らによって笑われました。」 * at を落とさないように注意する。
 (7) ㉔ 「だれがアメリカを発見しましたか。」
 ㉕ 「だれによってアメリカは発見されましたか。」
 (8) ㉔ 「だれがそのような間違いをしましたか。」
 ㉕ 「だれによってそのような間違いはされましたか。」
 (9) ㉔ 「わたしは彼らが突然わたしを訪れてきたことに驚きました。」
 ㉕ 「わたしは彼らの突然の訪問に驚きました。」
 * be surprised at … 「…に驚く」
 (10) ㉔ 「その戦争に関するニュースはわたしにとって大きな驚きでした。」 * この surprise は名詞。
 ㉕ 「わたしはその戦争に関するニュースにとっても驚きました。」
 (11) ㉔ 「地面一面に雪があります。」 * all over … 「…の至る所、…の一面に」
 ㉕ 「地面は雪でおおわれています。」 * be covered with … 「…でおおわれている」
 (12) ㉔ 「彼女は太郎に彼女の誕生会の招待状を送りました。」
 ㉕ 「太郎は彼女の誕生会に招待されました。」 * invite A to B 「A を B に招待する」
 (13) ㉔ 「ここでイチゴからジャムを作りました。」 * make A into B 「A を加工して B にする」
 ㉕ 「ここでジャムがイチゴから作られました。」
 * be made from … 「…から作られる」
 (14) ㉔ 「9月23日は彼女の誕生日です。」
 ㉕ 「彼女は9月23日に生まれました。」 * 日付を表す前置詞は on。

- (15)④ 「この建物は 80 年前に建てられました。」
 ⑤ 「この建物は建てられてから 80 年になります。」
 (16)④ 「会議の期日を変更すべきです。」

- ⑤ 「会議の期日は変更されるべきです。」 * should =
 ought to

P40 2

- (1) Nothing about the country is known to them.
 (2) His name wasn't [was not] known to us.
 (3) Was he elected captain by them?
 (4) The radio will be listened to by the boy.
 (5) The room should be kept clean (by you).
 (6) Our health must be taken care of (by us).
 (7) Why were you laughed at by them?
 (8) By whom was the window broken? [Who [Whom] was the window broken by?]
 (9) Many letters have been written by him.
 (10) We were surprised at the news of the accident.
 (11) The roofs of the houses were covered with snow.
 (12) Paper is made from wood.
 (13) The quiet air was filled with music.
 (14) My father has cut the tree.
 (15) They sell salt and sugar at that store.
 (16) Who wrote the letter?
 (17) They say that he is honest.

訳と解説

- (1) 「彼らはその国について何も知りません。」
 → 「その国について何も彼らに知られていません。」
 (2) 「わたしたちは彼の名前を知りませんでした。」
 → 「彼の名前はわたしたちに知られていませんでした。」
 (3) 「彼らは彼をキャプテンに選んだのですか。」 → 「彼は彼らによってキャプテンに選ばれたのですか。」
 * captain は補語なので、目的語の him を主語にして受動態にかえる。
 (4) 「その少年はラジオを聞くでしょう。」 → 「ラジオはその少年によって聞かれるでしょう。」 * to を落とさないように注意。
 (5) 「その部屋をきれいにしておくべきです。」 → 「その部屋はきれいにされておくべきです。」
 (6) 「自分の健康に注意を払わなければなりません。」
 → 「自分の健康は注意を払われなければなりません。」
 * of を落とさないように注意する。
 (7) 「なぜ彼らはあなたを笑ったのですか。」 → 「なぜあなたは彼らに笑われたのですか。」
 (8) 「だれが窓を割りましたか。」 → 「だれによって窓は割られましたか。」
 (9) 「彼はたくさんの手紙を書いてきました。」 → 「たくさんの手紙が彼によって書かれてきました。」
 * 現在完了の受動態は《have [has] been + 過去分詞》の形。
 (10) 「その事故のニュースはわたしたちを驚かせました。」
 → 「わたしたちはその事故のニュースに驚きました。」
 (11) 「雪が家々の屋根をおおいました。」 → 「家々の屋根は雪でおおわれました。」
 (12) 「木から紙を作ります。」 → 「紙は木から作られます。」
 (13) 「音楽が静かな空気を満たしました。」 → 「静かな空気は音楽で満たされました。」 * be filled with … 「…で満たされる」
 (14) 「その木は父によって切られてしまいました。」 → 「父はその木を切ってしまいました。」 * 受動態から能動態への書きかえ。
 (15) 「あの店で塩と砂糖が売られています。」 → 「あの店では塩と砂糖を売っています。」 * 受動態から能動態への書きかえ。適当な主語を補う。
 (16) 「だれによってその手紙は書かれましたか。」 → 「だれが

その手紙を書きましたか。」*受動態から能動態への書きかえ。

(17) 「彼は正直だそうです。」* It is said (that)…。=They

say (that) … で「…だそうです。」という意味を表す。前者の主語 it は形式主語で that 以下の内容を表す。後者の主語は「一般的な人々」を表す they。

3

- | | | |
|-------------------|-------------------------------|--------------------|
| (1) surprised at | (2) watch[clock] was given to | (3) is known in |
| (4) covered with | (5) satisfied with | (6) spoken to |
| (7) are, made of | (8) made from | (9) By whom, taken |
| (10) was run over | (11) crowded[filled] with | (12) said |

解説

- (4) 「庭」 yard, 「落葉」 fallen leaves
(5) 「給料」 salary, 「…に満足する」 be satisfied with …
(7)(8) 「[材料]でできている」は be made of …, 「[原料]から作られる」は be made from …を用いる。後者は「材料」が元の形状をとどめていない場合と考え

ばよい。

- (9) 「AをBに連れていく」 take A to B
(10) 「…をひく」 run over …
(11) 「…で混む」は be crowded with …, または be filled with …で表すことができる。

4

- | |
|--|
| (1) He is liked[loved] by everyone[everybody]. |
| (2) The big[large] cake was cut with a big[large] knife. |
| (3) My father was interested in jazz when he was young. |
| (4) When was this school built? |
| (5) Every road[street] is filled with cars. |

解説

- (2) 「ナイフで」 with a knife

- (5) 「どの…も」 every …で表すことができる。every …は単数扱いであることに注意する。

練成問題

P42 1

- | | | | | |
|--------|--------|--------|--------|--------|
| (1) ア | (2) イ | (3) イ | (4) イ | (5) エ |
| (6) ア | (7) ウ | (8) イ | (9) ウ | (10) エ |
| (11) イ | (12) イ | (13) イ | (14) ウ | (15) イ |
| (16) イ | | | | |

訳と解説

- (1) 「彼は英語で書かれた多くの本を持っています。」
- (2) 「そこでレポートを書いている少年はわたしの兄[弟]です。」
- (3) 「フランス語を話している女の子はだれですか。」
- (4) 「わたしたちは約 100 年前に建てられたホテルに滞在しました。」
- (5) 「ベンチにすわっているその少年はわたしの仲のよい友達です。」
- (6) 「母によって作られた人形がテーブルの上にあります。」
- (7) 「バスを待っているその男性は傘を持っていませんでした。」 * wait for … 「…を待つ」
- (8) 「彼によって語られたその物語は興味深いものでした。」
- (9) 「そのかごの中で眠っている動物は何ですか。」
- (10) 「あのこわれた椅子を見て。」 * 修飾される名詞 chair は「こわれる」ので、break「こわす」の過去分詞を選ぶ。
- (11) 「雪でおおわれた通りは危険です。」
- (12) 「その山から見えるその島はとても美しかった。」 * 修飾される名詞 island は「見られる」ので、see「見る」の過去分詞を選ぶ。
- (13) 「彼を外で待たせて(=待っているままにして)おきなさい。」 * SVOC の文。
- (14) 「わたしは姉[妹]がコートでテニスをしているのがわかりました。」 * SVOC の文。
- (15) 「わたしは今、けいこの準備をするのに忙しい。」 * be busy ~ing 「～するのに忙しい」
- (16) 「先週、わたしは何時間も読書をして過ごしました。」 * spend … ~ing 「…を～して過ごす」

P43 2

- | | | | | |
|--------------|-------------|--------------|--------------|------------|
| (1) standing | (2) covered | (3) spoken | (4) written | (5) made |
| (6) running | (7) built | (8) caught | (9) given | (10) lying |
| (11) smiling | (12) broken | (13) running | (14) waiting | |

訳と解説

- (1) 「窓のそばに立っている少女はジェーンです。」
- (2) 「氷でおおわれた通りを走らないように。」 * along … 「…に沿って」
- (3) 「スペインで話されている言葉はスペイン語です。」
- (4) 「ここにグリーンさんによって書かれた本が何冊かあります。」
- (5) 「ジャックはドイツで作られた新車を買いました。」
- (6) 「その家へ駆け込んでいる女性はわたしの母です。」
- (7) 「タイタニック号は今までに造られた最も大きな船の 1 つでした。」
- (8) 「きのう、彼によって捕まえられた魚はとても大きかったです。」
- (9) 「わたしに与えられた人形はとてもかわいかった。」
- (10) 「木の下に横たわっている犬はわたしのものです。」 * lie の現在分詞は lying。
- (11) 「そのほほえんでいる子供はなんてかわいいのでしょう。」
- (12) 「こわれた[こわされた]時計はわたしたちに正確な時間を教えてくれません。」
- (13) 「彼女は途中ずっと走りながら家に帰って来ました。」 * come ~ing 「～しながら来る」
- (14) 「大勢の人々が立って列車を待っていました。」 * stand ~ing 「立って～している」

2

- (1) The language spoken in this country is English.
- (2) They live in a new house built last month.
- (3) All the guests invited to the party were surprised at the news.
- (4) I don't know the girl singing on the stage.
- (5) This is the book read all over the world.

訳と解説

- (1) 「この国で話されている言語は英語です。」
- (2) 「彼らは先月建てられた新しい家に住んでいます。」
- (3) 「パーティーに招待された客はみんなその知らせに驚きました。」 *前置詞 to を忘れないように注意。

- (4) 「わたしは舞台上で歌っている女の子を知りません。」
*分詞が修飾語をともなって名詞を修飾する場合は名詞の後ろに置かれる。
- (5) 「これは世界中で読まれている本です。」 * all over … 「…中で」

P45 3

- (1) I will buy a used car at this store.
- (2) English is a language spoken all over the world.
- (3) It's the doll sent by my older sister.
- (4) The boy talking with Alice is Mark.
- (5) My father has a fountain pen made in England.
- (6) (The) airplane flying in the sky looks like a bird.
- (7) We found him walking with a dog.
- (8) The exciting news made everyone happy.

解説

- (1) 「中古車」→「使われた車」と考える。
- (3) 「姉」older sister

- (5) 「イングランド製の」→「イングランドで作られた」と考える。
- (6) 「…みたいだ」look like …

4

- (1) Who is the man reading a[the] newspaper?
- (2) I found my brother playing tennis.
- (3) He has a watch made in Japan.
- (4) Do you know the boy skiing over there?
- (5) She is one of the guests invited to the party.

解説

- (4) ski の現在分詞は skiing となることに注意する。*「向

こうで」over there

- (5) 「…の 1 人」one of …

練成問題

1

P46

- (1) He can write Japanese very well.
- (2) He is dancing on the stage.
- (3) She came here yesterday.
- (4) He is playing over there.
- (5) It was made in Germany.
- (6) It is called Nozomi.
- (7) It was told by my father.

訳と解説

- (1) 「わたしは日本語をととても上手に書けるアメリカ人の少年を知っています。」→「わたしはアメリカ人の少年を知っています。彼は日本語をととても上手に書けます。」
- (2) 「あなたは舞台上で踊っている男の子を知っていますか。」→「あなたはその男の子を知っていますか。彼は舞台上で踊っています。」
- (3) 「きのう、ここへ来た女の子は長い髪をしていました。」→「その女の子は長い髪をしていました。彼女はきのう、ここへ来ました。」*文の主語 the girl が先行詞なので、どこまでが関係代名詞節なのかに注意する。
- (4) 「向こうで遊んでいる子供はメアリーの兄[弟]です。」

→「その子供はメアリーの兄[弟]です。彼は向こうで遊んでいます。」*文の主語 the child が先行詞であることに注意する。

- (5) 「父はドイツ製のナイフを持っています。」
→「父はナイフを持っています。それはドイツ製です。」
- (6) 「これはのぞみと呼ばれる列車です。」→「これは列車です。それはのぞみと呼ばれています。」
- (7) 「父によって話された物語はとてもおもしろかった。」
→「その物語はとてもおもしろかった。それは父によって話されました。」*文の主語 the story が先行詞であることに注意する。

2

- (1) I know a girl who[that] can speak French very well.
- (2) A boy who[that] had a map in his hand asked me the way to the station.
- (3) I see a house which[that] has a large garden.
- (4) I am reading a book which[that] is hard to understand.
- (5) The TV program which[that] told us about acid rain was very interesting.

訳と解説

- (1) 「わたしは女の子を知っています。彼女はフランス語をととても上手に話せます。」→「わたしはフランス語をととても上手に話せる女の子を知っています。」* she = a girl に着目する。a girl を先行詞《人》とし、she を主格の関係代名詞 who にかえ、先行詞に続ける。
- (2) 「男の子がわたしに駅への道をたずねました。彼は手に地図を持っていました。」→「手に地図を持った男の子がわたしに駅への道をたずねました。」* he = a boy な

ので、a boy を先行詞《人》とする。文の主語に関係代名詞節が続く形となることに注意する。

- (3) 「家が見えます。それには大きな庭があります。」→「大きな庭のある家が見えます。」* it = a house なので、a house を先行詞《人以外のもの》とする。
- (4) 「わたしは本を読んでいます。それは理解しづらいです。」→「わたしは理解しづらい本を読んでいます。」* it = a book なので、a book を先行詞《人以外のもの》とする。

- (5) 「そのテレビ番組はとてもおもしろかった。それはわたしたちに酸性雨について教えてくれました。」→「わたしたちに酸性雨について教えてくれたテレビ番組はとてもおもしろかった。」* it=the TV program なの

で、the TV program を先行詞《人以外のもの》とする。文の主語に関係代名詞節が続く形となることに注意する。

P47 3

- (1) Everybody likes her.
 (2) I taught them English last year.
 (3) We saw her in the bus.
 (4) My father gave it to me as a birthday present.
 (5) You lent it to me the other day.

訳と解説

- (1) 「彼女はだれもが好きな親切な女の子です。」→「彼女は親切な女の子です。だれもが彼女を好きです。」
 (2) 「わたしが去年英語を教えた生徒たちはとても一生懸命勉強しました。」→「その生徒たちはとても一生懸命勉強しました。わたしは去年、彼らに英語を教えました。」* 文の主語 the students が先行詞なので、どこまでが関係代名詞節なのかに注意する。
 (3) 「わたしたちがバスの中で見かけた女性は大きなかばんを持っていました。」→「その女性は大きなかばんを持っていました。わたしたちは彼女をバスの中で見かけ

ました。」* 文の主語 the woman が先行詞であることに注意する。

- (4) 「これが父がわたしに誕生日のプレゼントとしてくれた人形です。」→「これがその人形です。父がわたしに誕生日のプレゼントとしてそれをくれました。」* as … 「…として」
 (5) 「あなたが先日わたしに貸してくれた本はとてもおもしろかった。」→「その本はとてもおもしろかった。あなたは先日、それをわたしに貸してくれました。」* 文の主語 the book が先行詞であることに注意する。

4

- (1) I know a kind boy whom[that] everybody loves.
 (2) That is the woman whom[that] we saw at the party.
 (3) This is the report which[that] Frank wrote last year.
 (4) The boy whom[that] I told the way yesterday was a student at this school.
 (5) The dictionary which[that] my uncle gave to me is on the desk.

訳と解説

- (1) 「わたしは親切な男の子を知っています。みんな彼が大好きです。」→「わたしはみんなが大好きな親切な男の子を知っています。」* him=a kind boy に着目する。a kind boy を先行詞《人》とし、him を目的格の関係代名詞 whom にかえ、先行詞に続ける。
 (2) 「あちらがその女性です。わたしたちは彼女をパーティーで見かけました。」→「あちらはわたしたちがパーティーで見かけた女性です。」* her=the woman なので、the woman を先行詞《人》とする。
 (3) 「これがそのレポートです。フランクが去年、それを書きました。」→「これがフランクが去年書いたレポート

です。」* it=the report なので、the report を先行詞《人以外のもの》とする。

- (4) 「その少年はこの学校の生徒でした。わたしはきのう、彼に道を教えました。」→「わたしはきのう少年はこの学校の生徒でした。」* him=the boy なので、the boy を先行詞《人》とする。文の主語に関係代名詞節が続く形となることに注意する。
 (5) 「その辞書は机の上にあります。わたしのおじがわたしにそれをくれました。」→「わたしのおじがわたしにくれた辞書は机の上にあります。」* it=the dictionary なので、the dictionary を先行詞《人以外のもの》とする。

訳と解説

- (1)㉔ 「わたしにはおじがいます。彼はニューヨークで働いています。」
 ㉕ 「わたしにはニューヨークで働いているおじがいます。」
- (2)㉔ 「これはその人形です。母がそれをわたしにくれました。」
 ㉕ 「これは母がわたしにくれた人形です。」
- (3)㉔ 「これは長い手紙です。それはわたしの姉[妹]によって書かれました。」
 ㉕ 「これはわたしの姉[妹]によって書かれた長い手紙です。」
- (4)㉔ 「男性がわたしに道をたずねました。彼はわたしには見知らぬ人でした。」
 ㉕ 「わたしには見知らぬ人だった男性がわたしに道をたずねました。」
- (5)㉔ 「その女の子はメアリーです。わたしはきのう、公園で彼女に会いました。」
 ㉕ 「わたしがきのう公園で会った女の子はメアリーです。」
- (6)㉔㉕ 「わたしは向こうで歌っている女の子を知っています。」 *分詞句から関係代名詞節への書きかえ。
- (7)㉔㉕ 「大阪に住んでいるあなたの友達があした、再びあなたに電話をかけるでしょう。」 *分詞句から関係代名詞節への書きかえ。
- (8)㉔㉕ 「京都は長い歴史を持つ都市です。」 *前置詞句から関係代名詞節への書きかえ。

P49 4

- (1) The cake which[that] was made by my mother was good.
 (2) The library that we visit has many books.
 (3) (Do you know) the name of the scientist who invented it?
 (4) (This is) a bird that you can see only (in Japan.)
 (5) There were few people who were able to finish this work.
 (6) (Canada) is one of the countries that I (want to visit.)
 (7) (The problem) has one important point that we should (solve.)

解説

- (1) by に着目し、「母が作ったケーキ」→「母によって作られたケーキ」と考える。
 (6) 「…の1つ」 one of …

5

- (1) The hat[cap] which I bought yesterday was too big for me.
 (2) He is the kind police officer who took us to the station.
 (3) The bridge which is[can be] seen over there was built last year.
 [The bridge which we[you](can) see over there was built last year.]
 (4) The man whom I met[saw] there invited me to his house.
 (5) That is the man who told[showed] me the way.
 (6) The foreign man whom she likes is a famous pianist who came to Japan recently.

解説

- (1) 「…すぎる」 too …
 (2) 「AをBへ連れていく」 take A to B
 (3) 「[橋を] かける」は「建てる」と考える。
 (4) 「AをBへ招待する」 invite A to B
 (6) 「彼女が好きな外国人の男性」と「最近来日した有名なピアニスト」の両方の部分に関係代名詞節を用いる。

練成問題

P50

- (1) They are the guests / my parents invited to the party. (whom)
 (2) The problem / he solved was very difficult. (which)
 (3) He is one of my friends / I played with. (whom)
 (4) The car / my brother bought last year often breaks down. (which)
 (5) This is the bike / he spoke of often. (which)

訳と解説

接触節は、目的格の関係代名詞を省略した形《先行詞+主語+動詞〜》なので、先行詞にあたる(代)名詞とそれに続く《主語+動詞〜》の間に目的格の関係代名詞が省略されている。

- (1) 「彼らはわたしの両親がパーティーに招待したお客です。」
 (2) 「彼が解いた問題はとても難しかった。」

- (3) 「彼はわたしがいっしょに遊んだ友達の1人です。」
 *前置詞(ここでは with)の目的語の働きをする関係代名詞。
 (4) 「わたしの兄[弟]が去年買った車はよく故障します。」
 (5) 「これが彼がよく話していた自転車です。」*前置詞(ここでは of)の目的語の働きをする関係代名詞。

2

- (1) (That is) the dog all my family love.
 (2) I'll show you the pictures I took (in Kyoto.)
 (3) The building we can see over there is our school.

解説

- (1) 「うちの家族みんな」は my all family ではなく all

my family の語順。

3

- (1) I have a dog whose tail is long.
 (2) The trees whose leaves have turned red are very beautiful.
 (3) I'm looking for a dictionary whose cover is blue.
 (4) That is an artist whose name is known all over the world.

訳と解説

- (1) 「わたしは犬を飼っています。そのしっぽは長い。」
 → 「わたしはしっぽが長い犬を飼っています。」* its = a dog に着目する。a dog を先行詞とし、its を所有格の関係代名詞 whose にかえ、先行詞に続ける。
 (2) 「木々はとても美しい。それらの葉は紅葉している。」
 → 「葉が紅葉している木々はとても美しい。」* their = the trees なので、the trees を先行詞とする。

- (3) 「わたしは辞書を探しています。その表紙は青色です。」
 → 「わたしは表紙が青色の辞書を探しています。」* its = a dictionary なので、a dictionary を先行詞とする。
 (4) 「あちらは芸術家です。彼女の名前は世界中で知られています。」
 → 「あちらは名前が世界中で知られている芸術家です。」* her = an artist なので、an artist を先行詞とする。

- (1) I have a friend whose father is a famous baseball player.
 (2) Do you see the dog whose ears are long?
 (3) The building whose wall is white is the new library.

解説

- (1) a friend を先行詞とし、「父親が有名な野球の選手である友達」の部分に関係代名詞節を用いる。
 (2) the dog を先行詞とし、「長い耳をした犬」の部分に関

係代名詞節を用いる。

- (3) the building を先行詞とし、「その白い壁の建物」の部分に関係代名詞節を用いる。先行詞が文の主語であることに注意する。

5

- (1) who (2) which (3) whom (4) whose (5) whose
 (6) whom (7) which

訳と解説

- (1) 「音楽を聞いている男の子はタロウです。」* the boy が先行詞《人》で、直後に動詞が続くことから、主格の関係代名詞が入る。
 (2) 「これが彼女がきのうあなたへ送った手紙ですか。」* the letter が先行詞《人以外のもの》で、あとの動詞(sent)の目的語にあたることから、目的格の関係代名詞が入る。
 (3) 「わたしが見かけた婦人はグリーンさんでした。」* the woman が先行詞《人》で、あとの動詞(saw)の目的語にあたることから、目的格の関係代名詞が入る。
 (4) 「こちらが母親が偉大なピアニストである女の子です。」* the girl が先行詞で、直後の名詞(mother)と「その

女の子の母親」のように所有関係にあるので、所有格の関係代名詞が入る。

- (5) 「目が青いねこがテーブルの下で眠っています。」* a cat が先行詞で、直後の名詞(eyes)と「そのねこの目」のように所有関係にあるので、所有格の関係代名詞が入る。
 (6) 「彼が先日あなたが話していた男性ですか。」* 《前置詞＋関係代名詞》の形。the man が先行詞《人》。このofはspokeのあとに置くこともできる。
 (7) 「これがかつてわたしが泳いだ川です。」* 《前置詞＋関係代名詞》の形。the riverが先行詞《人以外のもの》。このinはswimのあとに置くこともできる。

6

- (1) ア (2) イ (3) イ (4) イ (5) ウ
 (6) イ (7) ア

訳と解説

- (1) 「あちらが先週わたしがお父さんに会った男の子ですか。」* Is that the boy? と I met his father last week. の2文を関係代名詞 whose を用いて1文にしたものと考え。whoseはそれが修飾する名詞と結びついた形《whose＋名詞》で用いることに注意する。
 (2) 「これがわたしが彼女について知っているすべてです。」* 先行詞がallなので、関係代名詞 that を用いる。このallは「すべてのこと[もの]」という意味の代名詞。
 (3) 「これはわたしが今まで見た中で最も大きい動物です。」* 先行詞 animal に最上級 largest がついているので、関係代名詞 that を用いる。
 (4) 「あなたがきのうしたことをすべてわたしに話さない。」* 先行詞が everything なので、関係代名詞 that

を用いる。

- (5) 「向こうで走っている男の子と犬を見て。」* 先行詞 the boy and the dog が《人》、《人以外のもの》の両方を含んでいるので、関係代名詞 that を用いる。
 (6) 「これはその有名なピアニストが生まれた家です。」* 《前置詞＋関係代名詞》の形。the house が先行詞《人以外のもの》。このinはbornのあとに置くこともできる。関係代名詞 that は《前置詞＋関係代名詞》の形では用いることができない。
 (7) 「ここがその有名な歌手がかつて滞在したホテルです。」* 《前置詞＋関係代名詞》の形。「[ホテル]に滞在する」は stay at …なのでatが必要となる。このatはstayのあとに置くこともできる。

1

- (1) whose top[summit], with (2) that (3) I wanted to
 (4) whom[that], with (5) whose father (6) do everything, wanted

解説

- (1) 「雪をいただいた」→「頂上が雪でおおわれた」と考える。
 (2) 先行詞 girl に the first がついているので、関係代名詞はふつう that を用いる。
 (3) 「わたしが会いたかったその人は不在でした」という英文を完成する。空所の数から判断し、接触節(目的格の関係代名詞を省略した形)で表す。
 (4) 「…といっしょに遊ぶ」は play with …なので with が必要となる。
 (5) 「わたしには父親が有名な俳優であるクラスメートがいます。」という英文を完成する。
 (6) 関係代名詞節中の動詞が過去形 (wanted) になることに注意する。everything は all も可。

2

- (1) he took (2) whose roof (3) whose hair
 (4) whose name (5) whose, are loved (6) prettiest doll that, ever
 (7) in which (8) with whom (9) everybody knows
 (10) I like best[most]

訳と解説

- (1) ㉠ 「これはきのう彼によって撮られた写真です。」
 ㉡ 「これはきのう彼が撮った写真です。」*接触節。
 (2) ㉠ 「緑色の屋根の家が見えますか。」
 ㉡ 「屋根が緑色の家が見えますか。」
 (3) ㉠ 「女性がドアのところであなたを待っています。彼女は長い髪をしています。」
 ㉡ 「髪の長い女性がドアのところであなたを待っています。」
 (4) ㉠ 「わたしはスミスと名づけられた老人を知っています。」
 ㉡ 「わたしは名前がスミスという老人を知っています。」
 (5) ㉠ 「彼は歌手です。多くの人々が彼の歌を愛しています。」
 ㉡ 「彼は多くの人々に歌が愛されている歌手です。」
 (6) ㉠ 「わたしはこのようにかわいい人形を今までに見たことがありません。」
 ㉡ 「これはわたしが今までに見た中で最もかわいい人形です。」
 (7) ㉠ 「わたしたちはその家を訪れました。彼はその家で生まれました。」
 ㉡ 「わたしたちは彼が生まれた家を訪れました。」
 (8) ㉠ ㉡ 「わたしにはいっしょに遊ぶ友達がいません。」
 *不定詞句から関係代名詞節への書きかえ。
 (9) ㉠ 彼はみんなに知られた偉大な芸術家です。
 ㉡ 「彼はみんなが知っている偉大な芸術家です。」
 *接触節。
 (10) ㉠ 「わたしは4つの季節の中で春が1番好きです。」
 ㉡ 「春は4つの季節の中でわたしが1番好きな季節です。」*接触節。

3

- (1) This is a word whose meaning I don't know.
 (2) He didn't have to pay them all the money he had.
 (3) Is there anything I can do for you?
 (4) (Such TV programs are useful for you to) know more about the world you live in.
 (5) This is the coldest winter I have ever had.
 (6) English is not the only language we should learn.
 (7) All you have to do is wash the dishes.
 (8) What is the price of that book she took much time (to write?)
 (9) (The) pen I am writing with is the one I was given by my uncle.

解説

- (2) 「あり金すべて」→「彼が持っていたすべての金」と考える。* pay は第4文型(SVOO)をとることができる動詞である。
- (5) 「これはわたしが今までに経験した中で最も寒い冬です。」という英文を完成させる。
- (6) 「英語はわたしたちが学ぶべきただ1つの言葉ではありません。」という英文を完成させる。
- (7) 「あなたがしなければならないすべてのことは皿を洗う

ことです。」という文を完成させる。

- (8) much は「多くの時間」の部分で用いるので、「…はいくらですか。」は How much …? が使えない。そこで「…の価格は何ですか。」と考えて What is the price of …? とする
- (9) 「わたしが書いているペン」は、「…で書く」が write with …なので with を用いて表す。ここでは関係代名詞が省略されているので《前置詞+関係代名詞》の形はとれない。

4

- (1) A[The] boy whose name was John came to see[meet] me yesterday.
- (2) (Please) Show me the box (which[that]) you made yesterday.
- (3) This is the first English book (that) I read.
- (4) This is all the money (that) I have (with me) now.

解説

- (3) 「わたしが初めて読んだ英語の本」→「わたしが読んだ

最初の英語の本」と考える。

練成問題

1

P54

- (1) (I don't know) where my camera is.
- (2) (Do you know) when she decided to be a teacher?
- (3) (I don't know) what is in the room.
- (4) (Do you know) what subject he likes best?
- (5) (Do you know) how long they have been friends?
- (6) (I don't know) how old your grandfather is.
- (7) (Do you know) how many languages there are in India?
- (8) (I wonder) what made him angry.
- (9) (I wonder) who made such a mistake.

訳と解説

- (1) 「わたしは自分のカメラがどこにあるか知りません。」
* 間接疑問文は《疑問詞 + 主語 + 動詞》の語順。主節が平叙文なので、文末は終止符となる。
- (2) 「あなたは彼女がいつ教師になろうと決心したか知っていますか。」* 間接疑問文は平叙文の形になるので、did が不要となることに注意。主節が疑問文なので、文末は疑問符となる。
- (3) 「わたしはその部屋の中に何があるか知りません。」
* 疑問詞が主語の疑問文は、間接疑問文にしても語順は変わらない。
- (4) 「あなたは彼が1番好きなのは何の教科か知っていますか。」

* 《what + 名詞》の部分は間接疑問文になってもそのままである。

- (5) 「あなたはどれくらいの間彼らが友達でいるか知っていますか。」* 《how + 形容詞[副詞]》の部分は間接疑問文になってもそのままである。
- (6) 「わたしはあなたのおじいさんが何歳か知りません。」
- (7) 「あなたはインドにはいくつの言語があるか知っていますか。」
- (8) 「何が彼を怒らせたのだろうか。」* 疑問詞が主語の疑問文。
- (9) 「だれがそのような間違いをしたのだろうか。」
* 疑問詞が主語の疑問文。

2

- | | | |
|---------------------|---------------------|-------------------|
| (1) where she lives | (2) what it is | (3) wondering why |
| (4) what is in | (5) know who was in | |

解説

- (2) 「Aがどのようなものか」は what A is like で表す。

(5) 時制の一致で was となることに注意。

3

P55

- | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|
| (1) エ | (2) エ | (3) イ | (4) エ | (5) ウ |
| (6) ウ | (7) イ | | | |

訳と解説

- (1) 「わたしは彼がわたしにあの店で何を買ったかを聞くと、思います。」

(2) 「ロバートはジェーンにどこでその本を見つけられるのかたずねました。」

(3) 「わたしはその湖がどれくらい深いか知りません。」

- (5)④ 「あなたはベティーの住所を知っていますか。」
 ⑤ 「あなたはベティーがどこに住んでいるか知っていますか。」
 (6)④ 「わたしはあなたのお父さんの年齢を知りません。」
 ⑤ 「わたしはあなたのお父さんが何歳か知りません。」
 (7)④ 「わたしは彼の誕生日を知りません。」
 ⑤ 「わたしは彼がいつ生まれたのか知りません。」
 * 「生まれる」 be born
 (8)④ 「あなたの誕生日の日にちと場所をわたしに教えてください。」
 ⑤ 「あなたがいつどこで生まれたのかわたしに教えてください。」
 (9)④ 「あなたはこの言葉の意味を知っていますか。」

- ⑤ 「あなたはこの言葉が何を意味するか知っていますか。」
 (10)④ 「あなたはそこに着くまでにかかる時間を調べられますか。」 * find out 「調べる」
 ⑤ 「あなたはそこに着くまでにどれくらいかかるか調べられますか。」
 (11)④ 「あなたの欠席の理由を先生に教えてください。」
 * the reason for … 「…の理由」
 ⑤ 「あなたがなぜ欠席したか先生に教えてください。」
 (12)④ 「わたしは彼があのように笑うのを理解できませんでした。」
 ⑤ 「わたしはなぜ彼があのように笑うのか理解できませんでした。」
 * 時制の一致で laughed となることに注意。

3

P57

- (1) Do you know whose book this is?
 (2) (Do you know) when our teacher will come back (from Canada?)
 (3) I don't know what time he left for New York.
 (4) I have no idea what you are talking about.
 (5) (She) bought a hamburger for the boy when she knew how hungry he was.
 (6) (Do you know) what day of the week is good for (visiting the museum?)
 (7) What time do you think he will arrive here?
 (8) What do you think has happened to (him?)

解説

- (1) 「だれの本」 whose book
 (3) 「…に出発する」 leave for …
 (4) 「わたしは…かわからない」は I have no idea のうしろに間接疑問文を続ける。
 (5) 「どんなに空腹か」 how hungry

- (6) 「何曜日」 what day of the week
 (7) 「はい / いいえ」で答えられないので、疑問詞は文頭に置く。
 (8) 「彼はどうなった」→「何が彼に起こった」と考える。
 * 「[事件などが] …に起こる」 happen to …

4

- (1) He asked me what time it was.
 (2) (Please) Tell me who wrote this book.
 (3) He did not[didn't] tell us when he would return[come back].
 (4) (Tell me) how many minutes it took you to finish (your homework.)
 (5) How old do you think he will be next month?

解説

- (1)(3) 主節の時制に合わせて、間接疑問文中の時制も過去とすることに注意する。(3)では助動詞の過去形を用いる。
 (4) 「-が～するのに〔時間が〕…かかる。」《It takes + 人

+ 時間 + to ～.》

- (5) 「はい / いいえ」で答えられないので、疑問詞は文頭に置く。

練成問題

P58 1

- | | | |
|----------------|----------------------|----------------------|
| (1) wasn't she | (2) doesn't he | (3) don't you |
| (4) won't you | (5) hasn't she | (6) are they |
| (7) did he | (8) can it | (9) have you |
| (10) shall we | (11) will[won't] you | (12) will[won't] you |
| (13) will you | (14) is there | (15) has he |

訳と解説

- (1) 「あなたのお姉[妹]さんは大学生でしたよね。」*肯定文なので、否定の疑問形をつける。
- (2) 「伊藤さんには友達がたくさんいますよね。」*主語が男性なので、代名詞 he を用いる。
- (3) 「あなたは中華料理が好きですよ。」
- (4) 「あなたはまた来ますよね。」
- (5) 「その女の子は宿題が終わっていますよね。」
- (6) 「あの男の子たちは兄弟ではありませんよね。」*否定文なので、肯定の疑問形をつける。
- (7) 「ベンは来ませんでしたよね。」
- (8) 「彼の話は真実であるはずがないですよ。」
- (9) 「あなたはきょうの新聞を読んでいませんよね。」
- (10) 「チェスをしましょうよ。」*Let'sの文の付加疑問文は shall we? をつける。
- (11) 「ドアを開けてください。」*命令文の付加疑問文は will[won't] you? をつける。
- (12) 「急いで学校へ行ってください。」
- (13) 「今、ピアノを弾かないでください。」*否定命令文の付加疑問文は will you? をつける。
- (14) 「ポットの中に水は入っていませんよね。」*noを用いた否定文。
- (15) 「彼は以前に1度もスペインへ行ったことがありませんよね。」*neverを用いた否定文。

2

- | | | |
|---------------|---------------|---------------|
| (1) isn't it | (2) was it | (3) don't you |
| (4) didn't he | (5) can't she | (6) have you |
| (7) shall we | | |

解説

(1)(3)(4)(5) 肯定文なので、否定の疑問形をつける。

(2)(6) 否定文なので、肯定の疑問形をつける。

P59 3

- | | | |
|-----------------|---------------------------|------------------------|
| (1) Aren't you | (2) Wasn't he | (3) Doesn't her mother |
| (4) Didn't you | (5) Can't Ken | (6) Won't it |
| (7) Haven't you | (8) Haven't your students | |

解説

否定疑問文では、否定の疑問形を文頭に置き、否定の疑問

形はふつう短縮形を用いる。

4

- (1) Isn't she a teenager? — No, she isn't.
- (2) Wasn't your mother in the kitchen? — Yes, she was.
- (3) Doesn't your brother like math? — Yes, he does.

- (4) Didn't Mr. Yamada read the letter? — No, he didn't.
 (5) Shouldn't young people help old people? — Yes, they should.
 (6) Can't these birds fly? — No, they can't.
 (7) Hasn't he finished his job? — No, he hasn't.
 (8) Haven't you heard the news of the accident? — Yes, I[we] have.

訳と解説

肯定文から否定疑問文を作るには、短縮形を用いて否定文を作ってからその短縮形を文頭に出すか、疑問文を作ってから文頭を否定の短縮形にすればよい。疑問文に対する答えは、肯定であればYes、否定であればNoである。

- (1) 「彼女はティーンエイジャーでないのですか。」
 — 「はい、ティーンエイジャーではありません。」
 (2) 「あなたのお母さんは台所にいなかったのですか。」
 — 「いいえ、いました。」
 (3) 「あなたのお兄[弟]さんは数学が好きではないのですか。」 — 「いいえ、好きです。」

- (4) 「山田さんはその手紙を読まなかったのですか。」
 — 「はい、読みませんでした。」
 (5) 「若者は老人を助けるべきではないのですか。」 — 「いいえ、助けるべきです。」
 (6) 「これらの鳥は飛べないのですか。」 — 「はい、飛べません。」
 (7) 「彼は自分の仕事を終えていないのですか。」 — 「はい、終えています。」
 (8) 「あなた(たち)はその事故のニュースを聞いていないのですか。」 — 「いいえ、聞きました。」

発展問題

1

P60

- (1) イ (2) エ (3) イ (4) ア (5) イ
 (6) イ (7) ウ (8) ウ (9) ア (10) ウ
 (11) ア

訳と解説

- (1) 「彼らはいっしょに歌っていましたよね。」
 (2) 「佐藤さんは去年、フランスへ行きましたよね。」
 (3) 「あなたはトマトが好きではありませんよね。」
 (4) 「わたしの父とあなたのお父さんは10年間ずっと友達ですよ。」
 (5) 「パーティーに行きましょうよ。」
 (6) 「ステレオを消してくれませんか。」 * turn off … 「…を消す」
 (7) 「マイクは来月、15歳になりますよね。」
 (8) 「あなたは学校に来ませんでしたよね。」 — 「いいえ、来

- ました。」
 (9) 「ディズニーランドへ行きませんか。楽しみましょう。」
 * Why don't we ~? 「(いっしょに) ~しませんか。」
 (10) 「良夫、放課後サッカーをするのはどうですか。」 — 「そうしましょう。」 * Why not? 「そうしましょう。」は提案や勧誘などに同意するとき用いる。
 (11) 「わたしたちは旅行中、すばらしい時間を過ごしました。」
 — 「そうだったのですか。わたしはそれを聞いてうれしいです。」 * あいづち表現の1つ。相手の発言に対し、肯定文には肯定の、否定文には否定の疑問形を用いる。

2

- (1) cousins, aren't you (2) aunt, didn't she (3) Pass, will[won't] you
 (4) Why (5) didn't, did, Yes, did

解説

- (1) 「いどこ」 cousin
 (4) Why don't you ~? 「~してはどうですか。」

- (5) 「しましたよ」と肯定なので、付加疑問文に対しYesを用いて答える。

練成問題

1

P62

- | | | | | |
|---------------|------------------|-------------|--------------|---------------|
| (1) classes | (2) boxes | (3) foxes | (4) benches | (5) stomachs |
| (6) countries | (7) dictionaries | (8) monkeys | (9) photos | (10) tomatoes |
| (11) knives | (12) thieves | (13) wolves | (14) beliefs | (15) teeth |
| (16) mice | (17) men | (18) oxen | (19) deer | (20) sheep |

解説

- (1)~(4) 語尾が s, sh, ch, x の語は es をつけて複数形にする。
 (5) stomach は語尾が ch だが [k] と発音するので、複数形にするにはただ s をつける。
 (6)(7) 語尾が《子音字 + y》の語は、y を i にかえて es をつけて複数形にする。
 (8) 語尾が《母音字 + y》の語を複数形にするにはただ s をつける。
 (9)(10) 語尾が o の語は es をつけて複数形にする。radio,

photo などは語尾が o の語だが、複数形にするには例外的に s だけをつける。

- (11)~(13) 語尾が f, fe の語は f や fe を ves にかえて複数形にする。
 (14) roof, belief は、複数形にするには例外的に s だけをつける。
 (15)~(18) 複数形が不規則なもの。
 (19)(20) deer, sheep は単複同形。

2

- | | | | | |
|----------------|--------------------|-----------|-----------|-------------|
| (1) cup[glass] | (2) cups[glasses] | (3) piece | (4) glass | (5) glasses |
| (6) piece | (7) sheets[pieces] | | | |

解説

不可算名詞である物質名詞の分量を表すときには、可算名詞である容器や形状を表す語を用いて《a ... of + 物質名詞》の形で表し、数えるときには《...》の部分の語を複数形にする。

- (1)(2) 紅茶やコーヒーなどは cup または glass を使う。
 (3) チョークは piece を用いて量を表す。
 (5) glass の複数形は glasses。
 (6)(7) 紙の場合、紙きれなどは piece を使い、A4 や B5 などの規格紙は sheet を使う。

3

P63

- | | | | | |
|---------------|---------------|--------------|-------------|--------------|
| (1) buses | (2) dishes | (3) churches | (4) watches | (5) babies |
| (6) cities | (7) stories | (8) potatoes | (9) radios | (10) leaves |
| (11) lives | (12) wives | (13) roofs | (14) feet | (15) geese |
| (16) children | (17) Japanese | (18) boys' | (19) hours' | (20) glasses |

訳と解説

- (1) 「わたしはそこへ行くのに3台バスに乗りました。」
 * three がかかるので複数形にする。
 (2) 「彼女は夕食後、すべてのお皿を洗いました。」 * all がかかるので複数形にする。
 (3) 「この町には教会が2つあります。」
 (4) 「これらの腕時計は日本製です。」 * these がかかるので複数形にする。

- (5) 「きのう、この病院で5人の赤ちゃんが生まれました。」
 (6) 「東京は世界で最も大きな都市の1つです。」 * 《one of + 複数形》「...の1つ」
 (7) 「わたしはおじから多くのおもしろい話を聞きました。」
 * many がかかるので複数形にする。
 (8) 「彼女はスーパーマーケットでジャガイモを5個買いました。」
 (9) 「わたしの家にはラジオが3台あります。」

- (10) 「11月下旬にわたしたちは嵐山を訪れました。木のすべての葉が赤や黄色でした。」
- (11) 「その自動車事故で3人の命が失われました。」
- (12) 「2人の夫人がそのレストランで彼女たちの夫に会いました。」
- (13) 「向こうにいくつかの白い屋根を見ることができます。」
* some がかかるので複数形にする。
- (14) 「このロープは10フィートの長さです。」 * foot は長さの単位としての意味もある。1 foot は 30.48cm。《数詞 + 単位を表す名詞 + long》で「長さが…ある」とい

う意味。

- (15) 「湖にいるあれらのガチョウを見て。」
- (16) 「そのとき、公園で何人の子供が遊んでいましたか。」
* 《How many + 複数形…?》
- (17) 「毎年、多くの日本人が海外旅行をします。」
- (18) 「彼は男子高の先生です。」 * s で終わる複数形の所有格はアポストロフィだけつける。
- (19) 「ここから動物園まで2時間のドライブです。」
- (20) 「彼は本を読むとき、いつもめがねをかけます。」 * 対をなすものを表す場合は《a pair of + 複数形》を用いる。

4

- (1) わたしの両親は同じ年齢です。
- (2) 彼は1年に20万ドル以上稼ぎます。
- (3) あなたの外出中に原さんという人があなたに会いに来ました。
- (4) 月は地球の周りを回っています。
- (5) 看護師は病人を世話する人です。
- (6) ブラウン一家は去年、日本に来ました。

解説

- (1) ここでの an は「同じ(=the same)」という意味。
- (2) ここでの a は「…につき」という意味。
- (3) 《a + 固有名詞(人名)》で「…という名の人」という意味。

- (4) 「月」も「地球」もただ1つしかないの、その前には the をつける。
- (5) the sick = sick people である。
- (6) 《the + 姓の複数形》で「…一家」という意味。

発展問題

P64

1

- (1) ladies' (2) meaning (3) death (4) happiness (5) beauty
(6) silence (7) pianist (8) actor

解説

- (2) see 「見る」、sight 「視力」は動詞 — 名詞の関係。mean 「意味する」の名詞形を書く。
- (3) high 「高い」、height 「高さ」は形容詞 — 名詞の関係。dead 「死んでいる」の名詞形を書く。
- (4) different 「違う」、difference 「違い」は形容詞 — 名詞の関係。happy の名詞形を書く。
- (5) true 「真実の」、truth 「真実」は形容詞 — 名詞の関

係。beautiful の名詞形を書く。

- (6) free 「自由な」、freedom 「自由」は形容詞 — 名詞の関係。silent 「静かな」の名詞形を書く。
- (7) art 「芸術」、artist 「芸術家」の関係なので、piano 「ピアノ」、pianist 「ピアニスト(=ピアノを弾く人)」になる。
- (8) work 「働く」、worker 「労働者(=働く人)」の関係なので、act 「演じる」、actor 「俳優(=演じる人)」になる。語尾が or になるので注意する。

2

- (1) pair (2) glass[cup] of (3) minutes'
(4) girls' (5) an (6) cut, a piece
(7) French

解説

- (3) 「たった 10 分の歩行距離です。」と考える。

- (7) 国民全体を指す場合は《the + 国籍を表す形容詞》を使う。

3

- (1) イ (2) キ (3) 工 (4) 工

訳と解説

- (1) 正しくは, sun → the sun * 「太陽」は1つしかないの、その前には the をつける。「あなたは太陽は東から昇り、西へ沈むことを知っていますか。」
 (2) 正しくは, them → it * mathematics 「数学」は単数扱いなので、代名詞は it で受ける。「わたしは数学がまったく好きではありません。事実、わたしはそれが大

嫌いです。」

- (3) 正しくは, ill → illness * 前置詞 of のうしろなので名詞になる。「きのう、彼女は病気のため学校を欠席しました。」
 (4) 正しくは, sugars → sugar * 「砂糖」は物質名詞なので複数形にできない。「わたしは砂糖が2さじ入った紅茶を1杯いただきたい。」

4

- (1) good cook (2) difficulty (3) difference between
 (4) half, hour (5) first visit (6) kindness
 (7) success (8) an invitation

訳と解説

- (1)Ⓐ 「わたしの父はとても上手に料理します。」
 ⑦ 「わたしの父はとても上手に料理をする人です。」
 (2)Ⓐ 「わたしにとって彼の事務所を見つけることは簡単でした。」
 ⑦ 「わたしは彼の事務所を見つけるのにまったく苦労しませんでした。」 * have no difficulty (in) ~ing 「~することにまったく苦労しない」
 (3)Ⓐ 「あなたの計画はわたしたちのものとは少し違います。」 * ours = our plan
 ⑦ 「あなたの計画とわたしたちのものとの間には少し違いがあります。」 * difference between A and B 「A と B の間の違い[差]」
 (4)Ⓐ⑦ 「彼らは30分でその公園に着きました。」

- * 「30分」は half an hour と表すこともできる。
 (5)Ⓐ 「わたしは以前1度もこの都市を訪れたことはありません。」
 ⑦ 「これがこの都市へのわたしの最初の訪問です。」
 (6)Ⓐ⑦ 「彼女は親切にもわたしに道を教えてくれました。」 * have the kindness to ~ 「親切に~してくれる」
 (7)Ⓐ 「わたしは彼が仕事で成功することを確信しています。」
 ⑦ 「わたしは仕事での彼の成功を確信しています。」 * be sure of ... 「...を確信する」
 (8)Ⓐ 「大統領は女王の誕生日パーティーに招待されました。」
 ⑦ 「女王は大統領に彼女の誕生日パーティーへの招待状を送りました。」

5

- ① the ② the ③ the ④ the ⑤ ×
 ⑥ × ⑦ a ⑧ an ⑨ × ⑩ the

訳と解説

ここにインドの地図があります。インドはアジアで最も大きな国の1つです。北部にはヒマラヤ山脈があります。インドの中部にはデリーがあります。デリーはインドの首都です。デリーには飛行機で行くことができます。わたしは去年の夏にデリーへ来ました。最初はここではだれも知り合いがいま

- わたしが1番好きな誠実な学生が1人います。わたしたちは時々、テニスをしますし、彼はピアノを演奏したりもします。
 ② 方角を表す語には the をつける。
 ③ 山脈の名称には the をつける。
 ⑥ at first 「最初に」
 ⑨ スポーツ名は無冠詞。
 ⑩ 楽器の前には the をつける。

6

- (1) (My brother) cleans his room once a week.
- (2) How many cups[glasses] of coffee did he have?
- (3) Five minutes' walk took us to the station.

解説

(1) 「1回」 once

(2) 「何杯の…」は《How many cups[glasses] of …?》で

表す。

(3) 「5分間の徒歩がわたしたちを駅へ連れていった。」という文を完成する。

練成問題

1

P66

- (1) It is difficult for me to speak good English.
- (2) It is easy for little children to read the book.
- (3) It was kind of her to show me the way to the station.
- (4) I found it important to help old people.
- (5) I think it good for the health to take exercise every day.

訳と解説

- (1) 「わたしにとって上手な英語を話すことは難しい。」
* 形式主語 it を用い、It ... for - to ~. 「- にとって ~するのは...だ。」の形にする。
- (2) 「小さな子供たちにとってその本を読むことは簡単です。」
- (3) 「駅へ行く道を教えてくれたとは彼女は親切でした。」* 形式主語 it を用い、形容詞 kind が人の性質を表すので、

- It ... of - to ~. 「- が~するのは...だ。」の形にする。
- (4) 「老人を助けることは重要だということがわかりました。」* 形式目的語 it を用い、find it ... to ~ 「~することが...とわかる」の形にする。
 - (5) 「毎日運動するのは健康によいと思います。」
* think it ... to ~ 「~することは...と思う」

2

- | | | |
|-----------------|---------------|------------------------|
| (1) another | (2) Each, has | (3) All, are |
| (4) Either, is | (5) Neither | (6) Neither, is |
| (7) didn't, all | (8) Both, are | (9) Some, others[some] |

解説

- (2) 「おのおの」は each. each は単数扱い。
- (3) 「みな」は all. ここでの all は《人》を表すので複数扱い。
- (4) 「2人のうちのどちらか1人」は either. either は単数

扱い。

- (5)(6) 「2人とも...ない」は neither. neither は単数扱い。
- (7)(8) 《全部・全体を意味する語+否定語》で部分否定を表す。
- (9) 「~のものもあれば、...のものもある」some ~, others ...

3

P67

- | | | | | |
|--------|--------|--------|--------|--------|
| (1) イ | (2) ウ | (3) イ | (4) イ | (5) ア |
| (6) ア | (7) エ | (8) イ | (9) ウ | (10) ア |
| (11) ウ | (12) ア | (13) ウ | (14) エ | (15) イ |

訳と解説

- (1) 「その公園はその美しい花園で有名です。」* it の所有格 its. The park を受けている。
- (2) 「けさ、通学途中でわたしは旧友に会いました。」
* 「わたしの旧友」は my old friend または an old friend of mine で表すことができる。
- (3) 「テーブルの上のフルーツをご自由にお食べください。」
* help oneself to ... 「...を自由にとって食べる」
- (4) 「この気温は札幌の気温より高い。」
* 同じ名詞の繰り返しを避ける that. ここでは the

temperature を表す。

- (5) 「わたしは自分のかばんをなくしてしまいました。わたしは1個買わなければなりません。」* 前出の名詞を受ける不定代名詞 one. ここでは a bag を表す。
- (6) 「もし鉛筆が必要ならば、ナンシーは鉛筆を借りることができます。」
- (7) 「わたしはこのドレスは好きではありません。青いのを見せてください。」
- (8) 「青い帽子はありますか。—いいえ、しかし白いのがいくつかあります。」* 前出の名詞を受ける不定代名詞

one は、複数ものを表す場合には複数形 ones を用いる。

- (9) 「この帽子はわたしには大きすぎます。もう1つ見せてください。」
- (10) 「理論と実践は別物です。」 * A is one thing, (and) B is another. 「A と B は別のことだ。」
- (11) 「彼には車が2台あります。1台は黒でもう1台は赤です。」 * the other 「(2つのうち)他方」
- (12) 「ニックは3匹のねこを飼っています。1匹は黒で、他

は白です。」 * the others 「他の全部」

- (13) 「女の子たちのそれぞれが人形を持っています。」 * has に着目し単数扱いの不定代名詞を選ぶ。
- (14) 「わたしの友人の1人は、英語をととても上手に話します。」 * one of の後には複数を表す(代)名詞が続き、単数扱いである。
- (15) 「今夜、テレビで何かよいものはありますか。」 * anything のような -thing 形の代名詞を形容詞が修飾する場合は《-thing + 形容詞》の語順をとる。

発展問題

P68 1

- | | | |
|---------------------------|------------------|----------------------------|
| (1) something cold | (2) that | (3) does it take |
| (4) How far is it | (5) to myself | (6) by himself |
| (7) All, are | (8) One, other | (9) one, the others |
| (10) us, other | (11) Either, has | (12) Neither, likes |
| (13) some, others | (14) It is said | (15) introduced himself in |
| (16) All[Everything], was | | |

解説

- (5) 「心の中で思った」→「自分自身に対して言った」と考える。
- (6) 「自分の力で」by oneself
- (10) 「お互い」each other
- (14) 「…だそうだ。」It is said (that) ….
- (15) 「自己紹介する」introduce oneself
- (16) ここでの all は《物事》を表すので単数扱いとなることに注意する。

P69 2

- | | | |
|-------------|------------------|------------------------|
| (1) It did | (2) enjoyed | (3) took me |
| (4) It cost | (5) another | (6) by himself |
| (7) It is | (8) child, likes | (9) made it impossible |

訳と解説

- (1) a b 「先週は雨が降りませんでした。」《天候》を表す it を用いて書きかえる。
- (2) a b 「わたしはきのう、楽しみました。」 * enjoy oneself 「楽しむ」
- (3) a 「わたしはこの仕事を3日で終わらせました。」
b 「わたしがこの仕事を終えるのに3日かかりました。」 * 《It takes + 人 + 時間 + to ~.》「-が~するのに[時間が]…かかる。」
- (4) a 「わたしはこのグローブに5千円払いました。」
b 「わたしがこのグローブを買うのに5千円かかりました。」 * 《It costs + 人 + 金額 + to ~.》で「-が~するの
- に[お金が]…かかる。」という意味。なお、cost は cost - cost - cost と活用する。
- (5) a 「知っていることは教えることは違います。」
b 「知っていることと教えることは別のことです。」
- (6) a b 「彼はその家をひとりで建てました。」
- (7) a b 「そのピアニストは来月、日本に来るそうです。」
- (8) a 「わたしの家族の子供はみな野球ファンです。」
b 「わたしの家族の子供はみな野球が好きです。」 * every は、《every + 単数名詞》の形で使い、「すべての…」の意味を表す。《every + 単数名詞》は単数扱い。
- (9) a 「激しい雨のためにわたしたちは運動会を開催することができませんでした。」

② 「激しい雨はわたしたちが運動会を開催することを不可能にしました。」*形式目的語 it を用い, make it

impossible (for -) to ~「(-が)~することを不可能にする」とする。

3

- (1) It will take me an hour to finish (the work.)
- (2) It is surprising that he can speak English so well.
- (3) (I) think it important for you to tell (the truth.)
- (4) The bananas in the box are better than those on the table.
- (5) Please help yourself to as much milk as you like.

解説

- (2) 「~であることは…だ。」は, 形式主語 it を用い, It is … that ~, の形で表すことができる。
- (3) 「-が~することは…だと思う」は, 形式目的語 it を用い, think it … for - to ~の形で表すことができる。

- (4) 「テーブルの上にあるバナナ」を, 名詞(ここでは bananas)の繰り返しを避けるために代名詞を用いて表す。複数なので代名詞はthoseを用いることに注意する。
- (5) 「(あなたが)好きなだけ…」は as … as you like で表す。

練成問題

P70 1

- | | | | | |
|--------|--------|--------|--------|--------|
| (1) イ | (2) ウ | (3) イ | (4) ア | (5) イ |
| (6) イ | (7) エ | (8) ア | (9) イ | (10) ア |
| (11) ウ | (12) ア | (13) エ | (14) ア | (15) ア |
| (16) ウ | | | | |

訳と解説

- (1) 「10月は1年の10番目の月です。」
- (2) 「その少女はかばんに数冊の本を持っています。」
*可算名詞が続くので数を表す形容詞を選ぶ。直前に a があるので some は不可。
- (3) 「昨年の冬、たくさんの雪が降りましたか。」*不可算名詞が続くので量を表す形容詞を選ぶ。
- (4) 「先月、あまり雨が降りませんでした。」
* much は否定文で用いると「あまり…ない」という意味を表す。
- (5) 「あなたは大阪に何人か友達がありますか。」*疑問文なので any を用いる。
- (6) 「彼らといっしょにゲームをするのはとても楽しいでしょう。」* fun 「楽しみ」は不可算名詞。
- (7) 「わたしはまったくお金を持ち合わせていません。」
* money 「お金」は不可算名詞。
- (8) 「昨年は夏にほとんど雨の日がありませんでした。」
- (9) 「今年は雨がほとんど降っていません。」
- (10) 「1週間、ずっと雨が降っていません。」*否定文なので any を用いる。
- (11) 「きのうはとても寒くてわたしたちは泳ぐことができませんでした。」
* too … for - to ~ 「とても…なので-は~できない」
- (12) 「わたしはまだ朝食を食べていません。」
- (13) 「ここから駅まで遠くはありません。」*距離の長さを表す場合は far を用いる。
- (14) 「あなたの学校はここからどれくらいの距離ですか。」
— 「約2 km です。」
* How far …? は距離をたずねる表現。
- (15) 「あなたはどれくらい北海道に滞在するのですか。」
* How long …? は期間をたずねる表現。
- (16) 「あなたは何回ハワイへ行ったことがありますか。」
* How many times …? は回数をたずねる表現。

P71 2

- | | | |
|---------------|-----------------|-----------------------|
| (1) good cook | (2) makes, well | (3) drives, carefully |
| (4) many | (5) not any | (6) have much snow |
| (7) had no | | |

訳と解説

- (1) ㉠ 「父はとても上手に料理をします。」
㉡ 「父はとても上手に料理をする人です。」
- (2) ㉠ 「彼はスピーチをするのが上手です。」* be good at … 「…が上手である」
㉡ 「彼は上手にスピーチをします。」
- (3) ㉠ 「わたしの母はとても慎重な運転手です。」
㉡ 「わたしの母はとても慎重に運転します。」
- (4) ㉠ ㉡ 「その角ではたくさんの自動車事故が起きます。」
- (5) ㉠ ㉡ 「その池には水がまったくありません。」
- (6) ㉠ ㉡ 「ここでは冬にたくさんの雪が降ります。」
- (7) ㉠ ㉡ 「先週はまったく雨が降らませんでした。」

3

- | | | |
|--------------------|-----------------|------------|
| (1) something good | (2) few, little | (3) enough |
| (4) was little | (5) Few | |

解説

(1) something のような -thing 形の代名詞を形容詞が修

飾する場合は《-thing + 形容詞》という語順になる。

(3) 「十分な」enough

4

- (1) He has / more money than I do.
- (2) I have / finished my homework.
- (3) Would you like to have something / to drink?
- (4) They are / clever students.
- (5) The rich are not / happy.
- (6) / All the students in my class like English.
- (7) He is wise / not to do such a thing.

訳と解説

- (1) 「彼はわたしよりもずっとたくさんのお金を持っています。」 * much は比較級の直前に置く。
- (2) 「わたしはちょうど宿題を終えたところです。」 * just は have[has]と過去分詞の間に置く。
- (3) 「何か冷たい飲み物はいかがですか。」 * 《something + 形容詞 + to ~》の語順。
- (4) 「彼らは非常に利口な生徒たちです。」 * 《such(+ a

[an]) + 形容詞 + 名詞》の語順。

- (5) 「金持ちがいつも幸せであるとは限りません。」 * not always で部分否定を表す。
- (6) 「わたしのクラスのほとんどすべての生徒は英語が好きです。」 * almost は修飾する形容詞[副詞]の直前に置く。
- (7) 「彼はとても賢いのでそのようなことはしません。」 * enough は形容詞[副詞]の直後に置く。

発展問題

1

P72

- | | | | | |
|--------|--------|--------|--------|--------|
| (1) ウ | (2) ア | (3) イ | (4) エ | (5) オ |
| (6) ア | (7) ウ | (8) エ | (9) オ | (10) ア |
| (11) ア | (12) イ | (13) エ | (14) オ | (15) ア |

訳と解説

- (1) 「そのタンカーは中にたくさんの油を積んでいました。」 * 不可算名詞が続くので、量を表す形容詞を選ぶ。 plenty of は数と量のどちらも表すことができる。
- (2) 「わたしの兄[弟]は昨夜早く帰宅しました。」 * ふつう、副詞(句)は《場所+時》の語順に並べる。また《時》を表す副詞(句)が複数並ぶ場合は、単位の小さいものが前に来る。したがって、ここでは《場所(home)+時(early + last night)》の語順となる。
- (3) 「わたしはサッカーが好きではありません。」 — 「わたしもです。」 * 否定文を受けて「…も(～ない)」という場合は、too ではなく either を用いる。
- (4) 「マイクはきのう、図書館へ行きました。」 — 「わたしも行きました。」 * 肯定文を受けて「…もそうだ」という場合、too を用いて表す他に、so を用いて《So do [does / did / 助動詞] + S.》の形で表すこともできる。
- (5) 「今年の冬は雪が少しも降りませんでした。」

- (6) 「彼はしばしばうそをつくので、ほとんど友達がいません。」
- (7) 「急ぎなさい。コンサート開始までほとんど時間がありません。」
- (8) 「この小さな部屋にはほとんど余りな空間がありません。」
- (9) 「あなたはどのくらいの頻度で市立図書館へ行きますか。」 — 「月に2回くらいです。」 * How often …? は頻度をたずねる表現。
- (10) 「その知らせを聞いたとき、彼はかなりうれしそうに見えました。」 * 補語なので形容詞を選ぶ。
- (11) 「トムはわたしよりずっと速く走ることができます。」 * 比較級を強める場合は much を用いる。
- (12) 「太郎は次郎よりも宿題が少ない。」 * homework は不可算名詞。less は little の比較級。
- (13) 「彼の部屋は20人がすわれるほどの広さです。」 * アだと「とても広くて20人はすわれない」の意味。

(14) 「もう少しコーヒーをいかがですか。」—「はい、いただきます。」*ものを勧めるような場合には疑問文でも some を用いる。

(15) 「夜、どれくらい早くショーが始まるか、あなたは知っていますか。」

P73 2

- (1) old (2) always (3) another
(4) either (5) so does (6) Most

訳と解説

- (1)① 「この建物は 80 年前に建てられました。」
② 「この建物は築 80 年です。」*建物の築年数なども、… year(s) old で表すことができる。
(2)① 「わたしたちは幸せなときもあれば、不幸なときもあります。」
② 「わたしたちはいつも幸せなわけではありません。」*部分否定。

- (3)①② 「もう 1 杯紅茶はいかがですか。」
(4)① 「ジャックもわたしもそのとき、家に不在でした。」* neither A nor B 「A も B も…ない」
② 「ジャックはそのとき家に不在で、わたしも不在でした。」
(5)①② 「トムは英語が好きで、ジェリーも英語が好きです。」
(6)① 「ほとんどすべての女の子はケーキが好きです。」
② 「女の子の大部分はケーキが好きです。」

3

- (1) can't, either (2) every, months (3) few of them
(4) Almost all [Most of] (5) a little, left

解説

- (2) 「…ごとに」《every + 数詞 + 複数名詞》
(4) 「ほとんどの…」は almost all the …, または most

(of the) …で表すことができる。

- (5) 「…が残っている。」は There is [are] … left. で表すことができる。left は leave 「…を残す」の過去分詞。

4

- (1) We had little snow this winter.
[There was little snow this winter.]
[It snowed little this winter.]
(2) We have had little rain these [for the last] two weeks.
[There has been little rain these [for the last] two weeks.]
[It has rained little these [for the last] two weeks.]
(3) I have not [haven't] read all of these books.
(4) It is not [isn't] always easy for you to see [meet] him.
(5) Few people come here at this time of the year.

解説

- (1) 「雪が少なかった」→「雪が少ししか降らなかった」と否定的に考える。

- (2) 「この 2 週間」these [for the last] two weeks
(3)(4) 部分否定。
(5) 「1 年のうちのこの時期」this time of the year

練成問題

1

P74

- | | | | | |
|--------|--------|--------|--------|--------|
| (1) イ | (2) ア | (3) オ | (4) イ | (5) エ |
| (6) イ | (7) ア | (8) エ | (9) ア | (10) ウ |
| (11) ウ | (12) オ | (13) イ | (14) ア | (15) ウ |
| (16) イ | | | | |

訳と解説

- (1) 「彼は2週間、日本に滞在するつもりです。」*期間の長さはfor「…の間」を用いる。
- (2) 「彼は1999年から2001年までロンドンに滞在しました。」*from A to B「AからBまで」
- (3) 「壁に1枚の絵があります。」*表面に接していることを表す場合にはonを用いる。
- (4) 「月は地球の周りを回ります。」
- (5) 「わたしは1時間で戻ります。」*「…で、…たてば」を表すin。
- (6) 「あなたは今度の月曜日までに宿題を終えられますか。」
- (7) 「ロンドンでの滞在中に、わたしはその博物館を訪れました。」*特定の期間を表して「…の間に」はduringを用いる。whileは「…の間に」という意味の接続詞である。
- (8) 「3時までここで待っていてください。」
- (9) 「その都市は海拔500メートルです。」*aboveは相対的に「…より上の方に」という意味を表す。
- (10) 「向こうの川にかかっている大きな橋をごらん下さい。」
- (11) 「わたしはきのう、腕時計をなくしたので、それを探しています。」*look for…「…を探す」
- (12) 「わたしは長いことメアリーから便りがありません。」*hear from…「…から便りがある」
- (13) 「ロケットは月へ向けて地球を発ちました。」*leave…for～「～へ向けて…を出発する」
- (14) 「彼は先週の火曜日から学校を休んでいます。」*be absent from…「…を欠席する」
- (15) 「その部屋は子供たちでいっぱいでした。」*be filled with…「…でいっぱいである」
- (16) 「そのりんごはナイフで切られました。」*《with+道具》「…を使って」

2

P75

- | | | | | |
|---------|-----------|--------|--------|-----------|
| (1) on | (2) since | (3) in | (4) in | (5) to |
| (6) for | (7) of | (8) on | (9) by | (10) with |

訳と解説

- (1) 「彼は8月20日にニューヨークへ発ちました。」*特定の日にはonを用いて表す。
- (2) 「彼は昨年の8月からずっと北海道に住んでいます。」
- (3) 「あなたは2、3日でその仕事を終わられますか。」*「…で、…たてば」を表すin。
- (4) 「この手紙は英語で書かれています。」*《in+言語名》「…語で」
- (5) 「わたしたちが駅に着くとすぐに雨が降り出しました。」*get to…「…に着く」
- (6) 「わたしをパーティーに招待してくれてどうもありがとう。」*Thank you (very much) for…「…を(どうも)ありがとう。」
- (7) 「彼は父親を誇りに思っています。」*be proud of…「…を誇りに思う」
- (8) 「わたしの姉[妹]はふだん、歩いて学校へ行きます。」*on foot「歩いて」
- (9) 「わたしたちの学校の一部の生徒は自転車で学校に来ます。」*《by+乗り物》「…で」
- (10) 「メアリーは長い髪のかわいい女の子です。」*《with+物》「…を持った」

3

- | | | |
|------------------|-------------------|------------------------|
| (1) before | (2) As | (3) for, against |
| (4) from, to, in | (5) in front of | (6) of, without saying |
| (7) wrote to | (8) with | (9) for, till[until] |
| (10) from | (11) be afraid of | (12) on, on, to |

解説

- (1) 「よく考えてから答える」→「答える前によく考える」と考える。
- (2) 「…として」は as を用いる。* advise … to ~ 「…に～するよう忠告する」
- (3) 「…に賛成の」は for, 「…に反対の」は against を用いる。
- (5) 「…の前に」 in front of …
- (6) 「…から外へ」 out of …, 「～せずに」 without ~ing
- (7) 「…に手紙を書く」 write to …
- (8) 「…の～を手伝う」 help … with ~
- (9) 「…を待つ」 wait for …, 「…まで」 till[until] …
- (10) 「…と違う」 be different from …
- (11) 「…を恐れる」 be afraid of …
- (12) 「〔人〕を訪ねる」 call on …, 「…へ行く途中で」 on one's way to …

発展問題

P76

1

- | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|--------|
| (1) イ | (2) ア | (3) ウ | (4) ア | (5) イ |
| (6) ウ | (7) ウ | (8) イ | (9) ウ | (10) イ |

訳と解説

- (1) 「あなたの時計では何時ですか。」* 「…の時計では」は by を用いる。
- (2) 「彼は5月5日の朝に出発するでしょう。」* 特定の日の朝を表す場合は on を用いる。
- (3) 「太陽は朝、東から昇ります。」* 「…の方角に」と方向を表す場合は in を用いる。日本語では「から」と訳するのが自然であるが、from は用いないので注意する。
- (4) 「わたしの祖母は年のわりには若く見えます。」* for one's age 「年のわりには」
- (5) 「わたしを見送りに来てくれてあなたはとても親切です。」* 形容詞 kind が人の性質を表すので of を用いて、
- It is … of-to ~. 「-が～するのは…だ。」とする。
- (6) 「小麦粉からパンが作られます。」* A is made from B. = B is made into A. 「BからAが作られる。」
- (7) 「自分の体に気を使いなさい。」* be careful of … 「…に気をつける」
- (8) 「すぐに出発すれば、列車に間に合うでしょう。」* in time for … 「…に間に合って」
- (9) 「多くの学生たちがボブに同意しました。」* agree with … 「…に同意する」
- (10) 「わたしの父はコンピュータなしでは済ませられないと言います。」* do without … 「…なしで済みます」

2

- | | | | | |
|----------|---------|--------|--------|---------|
| (1) for | (2) on | (3) by | (4) on | (5) for |
| (6) of | (7) to | (8) in | (9) at | (10) of |
| (11) for | (12) of | | | |

訳と解説

- (1) 「彼らは初めてパリを訪れました。」* for the first time 「初めて」
- (2) 「わたしは1954年8月20日に生まれました。」
- (3) 「わたしはあなたにその仕事を今週の終わりまでに終えてもらいたい。」
- (4) 「彼は自分の村を12月の寒い朝に出発しました。」* 特定の日の朝であることに注意する。
- (5) 「学校に遅れてはいけません。」* be late for … 「…に遅れる」
- (6) 「この橋は石でできています。」* be made of … 「…〔材料〕でできている」

- (7) 「わたしはラジオを聞いています。」 * listen to … 「…を聞く」
 (8) 「彼女はコンテストで1等賞を取ることに成功しました。」 * succeed in … 「…に成功する」
 (9) 「彼女は3歳のときにスキーのし方を習いました。」 * at the age of … 「…歳のときに」

- (10) 「わたしの姉[妹]の心は愛でいっぱいです。」 * be full of … 「…でいっぱいである」
 (11) 「その都市は何で有名ですか。」 * be famous for … 「…で有名である」
 (12) 「その辞書はとても役に立ちます。」 * of great use 「とても役に立つ」 (= very useful)

3

- (1) in (2) in (3) looks like[takes after]
 (4) are, looking for (5) with, in (6) takes care of
 (7) in spite of

解説

- (1) 「…な声で」は in を用いる。
 (2) 「事故で」は in を用いる。
 (3) 「…に似ている」 look like …

- (5) 付帯状況を表す with。
 (6) 「…の世話をする」 take care of …
 (7) 「…にもかかわらず」 in spite of …

4

- (1) During, stay (2) After (3) with
 (4) without (5) to, help (6) good at
 (7) with (8) of (9) by plane[airplane / air]
 (10) between, and

訳と解説

- (1)①② 「ニューヨーク滞在中に、わたしは数回彼に会いました。」
 (2)① 「彼は新聞を読み、それから出かけました。」
 ② 「新聞を読んだ後で彼は出かけました。」
 (3)①② 「わたしは長いしっぽをした犬を飼っています。」
 (4)① 「あなたが助けてくれなければ、わたしは仕事を終えることができません。」
 ② 「あなたの助けなしにわたしは仕事を終えることができません。」
 (5)① 「あなたが助けてくれたので、わたしは仕事をすることができました。」
 ② 「あなたの助けのおかげで、わたしは仕事をすることができました。」 * thanks to … 「…のおかげで」
 (6)① 「わたしの父はとても上手にスキーをすることができ

- ます。」
 ② 「わたしの父はスキーがとても上手です。」 * be good at … 「…が上手である」
 (7)①② 「あなたは白い帽子をかぶった女の子を知っていますか。」 * 付帯状況を表す with を用いる。
 (8)① 「激しく雪が降ったので、わたしたちは時間通りに来られませんでした。」
 ② 「激しい雪のため、わたしたちは時間通りに来られませんでした。」 * because of … 「(原因・理由を表して) …のために」
 (9)①② 「わたしの父はきのう、飛行機で沖縄へ行きました。」
 (10)① 「あなたの意見はわたしのと違います。」
 ② 「あなたの意見とわたしの意見の間には違いがあります。」 * between A and B 「A と B の間に」

練成問題

P78 1

- (1) has been reading (2) has been doing (3) has been raining
 (4) have been waiting (5) has been making (6) has, been running
 (7) has, been snowing

解説

過去から現在まで「ずっと～している」とある動作が継続していることを表すときには現在完了進行形《have[has]

been + ~ing》を用いる。

(4) 「…を待つ」 wait for …, 「…以上」 more than …

2

- (1) わたしが駅に着いたときには、最終列車はすでに出発してしまっていました。
 (2) あなたに初めて会う前から、わたしはあなたのお兄[弟]さんのことを知っていました。
 (3) 彼がわたしに食べ物を与えるまで、わたしは2日間何も食べていませんでした。
 (4) わたしは昨年、大英博物館を訪れました。それ以前には1度も訪れたことはありませんでした。
 (5) わたしはその少年の名前を知っていました。というのは、その1週間前に彼に会っていたからです。
 (6) 彼は自分の父が2か月間病気でずっと寝ていると言いました。
 (7) わたしが彼とロンドンで会ったときには、彼は3日間そこにいました。
 (8) わたしは彼らが1年前に大阪に引っ越していたことを知りませんでした。

解説

過去のある時点を基準にして、そのときまでの《完了》、《結果》、《継続》、《経験》などを表す場合は、過去完了《had + 過去分詞～》を用いる。時間の基準は、文中の副詞句[節]

などから読み取れる場合が多い。

(5) この before は過去のある時点を基準にした場合の「…前」という意味。

(6) be sick in bed 「病気で寝ている」

P79 3

- (1) They have been working since six o'clock.
 (2) I have been writing a story for two days.
 (3) She has been practicing the piano since this morning.
 (4) My father has been taking a walk in the park for an hour.
 (5) Ken has been listening to music since he came home.
 (6) We have been watching baseball on TV for two hours.
 (7) That child has been drawing a picture for three hours.

訳と解説

現在進行形から現在完了進行形への書きかえ。

- (1) 「彼らは6時からずっと働いています。」
 (2) 「わたしは2日間ずっと物語を書いています。」
 (3) 「彼女はけさからずっとピアノの練習をしています。」

(4) 「わたしの父は1時間ずっと公園を散歩しています。」
 * take a walk 「散歩する」

- (5) 「健は家に帰ってからずっと音楽を聞いています。」
 (6) 「わたしたちは2時間ずっとテレビで野球を見ています。」

(7) 「その子供は3時間ずっと絵を描いています。」

4

- (1) had, finished[done] (2) had stayed (3) had met[seen]
 (4) had made (5) had, used

解説

- (1) 「電話が来た」時点での《完了》。
 (2) 「京都を訪れた」時点までの《継続》。
 (3) 「話しかけた」時点までの《経験》。
 (4) 「ドレスを見せた」時点よりも前の動作。
 (5) 「そのとき」までの《経験》。

5

- (1) I knew (that) he was very busy.
 (2) I knew (that) her mother had been a nurse.
 (3) I thought (that) Tom had broken the window.
 (4) He said (that) his father had left for New York three days before.

訳と解説

主節の動詞が過去形るとき、従属節の動詞は時制の一致を受ける。そのとき、《現在》→《過去》、《過去》→《過去完了》と変化する。

- (1) 「わたしは彼がとても忙しいことを知っていました。」
 (2) 「わたしは彼女の母親が看護師だったことを知っていま

した。」

- (3) 「わたしはトムが窓を割ったのだと思いました。」
 (4) 「彼は父親が3日前にニューヨークへ発ったと言いました。」*過去の時点よりもさらに3日前となるので、agoではなく before を用いる。

発展問題

1

P80

- (1) ウ (2) ウ (3) エ (4) ア (5) イ
 (6) イ (7) ウ

訳と解説

- (1) 「彼らはけさからずっとサッカーをしています。」
 (2) 「わたしたちはそれ以上食べませんでした。というのは、1時間ずっと食べていたからです。」
 (3) 「彼女は彼をよく知っていました。というのは、彼女は彼にたびたび会っていたからです。」
 (4) 「わたしの父は毎朝朝食の前に散歩をすると言いました。」

- (5) 「彼女はその本を3日前に読んだとわたしに言いました。」
 (6) 「彼女は病気で午後中ずっと寝ています。」* lying (lie「横になる」の～ing形)はhas beenにつながっている。
 (7) 「わたしはパリへ来る前に3年間、フランス語を勉強していました。」*《had been + ~ing》は過去完了進行形といい、過去のある時点まで「ずっと～していた」とある動作が継続していたことを表す。

2

- (1) have been playing (2) have been studying since (3) have you been doing
 (4) had, left (5) had been to

解説

- (3) 「今まで」→「ある過去の一点から今まで」なので現在完了進行形を用いる。
 (5) 「…へ行ってきたところだ」と表す場合には、goneではなく been を用いる。

3

- (1) been (2) has been raining (3) has been
(4) had lost (5) had been

訳と解説

(1) 「わたしは30分以上ずっと彼を待っています。」

* more than … 「…以上」

(2) 「わたしは雨にうんざりです。この前の日曜日からずっと雨が降っています。」

(3) 「5日間ずっと雪が降っているそうです。」

(4) 「わたしは傘をなくしていたことに気がつきました。」

(5) 「わたしの祖父は亡くなったときは病気でずっと寝ていました。」

P81 4

- (1) has been raining (2) has been playing, for (3) had bought
(4) died, before

訳と解説

(1)① 「おととい、雨が降り始めました。そして、今でも雨が降っています。」

② 「おとといからずっと雨が降り続いています。」 * the day before yesterday 「おととい」

(2)① 「トムは2時間前にバイオリンを弾き始めました。彼はまだそれを弾いています。」

② 「トムは2時間、ずっとバイオリンを弾いています。」

(3)① 「わたしは本を買ってそれを彼にあげました。」

② 「わたしはわたしが買った本を彼にあげました。」

(4)① 「彼は祖父が亡くなって10年経つと言いました。」

* dead は形容詞。

② 「彼は祖父は10年前に亡くなったと言いました。」

* この died は動詞 die の過去分詞。

5

- (1) My mother has been talking on the phone for two hours.
(2) (This) is the CD I have been looking for.
(3) (I) had already gone to bed when my father came home.
(4) They caught the man who had stolen the ring from the shop.
(5) It had not rained for three weeks until (yesterday.)

解説

(1) 「電話で」 on the phone

(2) 「…を探す」 look for …

(5) 「きのうまで3週間ずっと雨が降っていませんでした。」という英文を完成させる。

6

- (1) He has been cleaning his room since this morning.
(2) How long have you been waiting for the bus?
(3) She had studied[been studying] Japanese for two years before she came to Japan.
(4) He said (that) he had heard the story before.

解説

(2) 「どのくらいの間」 How long …?

(3) 「2年間勉強していた」は過去完了または過去完了進行形で表す。

練成問題

1

P82

- (1) ウ (2) イ (3) ア (4) イ (5) ウ
 (6) ア (7) イ (8) ウ

解説

- (1) 「-が~するのを見る」は《see + 目的語 + 原形不定詞》で表す。
 (2) 「-が~しているのを聞く」は《hear + 目的語 + 現在分詞》で表す。
 (3) 「〔望みどおり〕-に~させる」は《let + 目的語 + 原形不定詞》で表す。
 (4) 「〔強制的に〕-に~させる」は《make + 目的語 + 原形

不定詞》で表す。

- (5)(7) 「-を~してもらう」は《get[have] + 目的語 + 過去分詞》で表す。
 (6) 「-に~してもらう」は《get + 目的語 + to 不定詞》で表す。
 (8) 《受け身・被害》を表して「-を~される」は《have[get] + 目的語 + 過去分詞》で表す。

2

P83

- (1)① わたしはビルがコートでテニスをするのを見ました。
 ② わたしはビルがコートでテニスをしているのを見ました。
 (2)① 彼はだれかが自分の名前を呼ぶのが聞こえました。
 ② 彼は自分の名前が呼ばれるのが聞こえました。
 (3)① ホホワイトさんは彼女にシャツを繕ってもらいました。
 ② ホホワイトさんは靴を修理してもらいました。
 (4)① わたしは彼女に朝食を作らせました。
 ② わたしは靴を磨いてもらいました。
 (5)① 彼は息子に1人でその仕事をやらせました。
 ② 彼は父親に1人でその仕事をやらされました。

解説

- (1) 《see + 目的語 + 原形不定詞》は、動作の一部始終を見ることを表し、《see + 目的語 + 現在分詞》は、動作の一部を見ることを表す。
 (2) 《hear + 目的語 + 原形不定詞》は「-が~するのを聞く」、《hear + 目的語 + 過去分詞》は「-が~されるのを聞く」という意味。
 (3) 《get + 目的語 + to 不定詞》は「-に~してもらう」、

《get + 目的語 + 過去分詞》は「-を~してもらう」という意味。

- (4) 《have + 目的語 + 原形不定詞》は「-に~させる」、《have + 目的語 + 過去分詞》は「-を~してもらう」という意味。
 (5) 原形不定詞は、受動態では to 不定詞にかわることに注意。

3

- (1) ア (2) ウ (3) エ (4) ア (5) イ
 (6) イ (7) イ

訳と解説

- (1) 「わたしは彼が窓を開けるのを見ました。」
 (2) 「あなたは今までにその歌がフランス語で歌われるのを聞いたことがありますか。」
 (3) 「わたしはわたしの犬が庭の木の下に横たわっているのを見ました。」 * lying は lie 「横になる」の～ing 形。
 (4) 「先生はわたしにそれらの単語を何回か繰り返させました。」
 (5) 「もしあなたがいい子にしていたら、今夜、テレビを見させてあげますよ。」
 (6) 「彼はその戦争で息子を殺されました。」
 (7) 「彼はその部屋に入るのを見られました。」

発展問題

P84 1

- (1) heard, speak (2) him swimming (3) to make, do
 (4) let her (5) have[get] (6) made

解説

- (1) 「話すのを」なので原形不定詞 speak を用いる。
 (2) 「泳いでいるのを」なので現在分詞 swimming を用いる。
 (3) 文脈から《強制》を表すとわかるので make を用いる。
 * 「～できるようになる」 learn to ～
 (4) 文脈から《許可》を表すとわかるので let を用いる。let her の直後に go が省略されている。
 (6) 「何があなたにそのように考えさせたのですか。」という文を完成させる。

2

- (1) had[got], taken (2) had[got / gotten], stolen (3) called
 (4) was seen dancing (5) made to go (6) heard to play
 (7) know (8) made (9) what, her say
 (10) did he change his mind

訳と解説

- (1) a 「兄[弟]がきのう、わたしの写真を撮りました。」
 b 「わたしはきのう、兄[弟]に自分の写真を撮ってもらいました。」
 (2) a 「だれかがわたしのカメラを盗んでしまいました。」
 b 「わたしはカメラを盗まれてしまいました。」
 (3) a 「わたしは人ごみの中で、だれかがわたしの名前を呼ぶのを聞きました。」
 b 「わたしは人ごみの中で、わたしの名前を呼ばれるのを聞きました。」 * crowd 「人ごみ」
 (4) a 「ジャックは彼女がパーティーで踊っているのを見ました。」
 b 「彼女はジャックにパーティーで踊っているのを見られました。」 * 《知覚動詞 + 目的語 + 現在分詞》の文の受動態では、現在分詞はそのままである。
 (5) a 「父はわたしに1人でそこへ行かせました。」
 b 「わたしは父に1人でそこへ行かされました。」
 (6) a 「メアリーは彼がドラムを演奏するのを聞きました。」
 b 「彼はメアリーにドラムを演奏するのを聞かれました。」
 (7) a 「あなたがいつ到着するかわたしに教えてください。」
 b 「あなたがいつ到着するかわたしに知らせてください。」
 (8) a 「彼女は薬を飲んだので、よりよい気分になりました。」
 b 「薬が彼女をよりよい気分にししました。」
 (9) a 「わたしはどうして彼女がそんなことを言ったのか知っています。」
 b 「わたしは何が彼女にそのようなことを言わせたのか知っています。」
 (10) a 「何が彼に考えを変えさせたのですか。」
 b 「どうして彼は考えを変えたのですか。」

P85 3

- (1) (I) saw two helicopters flying over the river.
 (2) (I) saw a cat run over by a car.
 (3) A big noise made the baby wake up.

- (4) I could not make myself understood in English.
- (5) I was seen to come out of the garden by her.
- (6) We were made to work till late last night.
- (7) You had better have your hair cut.
- (8) Mary said that she would have her watch repaired.

解説

- (2) 「…をひく」 run over …
- (3) 「目を覚ます」 wake up

- (4) 「自分を理解してもらう, 自分の話が(相手に)通じる」
make oneself understood
- (7) 「～した方がよい」 had better ~

4

- (1) Have you ever seen him help his mother?
- (2) I hear a child crying in the next room.
- (3) (Please) Let me do it once again[more].
- (4) Mr. Brown had[got] his car washed by Tom.
- (5) I know (that) my watch is out of order, but I don't have enough money to have it repaired[fixed].

解説

- (2) 「隣の」 next

- (3) 「もう1度」 (once) again
- (5) 「～するだけのお金」 → 「～するのに十分なお金」

練成問題

P86 1

- (1)① わたしには日本語を上手に話すアメリカ人の友人がいます。
 ② わたしにはアメリカ人の友人が1人いますが、彼[彼女]は日本語を上手に話します。
 (2)① 彼女が興味を持った本はわたしにはあまりおもしろくありませんでした。
 ② その本は、彼女が興味を持ったのですが、わたしにはあまりおもしろくありませんでした。
 (3)① わたしたちの隣に住んでいる女性には、2人の息子がいます。
 ② スミス夫人は、わたしたちの隣に住んでいるのですが、2人の息子がいます。
 (4)① 楽しそうにさえずっている鳥が数羽、屋根の上にいました。
 ② 屋根の上に数羽の鳥がいて、楽しそうにさえずっていました。

解説

①はいずれも制限用法で、関係代名詞節が先行詞を限定的に修飾している。②はいずれも非制限用法で、先行詞につい

て挿入的、補足的に説明している。

(1) ①では、アメリカ人の友人は他にもいるかもしれないが、②では1人だけである。

2

- (1) What she said must be true.
 (2) This is what I am thinking about.
 (3) My father always buys me what I want.
 (4) They laughed at what he had done.

解説

関係代名詞 what は先行詞を含んでいて「～のもの、～のこと」という意味を表す。

- (1) 「彼女の言ったこと」の部分を what 節で表す。この what 節は主語。
 (2) 「わたしが今、考えていること」の部分を what 節で表す。この what 節は補語。

- (3) 「わたしが欲しがるもの」の部分を what 節で表す。この what 節は動詞 buys の目的語。
 (4) 「彼がしたこと」の部分を what 節で表す。この what 節は前置詞 at の目的語。「彼がした」は「彼らが笑った」よりも時間的に前なので、had done と過去完了になっている。

P87 3

- (1) where (2) when (3) why (4) how

解説

- (1) 先行詞が《場所》を表す the place なので、関係副詞 where が入る。
 (2) 先行詞が《時》を表す the exact time なので、関係副詞 when が入る。

- (3) 「そのため」と《理由》を表しているので、関係副詞 why が入る。先行詞 the reason が省略されている。
 (4) 「どうやって」と《方法》を表しているので、関係副詞 how が入る。

- (1) where こちらがキャンプに必要なものを買うことのできる店です。
- (2) when わたしは初めて飛行機を安全に着陸させた日のことを決して忘れないでしょう。
- (3) why どうして一生懸命勉強したのに試験に失敗したかわかりますか。
- (4) how わたしは教科書を声に出して何回も繰り返して[何度も何度も]読みます。このようにしてわたしは英語を勉強しています。

解説

- (1) 先行詞が《場所》を表す the shop なので、関係副詞 where が入る。what は関係代名詞。
- (2) 先行詞が《時》を表す the day なので関係副詞 when が入る。
- (3) 文脈から《理由》を表すと考えられるので、関係副詞 why が入る。
- (4) 文脈から《方法》を表すと考えられるので、関係副詞 how が入る。

- (1) ウ (2) イ (3) ア (4) イ (5) ア
(6) イ (7) イ

訳と解説

- (1) 「わたしはあなたがわたしに言ったことがわかりませんでした。」
- (2) 「わたしはその偉大な芸術家が生まれた町を訪ねました。」= I visited the town in which the great artist was born.
- (3) 「わたしが先月訪れたその村は美しかった。」* 先行詞 the village が、動詞 visited の目的語にあたるので、目的格の関係代名詞が入る。
- (4) 「日本で学校が始まる月は4月です。」
- (5) 「このようにしてわたしはこのコンピュータの使い方を学びました。」
- (6) 「あなたが学校を欠席した理由をわたしに教えてください。」
- (7) 「わたしたちが今しなければならぬことは、お互いに助け合うことです。」* each other 「お互い」

発展問題

- (1) ウ (2) ア (3) ウ (4) イ (5) ウ
(6) イ (7) イ (8) ウ (9) ア (10) イ
(11) ウ (12) イ

訳と解説

- (1) 「家の最も低い部分は、地面の下にあって見ることはできませんが、土台です。」* 非制限用法の関係代名詞。関係代名詞 that には非制限用法がないことに注意する。
- (2) 「わたしはブラウンさんに会いました、彼は仕事から家に帰る途中でした。」
- (3) 「彼女が働く事務所はこの都市にあります。」* その事務所(の中)で働くので、in which (= where)。
- (4) 「これが彼がここへ来た理由です。」* その理由で来たので、for which (= why)。
- (5) 「彼女が言ったことは間違っていました。」
- (6) 「これがわたしがずっと考えていることです。」* think about ... 「…について考える」
- (7) 「今度の金曜日がわたしがひまなときです。」* 先行詞 the time が省略されている。
- (8) 「わたしは彼がそのようなことをした理由がわかりません。」
- (9) 「なぜあなたは毎日、昼食を食べないのですか。— それ^がわたしの減量法です。」
- (10) 「彼らはそこで見つけたものに驚きました。」
- (11) 「わたしたちが月へ旅行をできる日がすぐにやってくるでしょう。」* 先行詞は the day。先行詞と関係副詞が

離れているので注意する。

- (12) 「彼には本の大きなコレクションがありますが、それらの多くは英語で書かれています。」 = He has a large

collection of books, and many of them are written in English.

2

- (1) that[who] (2) whose (3) what (4) who (5) where

訳と解説

- (1) 「彼がノーベル賞を受賞した初めての日本人です。」
* 先行詞に the first という限定的な語がついているので、ふつう関係代名詞 that を入れる。
- (2) 「わたしは父親が医者であるその男性を知っています。」
* 先行詞 the man と直後の名詞 father が「その男性の父親」のように所有関係にあるので、所有格の関係

代名詞を入れる。

- (3) 「父はわたしが欲しいものを買ってくれました。」
- (4) 「そこでわたしは友達に会いましたが、彼は自分のカメラをわたしに見せてくれました。」
- (5) 「わたしは大阪へ行きましたが、そこでわたしは5日間滞在しました。」 * 先行詞が《場所》を表す語なので関係副詞 where が入る。関係副詞にも非制限用法がある。

P89 3

- (1) what he said (2) on which (3) which[that], in
(4) where (5) how (6) which

訳と解説

- (1) a 「彼は早口で話したので、わたしは彼の言葉を理解できませんでした。」
- b 「彼は早口で話したので、わたしは彼が言ったことを理解できませんでした。」
- (2) a b 「彼がピクニックに出かけた日はとても暑かった。」
* 「その日に」は on the day なので、《前置詞+関係代名詞》の前置詞に on を用いる。
- (3) a b 「ここは彼が住んでいる家です。」

- (4) a 「その都市はこの国の首都です。彼はその都市で生まれました。」
- b 「彼が生まれたその都市はこの国の首都です。」
- (5) a b 「わたしは彼が事業に成功した方法を知りたい。」
- (6) a 「東京ドームは大きな野球場です。それは1988年に建てられました。」
- b 「東京ドームは、1988年に建てられましたが、大きな野球場です。」

4

- (1) what (2) reason why (3) day when
(4) when (5) where (6) who

解説

- (5) 先行詞 the place が省略されている。

5

- (1) A[The] library is (a place) where we read books.
(2) I know (the reason) why he failed.
(3) What she said cannot[can't] be true.

解説

- (1) = A library is a place in which we read books.

- (2) = I know the reason for which he failed.
(3) 「～のはずがない」 cannot[can't] ～

練成問題

1

P90

- | | | |
|--------------|---------------------|-----------------|
| (1) Walking | (2) Being | (3) Crossing |
| (4) Being | (5) Sitting | (6) Not knowing |
| (7) It being | (8) Having finished | (9) Covered |

訳と解説

分詞構文の基本は、副詞節の接続詞と主語を取り去り、動詞を現在分詞に変えることである。

- (1)ⒶⒷ 「公園で歩いている間に、わたしは旧友に会いました。」
 (2)ⒶⒷ 「病気がだったので、わたしは泳ぎに行きませんでした。」
 (3)ⒶⒷ 「橋を渡れば、わたしたちの学校が見えるでしょう。」
 (4)ⒶⒷ 「若いけれども、彼は自分の家を持っています。」
 (5)ⒶⒷ 「いすにすわって、彼は本を読み始めました。」
 * 《付帯状況》を表す分詞構文。
 (6)ⒶⒷ 「何と言っているのかわからなかったので、わたし

は何も言いませんでした。」 * 副詞節が否定文の場合は、否定語(not)を分詞の前に置く。

- (7)ⒶⒷ 「雨の日だったので、わたしたちは1日中、家にいました。」 * 副詞節と主節の主語が異なる場合は、分詞の前に主語を残す。
 (8)ⒶⒷ 「仕事を終えたので、わたしは何もすることがありません。」 * 副詞節の時制が主節の時制よりも前のときは、《having + 過去分詞》の形にする。
 (9)ⒶⒷ 「雪におおわれているので、その山は美しく見えません。」 * 副詞節が受動態の場合は、《being + 過去分詞》の形にする。beingは、文頭にくる場合はふつう省略する。

2

- (1) 右に曲がれば、左側に図書館が見つかるでしょう。
 (2) 少し熱があったけれども、彼女は学校へ行きました。
 (3) 彼の電話番号を知らなかったため、わたしは彼に電話をかけることができませんでした。
 (4) 昨夜はとて暑かったので、わたしはよく眠れませんでした。
 (5) やさしい英語で書かれているので、この本は多くの学生に読まれています。
 (6) 先月はほとんど雨が降らなかったため、水不足になるかもしれません。

解説

分詞構文の表す意味は、文の前後関係から判断する。

- (1) 《条件》を表すと考える。
 (2) 《譲歩》を表すと考える。
 (3) 《理由》を表すと考える。否定形であることに注意する。
 (4) 《理由》を表すと考える。分詞構文になっている部分の

主語と主節の主語の違いに注意する。

- (5) 《理由》を表すと考える。過去分詞で始まっているので、受動態の意味を表すことに注意する。
 (6) 《理由》を表すと考える。《Having + 過去分詞》の形から、分詞構文の表す時制が、主節の時制《現在》より前の《過去》であることに注意する。

3

P91

- | | | | | |
|------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| (1) Being | (2) Getting | (3) singing | (4) Looking | (5) Turning |
| (6) having | (7) raining | (8) Hit | | |

ました。」

⑥ 「少年たちに見られて、そのねこは走って逃げました。」

*受け身の意味の分詞構文にする。

2

- (1) Opening the window (2) Being an honest (3) It being Sunday
 (4) Seen from (5) Not wanting to (6) Having been to

解説

と考える。

(4) 主語は the rock なので、「この場所から見られると」

3

P93

- (1) Living in a big city, I sometimes want to go to (the country.)
 (2) (He) had dinner, watching a baseball game on TV.
 (3) Not having enough money with me, I couldn't buy (the book.)
 (4) The museum being very famous, many people visit (it.)
 (5) Spoken to by a foreigner, she was (surprised.)
 (6) Having done everything I should do, I'm going (out now.)

解説

(5) 動詞句 speak to … 「…に話しかける」の受動態の形で
あることに注意する。

(4) = As the museum is very famous, …

4

- (1) Being so cool, he is popular among young people.
 (2) Seeing the police officer, he asked for some help.
 (3) Turning on the light, he began to do his homework.
 (4) Having nothing to do, he went for a walk.
 (5) Not knowing what answer to make, I remained silent.
 (6) The work being hard for him, he gave it a try.
 (7) The sun having set, we started for home.
 (8) (Being) Born in summer, the baby girl was named Natsuko.

訳と解説

- (1) 「とてもかっこいいので、彼は若者の間で人気があります。」* among … 「…の間で」
 (2) 「警官を見かけたとき、彼は助けを求めました。」* ask for … 「…を求める」
 (3) 「彼は電気をつけて、宿題をやり始めました。」* turn on … 「…をつける」
 (4) 「彼はすることが何もなかったので、散歩に出かけまし

た。」

- (5) 「何と答えればよいのかわからなかったので、わたしは黙っていました。」
 (6) 「その仕事は彼にとって困難だったけれども、彼は挑戦してみました。」
 (7) 「太陽が沈んだあと、わたしたちは家に帰り始めました。」
 (8) 「その女の子の赤ちゃんは夏に生まれたので、夏子と名づけられました。」

練成問題

P94 1

- (1) told me that (2) asked him if[whether] (3) asked me what
(4) told me to (5) asked her to

訳と解説

伝達動詞と接続詞などは、被伝達文の種類によって変化させる。

- (1)Ⓐ 「彼女はわたしに『あなたは勇敢な少年ですね。』と言いました。」
 Ⓑ 「彼女はわたしにわたしが勇敢な少年だと言いました。」
 (2)Ⓐ 「わたしは彼に『あなたのお姉[妹]さんはピアノを弾くのが上手ですか。』と言いました。」
 Ⓑ 「わたしは彼に彼のお姉[妹]さんがピアノを弾くのが

上手かどうかたずねました。」

- (3)Ⓐ 「彼はわたしに『あなたは何が欲しいですか。』と言いました。」
 Ⓑ 「彼はわたしに何が欲しいかたずねました。」
 (4)Ⓐ 「わたしの母はわたしに『手を洗いなさい。』と言いました。」
 Ⓑ 「わたしの母はわたしに手を洗うように言いました。」
 (5)Ⓐ 「わたしは彼女に『窓を開けてください。』と言いました。」 * please のついた依頼の文であることに注意。
 Ⓑ 「わたしは彼女に窓を開けるように頼みました。」

2

- (1) he had (2) she was (3) he had finished
(4) she would play

訳と解説

伝達動詞が過去形の場合、被伝達文は時制の一致を受ける。そのとき、《現在》→《過去》、《過去》→《過去完了》と変化させる。

- (1)Ⓐ 「彼は『わたしはよいギターを持っています。』と言いました。」
 Ⓑ 「彼はよいギターを持っていると言いました。」
 (2)Ⓐ 「彼女は『わたしはきょうはよくなりました。』と言いました。」
 Ⓑ 「彼女はその日、自分はよくなったと言いました。」

- (3)Ⓐ 「彼はわたしたちに『わたしはきのう、その仕事を終えました。』と言いました。」
 Ⓑ 「彼は前日にその仕事を終えたと言いました。」
 (4)Ⓐ 「わたしの姉[妹]はわたしに『わたしはあした、テニスをするつもりです。』と言いました。」
 Ⓑ 「わたしの姉[妹]は翌日にテニスをするつもりだとわたしに言いました。」 * 時制の一致では、助動詞を含む被伝達文は助動詞を過去形にする。

3

- (1) told, I looked (2) asked, if[whether] he could (3) asked, she liked
(4) told, to be (5) asked, to show her

訳と解説

- (1)Ⓐ 「彼はわたしに『あなたは疲れているように見えます。』と言いました。」
 Ⓑ 「彼はわたしにわたしが疲れているように見えると言いました。」 * 接続詞 that を省略した形。
 (2)Ⓐ 「わたしは彼に『あなたは車を運転できますか。』と言いました。」

- Ⓑ 「わたしは彼に彼が車を運転できるかどうかたずねました。」 * 被伝達文が疑問文の場合は、間接話法では平叙文の語順になる(間接疑問文)。助動詞 can が時制の一致を受けることに注意。
 (3)Ⓐ 「わたしは彼女に『あなたは何の季節が1番好きですか。』と言いました。」
 Ⓑ 「わたしは彼女に何の季節が1番好きかたずねまし

た。』

- (4)Ⓐ 「先生はわたしたちに『静かにしなさい。』と言いました。」
 Ⓑ 「先生はわたしたちに静かにするように言いました。」
 (5)Ⓐ 「彼女はわたしに『わたしにその写真を見せてくださ

い。』と言いました。」

- Ⓑ 「彼女は自分にその写真を見せるようにわたしに頼みました。」

4

- (1) ア (2) エ (3) イ (4) イ (5) ウ

訳と解説

- (1)Ⓐ 「ジョンはお姉[妹]さんに『それをわたしのところへ持ってきて。』と言いました。」
 Ⓑ 「ジョンはお姉[妹]さんにそれを自分のところへ持ってくるように言いました。」
 (2)Ⓐ 「わたしは彼に『あなたは旅行を楽しみましたか。』と言いました。」
 Ⓑ 「わたしは彼に旅行を楽しんだかどうかたずねました。」
 (3)Ⓐ 「先生はわたしたちに『コロンブスは 1492 年にアメリカを発見しました。』と言いました。」
 Ⓑ 「先生はわたしたちにコロンブスは 1492 年にアメリ

カを発見したと言いました。」 * 現在の事実・習慣、不変の真理、歴史上の事実などは時制の一致を受けない(時制の一致の例外)。

- (4)Ⓐ 「彼女はわたしに『あなたはどちらの色が好きですか。』と言いました。」
 Ⓑ 「彼女はわたしにどちらの色が好きかたずねました。」
 (5)Ⓐ 「彼はわたしに『このコンピュータを使ってはいけません。』と言いました。」
 Ⓑ 「彼はわたしにそのコンピュータを使わないよう言いました。」 * 被伝達文が否定命令文の場合は、不定詞の否定形 not to ~を用いる。

5

- (1)① I love you (2) tells, she loves us (2) I had been, before
 (3)① me (2) asked, to help her (4) asked, if[whether], had
 (5)① said, Don't (2) told, not to (6)① I'll (2) told, he would

解説

- (2) = She said to me, "Where were you yesterday?"

* 間接話法での「きのう」は the day before となる。

- (4) = I said to him, "Have you been to Hawaii?"

発展問題

1

- (1) that she was (2) told, he wanted (3) he didn't
 (4) told, he had, before (5) if[whether], was (6) if[whether] he could, there
 (7) asked, I had done, before (8) Mary when the next train was
 (9) Do I have, my, now (10) I will, tomorrow (11) tells me to, my
 (12) told, not to (13) Please take me (14) to open
 (15) How old, your

訳と解説

- (1)Ⓐ 「彼女は『わたしは忙しいです。』と言いました。」
 Ⓑ 「彼女は自分は忙しいと言いました。」
 (2)Ⓐ 「彼はわたしに『あなたに会いたいです。』と言いました。」

- Ⓑ 「彼はわたしに会いたと言いました。」
 (3)Ⓐ 「彼は彼女に『わたしはその映画が好きではありません。』と言いました。」
 Ⓑ 「彼は彼女に自分はその映画が好きではないと言いました。」

- (4)㉔ 「彼はわたしに『わたしは2年前に京都に住んでいました。』と言いました。」
- ㉕ 「彼はわたしに(そのときから)2年前に京都に住んでいたと言いました。」 * ago → before
- (5)㉔ 「彼はわたしに『あなたは音楽が好きですか。』と言いました。」
- ㉕ 「彼はわたしに音楽が好きかどうかたずねました。」
- (6)㉔ 「トムはわたしに『わたしはここにすわってもいいですか。』と言いました。」
- ㉕ 「トムはわたしにそこにすわってもいいかどうかたずねました。」 * here → there
- (7)㉔ 「彼女はわたしに『あなたはきのう、何をしましたか。』と言いました。」
- ㉕ 「彼女はわたしに前日、何をしたかたずねました。」 * yesterday → the day before
- (8)㉔ 「彼は『メアリー、次の列車はいつですか。』と言いました。」
- ㉕ 「彼はメアリーに次の列車がいつかたずねました。」
- (9)㉔ 「彼は自分がそのときに宿題をしなければならないかどうか母親にたずねました。」
- ㉕ 「彼は母親に『わたしは今、宿題をしなければならないませんか。』と言いました。」 * 間接話法から直接話法への転換なので、then → now となる。
- (10)㉔ 「彼は翌日に日本を発つと言いました。」
- ㉕ 「彼は『わたしはあした、日本を発ちます。』と言いました。」 * 間接話法から直接話法への転換なので、the next day → tomorrow となる。
- (11)㉔ 「母はいつもわたしに『あなたの部屋を掃除しなさい。』と言います。」
- ㉕ 「母はいつもわたしに自分の部屋を掃除するように言います。」
- (12)㉔ 「彼はわたしに『うそをつくな。』と言いました。」 * tell a lie 「うそをつく」
- ㉕ 「彼はわたしにうそをつかないように言いました。」
- (13)㉔ 「年とった婦人がわたしに自分を警察署に連れていくように頼みました。」
- ㉕ 「年とった婦人がわたしに『わたしを警察署に連れていってください。』と言いました。」
- (14)㉔ 「マイクはわたしに『窓を開けてくれませんか。』と言いました。」
- ㉕ 「マイクはわたしに窓を開けるように頼みました。」 * 被伝達文は疑問文であるが、依頼を表すので、《ask + 目的語 + to 不定詞～》を用いて間接話法にする。
- (15)㉔ 「彼女は彼に彼のお兄[弟]さんの年齢をたずねました。」
- ㉕ 「『あなたのお兄[弟]さんは何歳ですか。』と彼女は彼にたずねました。」

P97 2

- (1) (The teacher) told him to write it on (his notebook.)
- (2) I told Susan not to go out alone.
- (3) (My sister) told me that she had had a good time at the party.
- (4) (He asked) me why I was afraid of making (mistakes.)
- (5) (He) asked me if I could go to the movies with him.
- (6) Some students ask what language they should study (in college.)

解説

(3) 「パーティーが楽しかった」は「言った」よりも時間的

に前なので過去完了となる。

(4) 「～することを恐れる」be afraid of ~ing

3

- (1) Susie told me (that) she was so happy to hear the news.
- (2) He asked me how I came to school.
- (3) She asked me to help her with her homework.
- (4) She told me (that) the earth is round.
- (5) He said to us, "The machine doesn't work now."
- (6) She said to me, "Do you know my phone number?"

(7) I said to Betty, "How many times have you been to Paris?"

(8) David said to us, "I will go back to my country tomorrow."

訳と解説

- (1) 「スージーはわたしに『わたしはその知らせを聞いてとてうれしい。』と言いました。」
→「スージーはわたしにその知らせを聞いてとてうれしいと言いました。」
- (2) 「彼はわたしに『あなたはどのようにして学校へ来ますか。』と言いました。」
→「彼はわたしにどのようにして学校へ来るのかたずねました。」
- (3) 「彼女はわたしに『わたしの宿題を手伝ってください。』と言いました。」
→「彼女はわたしに宿題を手伝ってくれるよう頼みました。」
- (4) 「彼女はわたしに『地球は丸い。』と言いました。」
→「彼女はわたしに地球は丸いと言いました。」*時制の一致の例外。

- (5) 「彼はわたしたちにその機械はそのとき動かないと言いました。」
→「彼はわたしたちに『その機械は今、動かない。』と言いました。」
- (6) 「彼女はわたしに彼女の電話番号を知っているかどうかたずねました。」
→「彼女はわたしに『あなたはわたしの電話番号を知っていますか。』と言いました。」
- (7) 「わたしはベティーに何回パリへ行ったことがあるのかたずねました。」
→「わたしはベティーに『あなたは何回パリへ行ったことがありますか。』と言いました。」
- (8) 「デビッドは翌日に母国へ帰るとわたしたちに言いました。」
→「デビッドはわたしたちに『わたしはあした、母国へ帰ります。』と言いました。」

練成問題

P98 1

- (1) もしわたしがひまならば、彼を訪ねるのですが。
 (2) もし彼女が病気でなければ、泳ぎに行けるのですが。
 (3) もしわたしが彼の住所を知っていれば、彼に手紙を書けるのですが。

解説

仮定法過去は、現在の事実と反対のことを仮定するもので

ある。

2

- (1) were[was], could (2) were[was], would (3) had, could
 (4) didn't, could

訳と解説

- (1)① 「わたしは忙しいので、あなたと買い物に行けません。」
 ② 「もしわたしが忙しくなければ、あなたと買い物に行けるのですが。」 * 仮定法過去では、be 動詞は主語の人称・数に関係なく、ふつう were を用いる。
 (2)① 「雨が降っているので、わたしたちはピクニックに行きません。」 * go on a picnic 「ピクニックへ行く」
 ② 「もし晴れていれば、わたしたちはピクニックに行くのですが。」

- (3)① 「わたしは翼を持っていないので、あなたのところへ飛んで行けません。」
 ② 「もしわたしが翼を持っていれば、あなたのところへ飛んで行けるのですが。」
 (4)① 「彼はきょう、家にいなければならないので、わたしたちとサッカーができません。」
 ② 「もし彼がきょう、家にいる必要がなければ、わたしたちとサッカーができるのですが。」

3

- (1) もしわたしがそこにいたら、あなたを助けたでしょう。
 (2) もしあなたの助けがあったなら、彼はその仕事を終えることができたでしょう。
 (3) もし彼がその質問の答えを知っていたら、たくさんのお金を手に入れられたでしょう。

解説

仮定法過去完了は、過去の事実と反対のことを仮定するも

のである。

4

- (1) had, been (2) had, left (3) had had

訳と解説

- (1)① 「わたしは忙しかったので、あなたに会えませんでした。」
 ② 「もしわたしが忙しくなかったなら、あなたに会えたのですが。」
 (2)① 「彼女は早く家を出たので、バスに乗れました。」

- ② 「もし彼女が早く家を出ていなかったなら、バスに乗れなかったでしょう。」
 (3)① 「わたしは十分なお金を持っていなかったのだから、それを買えませんでした。」
 ② 「もしわたしが十分なお金を持っていたなら、それを買えたのですが。」

2

- (1) ア (2) ア (3) イ (4) 工

訳と解説

- (1) 「わたしはあんなふうに泳げないので残念です。」 = 「あんなふうに泳げたらなあ。」
 (2) 「もしわたしが鳥ならば、あなたのところに飛んで行けるのですが。」 = 「わたしは鳥ではないので、あなたのところに飛んで行くことができません。」
 (3) 「その家はとても高いので、わたしはそれを買えません。」 = 「もしその家があまり高くなければ、わたしはそれを買えるのですが。」 * expensive 「〔値段が〕高い」
 (4) 「もし彼がそこにいたら、わたしたちはその試合に勝つたのですが。」 = 「彼がそこにいなかったので、わたしたちはその試合に負けました。」

P101 3

- (1) knew, could (2) As I am (3) wish
 (4) ① sorry ② could (5) had studied, would have

訳と解説

- (1) ① 「わたしは何をすべきか知らないので、あなたを助けることができません。」
 ② 「もしわたしが何をすべきか知っていれば、あなたを助けられるのですが。」《仮定法過去》
 (2) ① 「もしわたしがお金持ちならば、車を買えるのですが。」《仮定法過去》
 ② 「わたしはお金持ちではないので、車を買うことができません。」
 (3) ① 「わたしは上手に料理ができなくて残念です。」
 ② 「わたしがよい料理人ならなあ。」《仮定法過去》
 (4) ① 「わたしはあなたほど上手に英語を話せなくて残念です。」
 ② 「あなたと同じくらい上手に英語を話せればなあ。」《仮定法過去》
 (5) ① 「彼は熱心に勉強しなかったので、試験に受かりませんでした。」
 ② 「もし彼が熱心に勉強していたら、試験に受かったでしょう。」《仮定法過去完了》

4

- (1) had, would (2) should, would[will] (3) had lived
 (4) as if[though], had (5) as if[though], knew

解説

- (2) 未来において起こりそうもないことの仮定。
 (4) as if 以下の内容は主節よりも前の《時》を表している
 (5) as if 以下の内容は主節と同じ《時》を表しているので、《仮定法過去》を用いる

5

- (1) I wish you were my brother.
 (2) If I were[was] not so busy, I would (like to) help you.
 (3) ① (I am) sorry (that) I cannot go to England.
 ② (I wish) I could go to England.
 (4) Though[Although] he is diligent[industrious], I wish he were more careful.
 [He is diligent[industrious], but I wish he were more careful.]
 (5) If it should[were to] snow here, everybody[everyone] would[will] be surprised.

解説

- (3) ② 「イングランドへ行けるならなあ。」という文を完成させる。

練成問題

1

P102

- | | | |
|----------------------|--------------------|-----------------------|
| (1) Though[Although] | (2) Study hard, or | (3) when, was |
| (4) Both, and | (5) Neither, nor | (6) well |
| (7) more difficult | (8) best | (9) taller, any other |
| (10) he could | (11) Shall | (12) Don't be |
| (13) were able | (14) have[need] to | (15) has been, since |
| (16) heard from | | |

訳と解説

- (1)Ⓐ 「彼は彼女に手紙を書きました。しかし彼女は返信を
しませんでした。」
 Ⓑ 「彼は彼女に手紙を書いたけれども、彼女は返信を
しませんでした。」
- (2)Ⓐ 「もし一生懸命勉強しなければ、あなたは試験に落ち
るでしょう。」
 Ⓑ 「一生懸命勉強しなさい、さもないとあなたは試験に
落ちるでしょう。」
- (3)ⒶⒷ 「彼は20歳のときに、東京へ行きました。」
 * at the age of … 「…歳のときに」
- (4)Ⓐ 「太郎は英語を上手に話せます。恵子も英語を上手に
話せます。」
 Ⓑ 「太郎と恵子は2人とも英語を上手に話せます。」
 * both A and B 「AとBの両方とも」
- (5)Ⓐ 「わたしの姉[妹]は、1度も外国へ行ったことがあり
ません。わたしもありません。」
 Ⓑ 「わたしの姉[妹]とわたしは2人とも、1度も外国へ
行ったことがありません。」
 * neither A nor B 「AもBも…ない」
- (6)Ⓐ 「彼はわたしより上手にピアノを弾くことができま
す。」
 Ⓑ 「わたしは彼ほど上手にはピアノを弾けません。」
- (7)Ⓐ 「この質問はあの質問より簡単です。」
 Ⓑ 「あの質問はこの質問より難しい。」
- (8)Ⓐ 「水泳は、わたしのお気に入りのスポーツの1つです。」
 Ⓑ 「水泳は、わたしが最も好きなスポーツの1つです。」
- (9)Ⓐ 「ジムは彼のクラスで1番背が高い男の子です。」
 Ⓑ 「ジムは、彼のクラスの他のどの男の子よりも背が高
い。」 * 《比較級 + than any other + 単数名詞》「他
のどの～よりも…」
- (10)ⒶⒷ 「彼はできるだけ早く家に帰ろうとしました。」
 * as … as one can 「できるだけ…」
- (11)Ⓐ 「あなたはわたしにこのかばんを運んで欲しいです
か。」 * want … to ～ 「…に～してもらいたい」
 Ⓑ 「あなたのためにこのかばんを選びましょうか。」
 * Shall I ～? 「(わたしが)～しましょうか。」
- (12)ⒶⒷ 「この部屋でうるさくしてはいけません。」 * must
not ～ 「～してはいけない」
- (13)ⒶⒷ 「わたしの父とわたしは、10時まで空港に着くこ
とができました。」 * be able to ～ 「～することが
できる」
- (14)ⒶⒷ 「あなたはきょう、傘を持っていく必要はありませ
ん。」 * necessary 「必要な」, don't have to ～ 「～
する必要はない」
- (15)Ⓐ 「母はきのう、病気になりました。彼女は今もまだ病
気です。」
 Ⓑ 「母はきのうからずっと病気です。」
- (16)Ⓐ 「彼女は2か月間、わたしに手紙を書いていません。」
 * write to … 「…に手紙を書く」
 Ⓑ 「わたしは2か月間、彼女から便りがありません。」
 * hear from … 「…から便りがある」

- | | | |
|--------------------|------------------|------------------------|
| (1) have never | (2) find | (3) to eat |
| (4) forget to | (5) to see | (6) It, to swim |
| (7) necessary for | (8) me to | (9) not to |
| (10) what to | (11) how to | (12) too, for |
| (13) enough to | (14) Helping | (15) enjoyed listening |
| (16) fond, walking | (17) about going | (18) good speaker |

訳と解説

- (1)③ 「わたしにとってアフリカへ行くのはこれが初めてです。」
 ④ 「わたしは以前、1度もアフリカに行ったことがありません。」 * have been to … 「…へ行ったことがある」
- (2)② 「わたしは鍵をなくしてしまいました。」
 ④ 「わたしは鍵をなくし、どこにもそれを見つけることができません。」
- (3)② 「このねこは空腹で、食べ物が必要です。」
 ④ 「このねこは空腹で、何か食べるものが必要です。」
- (4)③④ 「どうぞ忘れずにあなたのご家族によろしくお伝えください。」 * say hello to … 「…によろしく伝える」
- (5)② 「その事故を見たとき、わたしは驚きました。」
 ④ 「その事故を見て、わたしは驚きました。」
- (6)③④ 「川で泳ぐことは楽しい。」 * It is … (for -) to ~. 「(-が)~するのは…だ。」
- (7)③④ 「あなたはこの本を読む必要はありません。」
- (8)② 「あなたといっしょに行きましょうか。」
 ④ 「あなたはわたしにいっしょに行ってほしいですか。」
- (9)② 「先生はわたしに『ドアを開けたままにしない方がいい。』と言いました。」
 ④ 「先生はわたしにドアを開けたままにしないよう言いました。」 * 「~ないように」という場合は、不定詞の否定形 not to ~を用いる。
- (10)③④ 「わたしは何と言えよいかわかりませんでした。」
- (11)② 「あなたはこのコンピュータが使えますか。」
 ④ 「あなたはこのコンピュータの使い方を知っていますか。」
- (12)③④ 「この帽子はとても小さいので、わたしはかぶることができません。」 * too … for - to ~ 「とても…なので-には~できない」
- (13)② 「わたしに道を案内してくれるとは、彼女は親切です。」
 ④ 「彼女は親切にも、わたしに道を案内してくれます。」 * … enough to ~ 「~するのに十分…、~できるほど…」
- (14)③④ 「お年寄りを助けることはわたしたちにとって大切です。」
- (15)② 「わたしたちはきのう、音楽を聞きました。わたしたちはそれをとても楽しみました。」
 ④ 「わたしたちはきのう、音楽を聞いてとても楽しみました。」 * enjoy ~ing 「~して楽しむ」
- (16)③④ 「わたしは公園を散歩するのが好きです。」
 * be fond of ~ing 「~するのが好きだ」
- (17)③④ 「放課後、公園に行きませんか。」
 * How about ~ing? 「~しませんか。」
- (18)② 「彼女は英語を上手に話します。」
 ④ 「彼女は上手な英語の話し手です。」

- | | | |
|-----------------|---------------------|-----------------------|
| (1) had | (2) belong to | (3) does, have |
| (4) for me | (5) walks to | (6) makes |
| (7) are taught | (8) were, taken | (9) Is English spoken |
| (10) kept open | (11) interested in | (12) watching, is |
| (13) written by | (14) who[that] live | (15) is |
| (16) whose name | (17) he took | (18) when Nancy left |

訳と解説

- (1) ㉔ ㉕ 「ここでは6月に雨がたくさん降りました。」
*《天候》を表す主語 it.
- (2) ㉔ ㉕ 「あの白い車はだれのものですか。」 * belong to
…「…に属する」
- (3) ㉔ ㉕ 「この部屋には、いくつ窓がありますか。」
- (4) ㉔ ㉕ 「父はわたしに新しい野球のバットを買ってくれました。」 * buy A B = buy B for A
- (5) ㉔ ㉕ 「エディは毎日、歩いて学校に行きます。」
* on foot 「徒歩で」
- (6) ㉔ 「わたしたちは、一生懸命働くことによって幸せになります。」
㉕ 「一生懸命働くことがわたしたちを幸せにします。」
* make A B 「A を B にする」
- (7) ㉔ 「ブラウン先生はわたしたちに英語を教えています。」
㉕ 「わたしたちはブラウン先生から英語を教わっています。」 * 受動態《be + 過去分詞》
- (8) ㉔ 「あなたはどこで、これらの写真を撮りましたか。」
㉕ 「これらの写真はどこで撮られましたか。」
- (9) ㉔ ㉕ 「イングランドでは英語が話されていますか。」
- (10) ㉔ 「あなたはドアを開けたままにしておかなければなりません。」
㉕ 「ドアは開けたままにされておかなければなりません。」 * 《助動詞 + be + 過去分詞》
- (11) ㉔ 「わたしたちはこの本はおもしろいと思います。」
㉕ 「わたしたちはこの本に興味があります。」

- * be interested in … 「…に興味がある」
- (12) ㉔ 「その男の子はトムのお兄[弟]さんです。彼はテレビを見ています。」
㉕ 「テレビを見ているその男の子はトムのお兄[弟]さんです。」
- (13) ㉔ 「ブラウンさんがこの本を書きました。それはとてもおもしろい。」
㉕ 「ブラウンさんによって書かれたこの本はとてもおもしろい。」
- (14) ㉔ 「わたしたちの学校の一部の生徒は、学校からとても遠いところに住んでいます。」
㉕ 「わたしたちの学校には、学校からとても遠いところに住んでいる生徒が何人かいます。」
- (15) ㉔ 「長いしっぽのそのねこはベティーののです。」
* tail 「しっぽ」
㉕ 「しっぽが長いそのねこはベティーののです。」
- (16) ㉔ 「昨晚、わたしはジョンと呼ばれている人に会いました。」
㉕ 「昨晚、わたしは名前がジョンという人に会いました。」
- (17) ㉔ 「これは先週、彼によって撮られた写真です。」
㉕ 「これは彼が先週、撮った写真です。」
- (18) ㉔ 「ナンシーはいつ高知を発ったのですか。あなたは知っていますか。」
㉕ 「あなたはナンシーがいつ高知を発ったのか知っていますか。」 * 間接疑問文《疑問詞 + 主語 + 動詞～》

4

- | | | |
|------------------|---------------------|-------------------|
| (1) who wrote | (2) when, born | (3) how old he is |
| (4) good cook | (5) half an | (6) his |
| (7) said nothing | (8) enjoyed herself | (9) is, old |
| (10) good sleep | (11) good at | (12) was absent |
| (13) well | (14) either | (15) During, stay |
| (16) between | (17) Without your | (18) on, way |

訳と解説

- (1) ㉔ 「わたしはこの本の著者を知っています。」
㉕ 「わたしはだれがこの本を書いたのかを知っています。」
- (2) ㉔ 「あなたの誕生日を教えてください。」
㉕ 「いつあなたが生まれたのかを教えてください。」
* be born 「生まれる」
- (3) ㉔ 「あなたは彼の年齢を知っていますか。」
㉕ 「あなたは彼が何歳か知っていますか。」

- (4) ㉔ 「あなたのお母さんはなんて上手に料理をするのでしょうか。」
㉕ 「あなたのお母さんはなんて上手な料理人なのでしょう。」 * 《What(+ a[an]) + 形容詞 + 名詞 + 主語 + 動詞!》
- (5) ㉔ ㉕ 「父は約30分前に帰宅しました。」 * half an hour 「30分」
- (6) ㉔ 「これらは彼の本です。」
㉕ 「これらの本は彼のものです。」

- (7)ⒶⒷ 「彼はわたしに何も言いませんでした。」
- (8)Ⓐ 「メアリーは昨年の夏、楽しいときを過ごしました。」
* have a good time 「楽しいときを過ごす」
- Ⓑ 「メアリーは昨年の夏、楽しみました。」 * enjoy oneself 「楽しむ」
- (9)Ⓐ 「この寺が建てられてから 300 年が経ちます。」
- Ⓑ 「この寺は築 300 年です。」 * 建物の築年数などを表す場合にも、old を用いることができる。
- (10)Ⓐ 「あなたは昨晚、よく眠れましたか。」
- Ⓑ 「あなたは昨晚、よい睡眠をとりましたか。」
- (11)Ⓐ 「わたしたちの先生はバイオリンを上手に弾きます。」
- Ⓑ 「わたしたちの先生はバイオリンを弾くのが得意です。」 * be good at ~ing 「～するのが得意だ」
- (12)Ⓐ 「彼はきのう、学校に行きませんでした。」
- Ⓑ 「彼はきのう、学校を欠席しました。」 * be absent from … 「…を欠席する」
- (13)Ⓐ 「彼はとても上手な英語の話し手です。」
- Ⓑ 「彼はなんて上手に英語を話すのでしょうか。」
- (14)Ⓐ 「ジョンもメアリーも、パーティーに行きませんでした。」

- た。」
- Ⓑ 「ジョンはパーティーに行かず、メアリーも行きませんでした。」
- (15)Ⓐ 「ニューヨークにいる間、わたしは何度か彼に会いました。」 * while は接続詞。
- Ⓑ 「ニューヨーク滞在中、わたしは何度か彼に会いました。」 * during は前置詞。
- (16)Ⓐ 「あなたの計画はわたしのとは少し違います。」
* be different from … 「…と違う」
- Ⓑ 「あなたの計画とわたしのには少し違いがあります。」
* between A and B 「A と B の間に [で]」
- (17)Ⓐ 「もしあなたが助けてくれなければ、わたしはその仕事をするのができないでしょう。」
- Ⓑ 「あなたの助けなしでは、わたしはその仕事をするのができないでしょう。」
- (18)Ⓐ 「郵便局へ向かっている間に、わたしはアンに会いました。」
- Ⓑ 「郵便局へ行く途中、わたしはアンに会いました。」
* on one's way to … 「…へ行く途中に」

発展問題

P106 1

- | | | |
|-----------------------|----------------------|--------------------------|
| (1) must | (2) later in winter | (3) best swimmer |
| (4) Nothing, so[as] | (5) as[so], rain, as | (6) been dead for |
| (7) No, since | (8) visited | (9) so, that, couldn't |
| (10) enough for | (11) impossible to | (12) It, of |
| (13) enjoyed watching | (14) without saying | (15) beautiful garden he |
| (16) flies | (17) spend | |

訳と解説

- (1)Ⓐ 「あなたが空腹だとわたしは確信しています。」
- Ⓑ 「あなたは空腹に違いありません。」
- (2)Ⓐ 「日本では、太陽は冬よりも夏のほうが早く昇ります。」
- Ⓑ 「日本では、太陽は夏よりも冬のほうが遅く昇ります。」
- (3)Ⓐ 「わたしのクラスのだれも、ジョンほど上手に泳げません。」
- Ⓑ 「ジョンはわたしのクラスで1番の泳ぎ手です。」
- (4)Ⓐ 「健康がわたしたちの生活で1番大切なものです。」
- Ⓑ 「わたしたちの生活で健康ほど大切なものはありません。」
- (5)Ⓐ 「ここでは、あなたの国ほど頻りに雨が降りません。」
- Ⓑ 「ここでは、あなたの国ほど多く雨が降りません。」
- (6)ⒶⒷ 「わたしのおばが死んで5年が経ちます。」
- (7)Ⓐ 「トムは1980年の1月に、最後に目撃されました。」
- Ⓑ 「1980年の1月以来、だれもトムを見ていません。」
- (8)Ⓐ 「山田夫妻はオーストラリアに行ったことがあります。」
- Ⓑ 「山田夫妻は1度オーストラリアを訪れました。」
* went は不可。うしろに前置詞 to が必要。
- (9)ⒶⒷ 「きのう、わたしはとても疲れていたので宿題をすることができませんでした。」
* so … that - can't ~ 「とても…なので-は~できない」
- (10)Ⓐ 「この帽子は安いので、彼女はそれを買うことができます。」
- Ⓑ 「この帽子は、彼女が買うには十分な安さです。」
- (11)Ⓐ 「わたしたちはいつ彼がここに着くかわかりません。」
- Ⓑ 「彼の到着時刻を知るのは不可能です。」
* impossible 「不可能な」
- (12)Ⓐ 「あなたは親切にもわたしを家まで車で送ってくれま

した。」

- ① 「わたしを家まで車で送ってくれるなんて、あなたは親切でした。」 *人の性質を表す形容詞の場合には、It is ... of - to ~ . となる。
- 13① 「昨夜、わたしはテレビで野球の試合を見て楽しいときを過ごしました。」
- ② 「昨夜、わたしはテレビで野球の試合を見て楽しみました。」
- 14① 「彼は部屋を出て行きました。彼はおやすみと言いま

せんでした。」

- ② 「彼はおやすみと言わずに部屋を出て行きました。」 * without ~ing 「～せずに」
- 15① 「彼の庭はなんてきれいなのでしょうか。」
- ② 「彼はなんてきれいな庭を持っているのでしょうか。」
- 16①② 「わたしの父はよく飛行機で北海道に行きます。」 * fly to ... 「飛行機で...へ行く」
- 17① 「あなたはきのう、何をしましたか。」
- ② 「あなたはきのう、どのように過ごしましたか。」

2

P107

- | | | |
|--|-------------------------|------------------------|
| (1) took | (2) known | (3) be taken |
| (4) was born | (5) painted by | (6) standing |
| (7) named | (8) which[that] was cut | (9) never read such an |
| (10) difficult that she couldn't read them | | |
| (11) talk to | (12) Nobody can | (13) have to, before |
| (14) your plan | (15) made | (16) cost me |
| (17) There is no | (18) take[lead] you | |

訳と解説

- 1① 「わたしは10分で駅に着きました。」
- ② 「わたしは駅に着くのに10分かかりました。」 * 《It takes + (人) + 時間 + to ~ .》 「(-が) ~するの(に) [時間が] ...かかる。」
- 2① 「わたしたちはみんな、メアリーのお姉[妹]さんのナンシーはよい先生だと知っています。」
- ② 「メアリーのお姉[妹]さんのナンシーはよい先生として知られています。」
- 3① 「わたしたちはその犬の世話をしなければなりません。」
- ② 「その犬は世話をされなければなりません。」
- 4① 「6月8日はわたしの誕生日です。」
- ② 「わたしは6月8日に生まれました。」
- 5① 「これは先週、わたしの父が描いた絵です。」
- ② 「これは先週、わたしの父によって描かれた絵です。」
- 6① 「あの家はきれいです。それは丘の上に立っています。」
- ② 「丘の上に立っているあの家はきれいです。」
- 7① 「加藤さんはねこを飼っています。その名前はクロです。」
- ② 「加藤さんはクロと名づけられたねこを飼っています。」
- 8① 「わたしの父が切り倒した木はとても古いものでした。」 * cut down ... 「...を切り倒す」
- ② 「わたしの父によって切り倒された木はとても古いものでした。」

- 9① 「これはわたしが今まで読んで中でいちばんおもしろい本です。」
- ② 「わたしは今までにこれほどおもしろい本を読んだことがありません。」
- 10① 「それらの本はとても難しかったので彼女は読むことができませんでした。」
- ② 「それらの本はとても難しかったので彼女はそれらを読むことができませんでした。」 * 動詞 read のうしろに、その目的語にあたる名詞(the books)を代名詞に置きかえたものを補う必要があることに注意。
- 11①② 「彼には話をする友達が何人かいます。」
- 12① 「その質問に答えることはだれにも不可能です。」
- ② 「だれもその質問に答えることはできません。」
- 13① 「両親にたずねるまではわたしは電話を買えませんでした。」
- ② 「電話を買う前にわたしは両親にたずねなければなりません。」
- 14① 「あなたは夏休みに何をするつもりですか。」
- ② 「夏休みのあなたの計画は何ですか。」
- 15①② 「わたしたちはすぐに出発することにしました。」 * make up one's mind 「決心する」
- 16① 「わたしはこの本に1万円払いました。」 * pay A for B 「BにAを払う」
- ② 「この本は1万円しました。」 * 《cost + 人 + 金額》 「人に [金額が] ...かかる」
- 17①② 「あなたは急ぐ必要はありません。」 * ②の need は

名詞。

(18)a 「もしあなたがこの道を行けば、あなたは駅に着くで

しょう。」

b 「この道があなたを駅に連れていくでしょう。」

P108 3

- | | | |
|-----------------------|---|-------------------------|
| (1) birth | (2) What, price | (3) Some |
| (4) child, loves | (5) What, think | (6) front of |
| (7) with, on | (8) before swimming | (9) at, age |
| (10) because of | (11) for | (12) How about swimming |
| (13) wrong with | (14) first, for | (15) keeping, over, ago |
| (16) distance between | (17) walk took[brought] us to the station | |
| (18) she was | | |

訳と解説

- (1)a 「あなたはいつ生まれましたか。」
 b 「あなたの生まれた日はいつですか。」 * birth 「誕生」
- (2)a 「この自転車はいくらですか。」
 b 「この自転車の値段はいくらですか。」 * price 「値段」
- (3)a 「クラスメートの全員がそのゲームに興奮したわけではありませんでした。」 * 部分否定。
 b 「そのゲームに興奮したクラスメートもいれば、そうでないものもいました」
 * some ~, others … 「～のものもあれば、…のものもある」
- (4)a/b 「カナダの子供たちはみんな、ウィンタースポーツが大好きです。」 * every は《every + 単数名詞》の形で用い、単数扱い。
- (5)a 「日本についてのあなたの意見は何ですか。」
 * opinion 「意見」
 b 「あなたは日本についてどう思いますか。」
 * What do you think of …? 「…についてどう思いますか。」
- (6)a 「わたしたちの学校は銀行の後ろに立っています。」
 * behind … 「…の後ろに」
 b 「銀行はわたしたちの学校の前に立っています。」
 * in front of … 「…の前に」
- (7)a 「入るとき、あなたは帽子を脱がなければなりません。」
 * take off … 「…を脱ぐ」
 b 「あなたは帽子をかぶったまま入れません。」
 * with … on 「…を身につけて」
- (8)a 「昼食後、わたしは海で泳ぎました。」
 b 「海で泳ぐ前、わたしは昼食を食べました。」

- (9)a/b 「わたしのおじは17歳のときアメリカへ行きました。」 * at the age of … 「…歳のときに」
- (10)a 「激しい雨が彼の外出を妨げました。」
 * keep … from ~ing 「…が～するのを妨げる」
 b 「激しい雨のため彼は外出できませんでした。」
 * because of … 「…のために」
- (11)a 「なぜあなたはそんなに一生懸命働くのですか。」
 b 「何のためにあなたはそんなに一生懸命働くのですか。」 * What … for? 「何のために…」
- (12)a/b 「わたしたちとっしょに泳ぎませんか。」
 * Why don't you ~? 「～しませんか。」
- (13)a 「この時計はよく動きません。」
 b 「この時計はどこがおかしい。」 * There is something wrong with … 「…はどこがおかしい。」
- (14)a 「わたしは以前にこれほど素晴らしい絵[写真]を見たことがありません。」
 b 「わたしにとってこれほど素晴らしい絵[写真]を見るのはこれが初めてです。」
- (15)a 「ケイトは5年以上日記をつけています。」 * keep a diary 「日記をつける」
 b 「ケイトは5年以上前に日記をつけ始めました。」
 * more than … = over … 「…以上」
- (16)a 「わたしはロサンゼルスからサンフランシスコまでのくらい遠いの知りません。」
 b 「わたしはロサンゼルスとサンフランシスコの間の距離を知りません。」 * distance 「距離」
- (17)a 「20分歩いた後、わたしたちは駅に着きました。」
 b 「20分の徒歩がわたしたちを駅へ連れていきました。」
- (18)a/b 「わたしたちは彼女が裕福だと思いました。」

- | | | |
|------------------------|--|-----------------------|
| (1) nothing, to | (2) mind washing | (3) of catching |
| (4) been heard to sing | (5) what | (6) How exciting |
| (7) asked, if[whether] | (8) us to get up early | (9) where I was going |
| (10) asked, he liked | (11) wish, could | (12) had had |
| (13) be unable to | (14) to be married | (15) enabled, to |
| (16) Who | (17) made your brother change his mind | |

訳と解説

- (1)Ⓐ 「それがわたしが言いたいことのすべてです。」
 Ⓑ 「わたしはこれ以上何も言うことはありません。」
- (2)ⒶⒷ 「わたしのために車を洗ってくれないか。」
 * Do you mind ~ing? 「～してくれませんか。」
- (3)ⒶⒷ 「わたしはその列車に間に合うと確信しています。」
 * be sure of … 「…を確信している」
- (4)Ⓐ 「わたしたちはよく、彼女が歌うのを聞きました。」
 * 《hear + 目的語 + 原形不定詞》「-が～するのを聞く」
 Ⓑ 「彼女はよく、歌を歌うのを聞かれました。」
 * 受動態では原形不定詞は to 不定詞になる。
- (5)Ⓐ 「わたしはあなたが理解できません。」
 Ⓑ 「わたしはあなたの言うことが理解できません。」* 先行詞を含み「…のこと、もの」という意味を表す関係代名詞。
- (6)Ⓐ 「ビルはそのゲームが彼をととも興奮させると言いました。」
 Ⓑ 「ビルは『そのゲームはなんて興奮するんだ。』と言いました。」* excite は「…を興奮させる」という意味。主語 the game は、興奮させる側なので、exciting を用いる。
- (7)Ⓐ 「その審判は選手たちに『準備はいいか。』と言いました。」* referee 「審判」
 Ⓑ 「その審判は選手たちに準備がいいかどうかたずねました。」
- (8)Ⓐ 「わたしの先生はよく、わたしたちに『早起きなさい。』と言いました。」
 Ⓑ 「わたしの先生はよく、わたしたちに早起きするよう言いました。」
- (9)Ⓐ 「『どこへ行くところですか。』とメアリーがわたしにたずねました。」
 Ⓑ 「メアリーはわたしにわたしはどこに行くところなのかたずねました。」* 代名詞の変化に注意。
- (10)Ⓐ 「わたしは彼に『あなたは何のスポーツが好きですか。』と言いました。」
 Ⓑ 「わたしは彼に何のスポーツが好きか聞きました。」
- (11)Ⓐ 「わたしは彼女ほど上手に英語が話せなくて残念です。」
 Ⓑ 「彼女と同じくらい上手に英語を話せたらいいのに。」* 《I wish + 仮定法過去》
- (12)Ⓐ 「わたしはお金が足りなくて車を買うことができませんでした。」* lack 「不足」
 Ⓑ 「もし十分なお金を持っていたら、わたしは車を買えただろうに。」* 仮定法過去完了。
- (13)Ⓐ 「あなたがその仕事を完成するのは不可能でしょう。」* complete … 「…を完成する」
 Ⓑ 「あなたはその仕事を完成することはできないでしょう。」* able の反意語 unable を用いる。
- (14)ⒶⒷ 「メアリーは結婚しているそうです。」* They say (that) A is B. = A is said to be B.
- (15)Ⓐ 「彼は勤勉だったので、その難しい仕事をすることができました。」* diligent 「勤勉な」
 Ⓑ 「勤勉さが、彼がその難しい仕事をするのを可能にしました。」* diligence 「勤勉」, enable … to ~ 「…が～するのを可能にさせる」
- (16)Ⓐ 「だれも将来、何が起るかわかりません。」
 Ⓑ 「だれが将来、何が起るかわかるでしょうか。」* 修辭疑問。
- (17)Ⓐ 「なぜあなたのお兄[弟]さんは医者になるという気持ちを変えたのですか。」
 Ⓑ 「何があなたのお兄[弟]さんに医者になるという気持ちを変えさせたのですか。」
 * 《make + 目的語 + 原形不定詞》「-に～させる」

練成問題

P110 1

- (1) Get up before six, and you will be in time for the first train.
- (2) Jiro was so hungry that he couldn't sleep.
- (3) I am sorry that I have to say goodbye (now.)
- (4) (I don't) have as many books as he.
- (5) Will you tell me something about your hobbies?
- (6) Shall we ask her to help us?
- (7) How many songs have you learned in (English?)
- (8) It was difficult for me to read the book in a day.
- (9) I was too busy to take care of the flowers.
- (10) (The) important thing is working for world peace.
- (11) I enjoyed swimming in the sea last Sunday.

解説

- (1) 「…しなさい、そうすれば～」《命令文…, and ～》, 「…間に合う」 be in time for …
- (2) 「…すぎて～だ」《so … that ～》
- (3) 「わたしは今、さようならを言わなければならないのが残念です。」という英文を完成させる。
- (4) 《as + 形容詞 + 名詞 + as》の語順になることに注意。
- (6) 「～しましょうか。」 Shall we ～?, 「…に～するよう頼

む」 ask … to ～

- (7) 「あなたはいくつの歌を英語で習いましたか。」という英文を完成させる。
- (8) 「～が～するのは…だ。」 It is … for - to …
- (9) 「とても…なので～できない」《too … to ～》, 「…の手入れをする」 take care of …
- (11) enjoy は動名詞だけを目的語にとる動詞。

P111 2

- (1) This book will tell you how to cook.
- (2) What a pretty hat you have on your head!
- (3) Do you know the name of the girl singing under the tree?
- (4) That tall man who has just come in is (my father.)
- (5) (Please) show me the pictures you took (in the park last week.)
- (6) Who painted the beautiful picture on the wall?
- (7) Do you know what he is looking for?
- (8) (This) shows how little Tom knows the world.
- (9) You have been to Canada before, haven't you?
- (10) (How) long does it take to get (there by bus?)
- (11) Few students were late for school this morning.
- (12) Something is wrong with this television.

解説

- (1) 「この本はあなたに料理の仕方を教えてくれるでしょう。」という英文を完成させる。
- (2) what で始まる感嘆文の語順は《What (+a[an]) + 形容詞 + 名詞 + 主語 + 動詞!》となる。
- (7) 間接疑問文《疑問詞 + 主語 + 動詞～》の語順に注意。
* 「…を探す」 look for …
- (8) 「これはトムがいかに少ししか世間を知らないかを示し

- ています。」という英文を完成させる。
- (9) 付加疑問文。
- (10) 「～するのにどれくらいかかりますか。」 How long does it take to ～?
- (11) 「ほとんど…ない」 few, 「…に遅れる」 be late for …
- (12) 「…はどこか故障している。」 Something is wrong with ….

3

- (1) Hurry up, or you will miss the concert.
- (2) She couldn't go there because she was sick in bed.
- (3) She began to study as soon as she got home.
[As soon as she got home, she began to study.]
- (4) (My) dog is not as big as yours.
- (5) (Which is) the most interesting of these three books?
- (6) (She) would like to study music in Italy (in the near future.)
- (7) (Can) I have something hot to drink?
- (8) (He told) me not to be late for (school again.)
- (9) There are too many words to remember.
- (10) (There are) three hundred books in his room.
- (11) The famous temple was destroyed by the last earthquake.
- (12) (The) boy standing by the gate is my cousin.
- (13) Do you know the language spoken in Brazil?
- (14) (Do you know of) the scientist who wrote this book?
- (15) Have you read the book I lent (you the other day?)
- (16) I wonder what happened to him.
- (17) (Do you have) anything a little cheaper?

訳と解説

- (1) 「急ぎなさい、さもないとコンサートに間に合わないでしょう。」 * 「…しなさい、さもないと～。」《命令文…, or ～.》
- (2) 「彼女は病気で寝ていたのでそこへ行くことができませんでした。」
- (3) 「彼女は家に着くとすぐに勉強をし始めました。」 * 「…するとすぐに」 as soon as …
- (4) 「わたしの犬はあなたのほど大きくありません。」
- (5) 「これら3冊の本のうち、どれが1番おもしろいですか。— おそらく真ん中でしょう。」 * 「3冊の本のうち」と複数内容を表す語の範囲内なので of を用いる。
- (6) 「彼女は近い将来、イタリアで音楽を勉強したいと思っています。」 * would like to ～ 「～したい」,

- in the (near) future 「(近い)将来」
- (7) 「きょうはとても寒い。何か温かい飲み物をいただけますか。— コーヒーを1杯いかがですか。」 * 《something + 形容詞 + to 不定詞》の語順に注意する。
- (8) 「彼はわたしに再び学校に遅刻しないように言いました。」 * 不定詞の否定形は not to ～。
- (9) 「とてもたくさん単語があるので覚えられません。」
- (10) 「彼の部屋には本が300冊あります。」
- (11) 「その有名なお寺はこの前の地震でこわれました。」 * destroy … 「…をこわす」, earthquake 「地震」
- (12) 「門のそばに立っている男の子はわたしのいとこです。」 * cousin 「いとこ」
- (13) 「あなたはブラジルで話されている言葉を知っていますか。」

- (14) 「あなたはこの本を書いた科学者について知っていますか。」
 (15) 「あなたはわたしが先日貸した本を読みましたか。— いえ、まだです。」 * the other day 「先日」

- (16) 「彼に何が起こったのかしら。」
 (17) 「何かもう少し安いものはありますか。」 * 《anything + 形容詞》の語順にする。ここでは a little が cheaper を修飾していることに注意。

発展問題

P113 1

- (1) Football is one of the most popular sports in the United States.
- (2) (The) Mississippi is longer than any other river in the United States.
- (3) This bridge is three times as long as that one.
- (4) (There) were no chairs for them to sit on.
- (5) I would like you to speak a little more slowly.
- (6) We found it difficult to solve the question.
- (7) (I) am sorry to hear that your father has been ill so (long).
- (8) What kind of sports are you interested in watching?
- (9) Would you mind my opening the window?
- (10) He is looking forward to going swimming in the river.
- (11) (I) was spoken to by a stranger on my way (home).

解説

- (1) 「最も…のうちの1つ」《one of the + 最上級 + 複数名詞》
- (2) 「他のどの～よりも…」《比較級 + than any other + 単数名詞》
- (3) 「～の…倍の-」《… times as + 原級 + as ~》
- (4) 「いすの上に座る」ので on が必要。
- (5) 「-に～してほしい」《would like - to ~》
- (6) 「～するのが…とわかる」find it … to ~ *この it は

形式目的語。

- (8) 「～することに興味がある」be interested in ~ing
- (9) 「(わたしが)～してもよろしいですか。」Would you mind my ~ing?
- (10) 「～するのを楽しみにする」look forward to ~ing.
「泳ぎに行く」go swimming
- (11) 「…に話しかける」speak to …, 「家へ帰る途中で」on one's way home

P114 2

- (1) The hill covered with snow can be seen from here.
- (2) This book gives us very little information about Canada.
- (3) This zoo is not so large as that of Ueno.
- (4) This is the most interesting book I have ever read.
- (5) Is there anything you want me to do?
- (6) We must always try to learn what is happening in the world.
- (7) Who do you think is the best player of (them all?)
- (8) (It) makes no difference to me whether (you go or not.)
- (9) (Last night it) was so hot that I slept with the window open.
- (10) You had better not throw away what can still be (used.)
- (11) She watched her son cross the street.
- (12) You should not fail to have the door locked.

解説

- (1) 「…でおおわれた」 covered with …
- (2) 「この本はわたしたちにカナダについての情報をほとんど与えてくれませんか。」という英文を完成させる。
- (3) 「上野のほど」→「上野のそれ(=動物園)ほど」となるように、名詞の繰り返しを避ける that を用いて表す。
- (5) 「…に～してほしい」 want … to ～
- (6) 「～するよう努める」 try to ～
- (7) yes / no で答えられないので、疑問詞は文頭に出す。
- (8) 「…だろうがなかるうが」 whether … or not, 「かわらない」 it makes no difference

- (9) 「窓を開けたままで」は、with A B 「A が B の状態で」を用いて表す。
- (10) 「～してはいけないよ」→「～しないほうがよい」と考える。「まだ使えるもの」は関係代名詞 what を用いて表す。* 「…を捨てる」 throw away …
- (11) 「-が～するのを見る」《watch + 目的語 + 原形不定詞》
* cross は動詞, across は前置詞。
- (12) 「必ず～する」は not fail to ～, 「ドアにかぎをかけておく」は《have + 目的語 + 過去分詞》「-を～させる」を用いて表す。* 「…にかぎをかける」 lock …

3

- (1) I'm afraid we'll have rain tomorrow.
- (2) (It has about) eight times as many people as Japan.
- (3) You had better not go out alone after dark.
- (4) (He) has gone to the station to meet his friend.
- (5) (Well, first of all,) it is necessary for you to sleep well.
- (6) She was kind enough to show me the way.
- (7) I'm looking forward to hearing from you.
- (8) Reading books will make you wise.
- (9) How many languages are spoken in the world?
- (10) (I have never) read novels written in English.
- (11) (I) want to show you the picture he took (in London.)
- (12) Why don't we take a short walk (in the rose garden?)
- (13) He asked me what time it was.
- (14) (I) wonder how often he practices it in (a week.)
- (15) (What) is the name of the dog you are looking for?
- (16) (The movie) we are making will make many people happy.

訳と解説

- (1) 「あしたはわたしたちの学園祭です。あなたはよい天気になると思いますか。— わたしは、あしたは雨ではないかと思います。」 * I'm afraid(that) … 「…ではないかと思う。」
- (2) 「インドにはどのくらいの人がありますか。— 日本の約8倍です。」
- (3) 「暗くなってから1人で出かけないほうがいいですよ。」
- (4) 「タケオはどこにいますか。— 彼は出かけています。友達に会うために駅へ行ってしまいました。」
* have gone to … 「…へ行ってしまった」
- (5) 「健康になるためにわたしは何をするべきですか。— ええと、まず、あなたにはよく眠ることが必要です。」

- * healthy 「健康な」, necessary 「必要な」
- (6) 「彼女は親切にもわたしに道を教えてくれました。」
* … enough to ～ 「～するのに十分…、～できるほど…」
 - (7) 「わたしはあなたからの便りを楽しみにしています。」
* hear from … 「…から便りがある」
 - (8) 「本を読んではいかがですか。読書はあなたを賢くするでしょう。」 * wise 「賢い」
 - (9) 「世界ではいくつの言語が話されていますか。」
 - (10) 「わたしは英語で書かれた小説を1度も読んだことがありません。」 * novel 「小説」
 - (11) 「わたしは彼がロンドンで撮った写真をあなたに見せたいと思います。これがそうです。」
 - (12) 「バラ園の中を少し散歩しませんか。」 * Why don't we

～? 「(いっしょに)～しませんか。」, take a (short)
walk 「(少し)散歩する」

- (13) 「彼はわたしに何時かたずねました。」
(14) 「彼は柔道がとても得意です。わたしは彼が週にどの
くらいそれを練習しているのかと思います。」 * how

often は頻度・回数をたずねるときに用いる。

- (15) 「あなたが探している犬の名前は何ですか。」
(16) 「わたしたちが作っている映画は多くの人を幸せにする
でしょう。」

練成問題

1

P116

- (1) ウ (2) イ (3) エ (4) オ

解説

- (1) ア 文末の yet は否定文で用いる。
 イ 「…以来」 since …
 エ 期間を表すときは in ではなく for。
 (2) ア something を修飾する形容詞は後置。
 ウ 「…を誇りに思う」 be proud of …
 エ 現在完了は特定の過去を示す副詞 (句) とともに用いない。
 (3) ア 「…人の中で」《of the + 数字…》
 イ money は数えられないので much を使う。
 ウ good の比較級は better。
 (4) ア 間接疑問は《疑問詞 + S + V》なので what she will do ~ が正しい。
 イ 否定文での「…も」は either。
 ウ 付加疑問文の do they は are they が正しい。

2

- ウ, キ, コ

解説

- ア 正しくは What is this flower called? となる。
 イ practice に 3 人称単数を表す s をつける。
 エ 感嘆文は《How + 副詞 + S + V!》の語順。
 オ 「バスで」 by bus
 カ talking の次に to [with] が必要。
 ク It is difficult for me to ~ . が正しい形。
 ケ member の前に冠詞の a を入れる。
 サ 主語は Following the rules で単数扱いなので、動詞は is, things は thing に。
 シ a tiger は「トラというもの」なので特定できない。したがって it ではなく one を使う。

3

P117

- (1) to talk → talking (2) exciting → excited (3) died → been dead
 (4) Japan → that of Japan

解説

- (1) enjoy の目的語は名詞か代名詞か動名詞。
 (2) 「興奮した」 excited
 (3) 形容詞を用いて has been dead for five years で「5年前に死んでいる」とする。
 (4) カナダの気候と日本の気候を比べる文。「日本の気候」は名詞の繰り返しを避ける that を用いて that of Japan とする。

4

- (1) Which → How (2) have finished → finished (3) papers → paper
 (4) much better tennis player → a much better tennis player
 (5) little → few (6) I → me

解説

- (1) 交通手段は How ～？でたずねる。
- (2) ago があるので現在完了ではなく過去形。
- (3) paper は物質名詞なので単数形。

- (4) 名詞 tennis player には冠詞が必要。
- (5) fish は単複同形だが数えられる名詞。
- (6) for があるので主格ではなく目的格に。

5

イ which → whose エ before → till[until] キ surprising → surprised

解説

イ 2文に分けると、There is a girl at the office. I always forget her name. となる。

エ 「～するまで」 till[until] ～

キ surprising は「驚くべき」の意味。「(人が)驚いた」は surprised で表す。

発展問題

P118

1

ア, ウ, オ, ケ, セ

解説

- イ baseball などを修飾する形容詞は excited 「興奮した」でなく exciting 「興奮させるような」。
- エ 「だれも～ない」は None で始める。
- カ be made into … 「…に作りかえられる」が正しい。
- キ make oneself heard (過去分詞) 「自分の声を届かせる」
- ク convenient (for…) 「(…にとって)都合がよい」は人

を主語にしない。

- コ Tokyo の前に in が必要。
- サ 「彼は～だそうだ。」は It is said that he ～. または He is said to ～. とする。
- シ new と many を入れかえる。
- ス 「3年が過ぎた」は three years have passed, または it is [has been] three years で表す。
- ソ spoken の次に to が必要。

2

- (1) where → which[that] (2) lays → lies (3) to open → opening
- (4) hear → hearing (5) will come → comes (6) in → on
- (7) were → was (8) going → coming

解説

- (1) 動詞 visit の目的語になる関係代名詞に。
- (2) 「位置する」 lie
- (3) Would you mind ～ing? で「～していただけませんか」。mind の次は動名詞。

- (4) look forward to ～ing 「～することを楽しみに待つ」
- (5) 時を表す副詞節中では未来のことも現在形で表す。
- (6) 特定の日の朝は on を使う。
- (7) water は物質名詞なので単数扱い。
- (8) 相手の所へ行くという場合は come を使う。

P119

3

- (1) ア did (2) ウ is (3) イ were you surprised
- (4) オ by (5) オ It is easy for him (6) ア who speak

解説

- (1) ア 疑問詞 when は現在完了形では使えない。
- (2) ウ 条件を表す副詞節では未来のことも現在形で表す。
- (3) イ 「…に驚く」 be surprised at …
- (4) オ 「…までに」と期限を表すのは by。

- (5) オ 「彼が～するのは簡単だ。」は It で始めて It is easy for him to ～. で表す。
- (6) ア 「彼は英語をととても上手に話す生徒のうちの1人」なので、who の先行詞は students である。

練成問題

1

P120

- | | | |
|-------------------|-----------------------|-------------------------|
| (1) the taller | (2) looking for | (3) in bed |
| (4) All they need | (5) No one knows what | (6) small enough for me |
| (7) made into | (8) whose roof | (9) to seeing |
| (10) enough to | (11) to see her off | (12) has he been absent |
| (13) get ready | (14) whose father is | (15) spoken, since |
| (16) made, angry | (17) parked, father's | |

解説

- (1) 「ふたりのうちで…のほう」《the + 比較級 + of the two》
 (2) 「…を探す」 look for …
 (3) 「病気で寝ている」 be sick in bed
 (4) 「彼らが必要としているのは…だけ」 all they need is …
 (5) 「だれも…わからない」 no one knows …
 (6) 「-が~できるほど…」 … enough for - to ~
 (7) 「A(材料=ミルク)をB(製品=バター)にする」 make A into B

- (8) 《所有格の関係代名詞+名詞》を入れる。
 (9) 「~するのを楽しみに待つ」 look forward to ~ing
 (10) 「~するのに十分に…」 … enough to ~
 (11) 「…を見送る」 see … off
 (12) 「…を休む」 be absent from …
 (13) 「…の準備をする」 get ready for …
 (14) 《所有格の関係代名詞+名詞》を入れる。
 (15) 現在完了の形にする。
 (16) 「AをBという状態にする」 make A B
 (17) 《過去分詞 parked + 語句》が前の名詞 car を修飾する。
 * park … 「…を駐車する」

2

P121

- | | |
|----------------------------------|---|
| (1) cannot[can't], too careful | (2) the first to |
| (3) have known each other since | (4) More and more Japanese are |
| (5) I wanted to see was | (6) made friends with, whose parents were |
| (7) Because of, at the foot of | (8) be afraid of, on[over] the (tele) phone |
| (9) either you or, will have to | (10) wonder who is interested in |
| (11) In those days, made of wood | (12) for the first time, caught by |
| (13) not so[as], as Bill's | |

解説

- (1) 「いくら…しても~し過ぎることはない」 cannot ~ too …
 (2) 「~する最初の人」 the first to ~
 (3) 現在完了(継続)の形にする。
 (4) 「ますます多くの」 more and more
 (5) 「わたしが会いたかったその男の人」を主語にする。目的格の関係代名詞が省略された形。
 (6) 「…と友人になる」 make friends with …
 (7) 「…のために」 because of …, 「…のふもとで」 at the

foot of …

- (8) 「~するのを恐れる」 be afraid of ~ing. 「電話で」 on [over] the (tele) phone
 (9) 「AかBかどちらか」 either A or B
 (10) 「…かしら」は I wonder の次に間接疑問を続ける。
 (11) 「当時」 in those days
 (12) 《過去分詞(caught) + 語句(by …)》が前の名詞 fish を修飾する。
 (13) his grades と Bill's grades の比較である。Bill's grades は1語で Bill's とする。

- (1) afraid, wrong (2) How come (3) your business
 (4) Take, easy (5) about another

解説

- (1) 「(残念ながら)…と思う。」 I am afraid …, 「電話番号が違います。」 You have the wrong number.
 (2) 「どうして…、なぜ…」 はここでは How come …? とする。
 (3) 「大きなお世話だよ。」 That is none of your business.
 (4) 「気楽にやりなよ。」 Take it easy.
 (5) 「…はいかがですか。」 How about …?

4

- (1) You should not[ought not to / had better not] cross the road[street]
 (2) from our son (living) in New York once a month

解説

- (1) 「～すべきではない」《should not[ought not to / had better not] + 原形～》
 (2) 「月に1度」 once a month

5

- (1) traveling (2) am (3) I (4) sorry (5) stranger
 (6) didn't (7) what (8) to

解説

- (2)(3) 現在の自分のいる位置をたずねているので Where am I? とする。
 (4) 助けることができないことを申し訳なく思っているので I'm sorry, … とする。
 (5) 「この辺は初めてなので」とは、その土地に不慣れな人 (= stranger) ということ。
 (6)(7)(8) 「どうしたらよいかわからなかった。」 I didn't know what to do.

- (1) Say, to (2) What is, with (3) hear from
 (4) wish, luck (5) to meet[see] you (6) too bad
 (7) speaking, little more slowly

解説

- (1) 「…によるしく言う」 say hello to …
 (2) 「…はどうしたのか。」 What is the matter with …?
 (3) 「…から便り[電話]がある」 hear from …
 (4) 「幸運を祈るよ。」
 (5) 「お目にかかれてうれしいです。」
 (6) 「お気の毒に。」
 (7) 「～していただけませんか。」 Would you mind ~ing?

7

- (1) weather (2) forecast (3) it (4) snow (5) how[what]
 (6) sounds (7) Shall (8) way

解説

- (1)(2) 「天気予報」 the weather forecast
 (3)(4) 「雪が降る」は天候を表す it を主語にする。
 (5) How[What] about …? は提案や勧誘の表現。
 (6) 賛成の意のあいづち。sound は「[耳で聞いたことに
 対して] …に思われる」という意味の第2文型の動詞。look, seem は「[目で見たことに対して] …に思われる」の意味。
 (7) 「～しましょうか。」 Shall I ~?
 (8) 「…への道のり、距離」 a way to …

練成問題

P124

1

- (1) The book (which[that]) he bought is on that desk.
 (2) The girl playing tennis there is my sister.
 (3) How many days a week do you work?
 (4) It is very important (for you[us]) to study English every day.

解説

- (1) 「本」を先行詞とし、「本」を後ろから「彼が買った」が修飾する構造を作る。
 (2) 「少女」を後ろから「そこでテニスをしている」が修飾する構造を現在分詞で作る。
 (3) 「…につき」は不定冠詞 a を名詞の前に置く。
 (4) 《It is … (for -) to ~.》の構文「(-が)～するのは…である。」

2

- (1) According to the evening newspaper, it will be rainy all day tomorrow.
 [The evening newspaper says it will be rainy all day tomorrow.]
 * it will be rainy は it will rain も可。
 (2) Because[As] I was in a hurry, I left my umbrella on the train.
 (3) I[We] have heard nothing from his cousin since he graduated from high school.
 (4) The boy decided[made up his mind] to be[become] a doctor in the future and help the poor. * the poor は poor people も可。

解説

- (1) 「…によると」 according to …, 「夕刊」 the evening newspaper
 (2) 「急いで」 be in a hurry, 「…を置き忘れる」 leave …
 (3) 「…以来何の消息もない」は現在完了で表現する。「…から連絡がない」は hear nothing from …, 「…を卒業する」は graduate from …とする。
 (4) 「～する決心をする」は decide to ～, または make up one's mind to ～で表す。「将来」は in the future。「貧しい人々」は the poor とする。《the + 形容詞》で「…な人たち」(複数扱い)という意味になる。

3

- (1) Do you know the woman (who is) playing tennis with your brother in the park?
 (2) I am[I'm] interested in English because it is one of the most important languages in the world.
 (3) I know a lot of[lots of / many] people who can read English magazines without using a dictionary.
 (4) As soon as I opened the window, the bird[birds] stopped singing and flew away.

解説

- (1) 「…を知っていますか。」は Do you know …? で始まる疑問文を作る。「女性」を先行詞とし、「公園であなたのお兄さんとテニスをしている」が後ろから「女性」を修飾する構造を作る。
 (2) 「…を知っている」は I know …で文を始め、「たくさんの人」 a lot of people を「辞書を使わずに英語の雑誌を読む」が修飾する構造を作る。* 「～せずに」 without ~ing
 (4) 「窓をあけたとたん」は as soon as ~を用いて表す。

P125 4

- (1) Let's talk about[over] our plans for tomorrow.
 (2) I was spoken to by a foreign man when I was walking along[down] the street.
 (3) I came[got] home late yesterday because I dropped in at a bookstore.
 (4) They say (that) we[you] may[can] enter American houses with our[your] shoes on.
 * They say は It is said または I hear も可。

解説

- (2) 「話しかけられた」は受動態で表現する。「話しかける」
 speak to は前置詞 to までを含めた形で be spoken to
 とする。「通りを歩いているとき」は《when + 過去進
 行形》で表現する。

- (3) 理由を説明している「…ので」は because …を用いる。
 「帰りがおくれた」 come home late, 「…による」は「…
 に立ち寄る」ということなので drop in at …で表現す
 る。

5

- (1) (Do) you have to stay[sit] up all night (long) tonight?
 (2) (My father) asked me to translate[put] this letter into German.
 (3) (I) want[would like] you to come to my house by seven o'clock.
 (4) (I) don't know where your house is.

解説

- (1) 「寝ないで起きている」 stay[sit] up, 「一晩中」 all
 night (long)

- (2) 「人に～するように頼む」《ask + 人 + to ~》の形にし
 る。* 「A を B に訳す」 translate[put] A into B

6

- (1) (Then) you may[can] go, but before that you must[have to] clean your room (, Ken.)
 [(Then) you may[can] go after you finish cleaning your room (, Ken.)]
 (2) (Well,) I want to buy a better dictionary than the one[dictionary](which[that]) I am
 using now.

解説

- (1) 「行ってもいい」は許可を表す助動詞 may を用いる。
 (2) 「今使っている辞書」は「辞書」を「今(わたしが)使っ

- ている」が後ろから修飾するように、 the dictionary[one]
 which[that] I am using now とする。同じ名詞(dictionary)
 の反復を避けるため代名詞 one を用いる。

発展問題

P126 1

- (1) You are sure to pass the entrance exam[examination].
 [I'm sure (that) you will pass the entrance exam[examination].]
 (2) I have just been asked the way to the museum by that foreign man.
 [I was asked the way to the museum by that foreign man just now.]
 [I have just been asked how to get to the museum by that foreign man.]
 [I was asked how to get to the museum by that foreign man just now.]

(3) On my[the] way to school I had my hat blown off (by the wind).

[On my[the] way to school the wind blew my hat off.]

(4) Thank you (very much) for coming all the way to the airport to see me[us] off.

[It is (very) kind of you to come all the way to the airport to see me[us] off.]

解説

- (1) 「あなたはきっと～します。」は You are sure to ～., または I'm sure (that) you ～. で表す。*「合格する」pass, 「入学試験」entrance exam(ination)
- (2) 「今～したところ」は just を使った現在完了, または just now を使った過去の文で表す。「道をきかれた」は受動態にする。

(3) 「風に帽子を吹きとばされた」は《have + 目的語 + 過去分詞》で表す。

* 「…へ来るとちゅう」on one's[the] way to …

(4) 「…してくれてありがとう。」は Thank you for ～ing. で表す。「わざわざ」は「遠いところをはるばる」と理解し all the way to …で表現する。* 「…を見送る」see … off

2

(1) Go to bed as early as possible[you can], or it will be hard[difficult] for you to get up at six tomorrow morning.

(2) Will[Would / Could] you tell me when I can[will be able to] see the old man who told you the story?

(3) My father has been in bed for three days with a bad cold, but today he looks better than yesterday.

(4) I was invited to my cousin's birthday party, but I couldn't be present[attend it] because I had many other things to do.

解説

- (1) 「…しなさい, さもないと～。」《命令文…, or ～.》の形にする。「起きるのはたいへんですよ。」は「～するのは…だ。」It is … to ～.の構文を用いる。

(3) 「3日前から寝床についている」は「3日間寝床についている」と解釈し, 現在完了を用いた文にする。

* 「ひどいかぜで」with a bad cold, 「…よりよく見える」look better than …

3

(1) Nowadays[These days] we (often) see foreign people doing many kinds of work in Tokyo.

(2) I think (that) no other language in the world is more useful than English (in order) to make ourselves understood.

[I think (that) no other language in the world is so[as] useful as English (in order) to make ourselves understood.]

解説

- (1) 「人が～しているのを見る」は《see + 人 + ～ing》で表す。
- (2) 「英語ほど役に立つ言葉はない。」は「A ほど…な B は

ない。」《No other B + 比較級 + than A》を使う。「相手に意思を伝える」は make ourselves understood を用いる。

- (1) I am (also) often asked if[whether] I have traveled[been] abroad.
 (2) I don't like traveling by plane[airplane / air], so I have never been out of Japan.

解説

- (1) 「～かどうかたずねられる」は受動態 be asked if[whether] ～で表現する。「海外旅行の経験の有無」は「海外

に旅行したことがあるかどうか」と解釈できる。if [whether] 以下に肯定文の語順で I have traveled [been] abroad と続ける。

5

- (1) The other day, I asked Tony to make plans for spring break[vacation / holiday(s)], but he hasn't done anything yet!
 (2) Maybe[Perhaps] he is too busy with his homework, so he can't think of the spring break[vacation / holiday(s)] at all. Anyway, let's hear what he will say about it.

解説

- (1) 「人に～するように頼む」は《ask + 人 + to ～》で表す。
 * 「…の計画を立てる」 make plans for …
 (2) 「…に手一杯で」は「…で忙しすぎる」ということなの

で be too busy with …で表す。「彼の言い分」は「彼がそれについて何と言うか」ということなので what he will say about it とする。

6

- (1) It is[has been] half a year[six months] since I entered this high school.
 [I have been (here) in[at] this high school for half a year[six months].]
 [Half a year has passed since I entered this high school.]
 (2) Ms. Green came in with a book under her arm.
 (3) I am sorry (that) few students borrow them from this library.
 (4) This is one of the best novels (that) I have ever read.

解説

- (1) 「わたしがこの高校に入学して半年になります。」は「わたしがこの高校に入学して以来半年が過ぎました。」ということなので現在完了で表す。* 「…に入学する」 enter …

- (2) 「…に入ってきました」は came in …と表現する。「本を1冊わきにかかえて」は《with + 目的語 + 前置詞句》の付帯状況を表す構文を用いる。
 (3) 「…がほとんどいない」は few …とする。

練成問題

1

P128

- (1) worse (2) queen (3) sailor (4) smell (5) life
 (6) wives (7) fruit (8) borrow (9) winner (10) sheep
 (11) northern (12) entrance (13) busier

解説

- (1) 比較級の不規則変化。good[well] - better - best, bad[ill] - worse - worst。
 (2) 対義語。
 (3) 「～する人」はふつうは動詞の末尾に er をつけるが, sail には例外的に or をつける。
 (4) 「目」は「見る」, 「鼻」は「においをかぐ」という関係。
 (5)(12) 動詞と名詞。
 (6) f や fe で終わる名詞を複数形にするときは原則として f や fe を ves に変える。

- (7) 「ジャガイモ」は「野菜」, 「オレンジ」は「くだもの」という関係。
 (8) 反意語。
 (9) win を名詞「勝者」にするときは n を重ね, er をつける。
 (10) 名詞の単数形と複数形が同じ形。Japanese(日本人), percent(パーセント)も同様である。
 (11) 名詞と形容詞。
 (13) 比較級の規則変化。〈子音字 + y〉で終わる形容詞は y を i に変えて er をつける。

2

- (1) tooth (2) through (3) sleep (4) bought (5) weak
 (6) heavy[dark] (7) far (8) shine (9) choose

解説

- (1) 複数形の不規則変化。母音 oo を ee に変えて複数形をつくる。
 (2) 同音異義語。rode(「乗る」の過去形), road は [roud] と発音し, threw(「投げる」の過去形), through は [θru:] と発音する。
 (3) 「すわる」は「いす」, 「眠る」は「ベッド」という関係。

- (4)(5)(6) 反意語。
 (7) far の比較変化。far - further[farther] - furthest [farthest]
 (8) 不規則変化の動詞。blow - blew - blown, shine - shone - shone
 (9) 動詞と名詞。

3

- ク government コ forty シ Christmas
 セ until タ calendar

解説

- コ four(4), fourteen(14)とちがいが, u が入らないことに注意する。

- シ [krisməs] と発音するため, つづりでは t を落とすやしい。
 セ till(…まで)のつづりと混同しやすい。

4

P129

- (1) rain (2) baby (3) letter (4) mouth (5) telephone

訳と解説

- (1) 「雲からしずくの状態で落ちてくる水, あるいはこれら

のしずくが落ちること=雨」

- (2) 「非常に若い子供, 特にまだ話すことができない子供=

赤ん坊」

- (3) 「通常は封筒に入れて送られる、書かれた、または印刷された通信=手紙」
 (4) 「顔のあいている部分であり、動物や人間が食べ物を体

内に取り入れたり、音が発せられたりする場所=口」

- (5) 「電気的な手段を使って音を伝達し、遠く離れた場所にいる人と話すための方法=電話」

5

- (1) foreign (2) President (3) desert (4) February (5) restaurant
 (6) neighbo(u)r (7) eight (8) spend (9) earth (10) dollar
 (11) left (12) hungry (13) continent (14) address (15) north
 (16) ticket (17) thirteenth (18) library (19) holiday

訳と解説

- (1) 「外国の物とは自分の国でない国の物のことです。」
 (2) 「アメリカの大統領はホワイトハウスに住んでいます。」
 (3) 「砂漠は雨が少なく、乾いた広い土地です。」
 (4) 「2月は1年で最も短い月です。」
 (5) 「レストランでは食事を買い、食べることができます。」
 (6) 「隣人とは家の隣に住む人です。」
 (7) 「2たす4は6です。3たす5は8です。」
 (8) 「忙しい社員は家族といっしょに時間を過ごすことができません。」
 (9) 「非常に多くの種類の生物が地球上にいます。」
 (10) 「ドルを表す記号は\$です。」
 (11) 「ジムを探しているのですか？ 彼は5分前に去りました。」
 (12) 「空腹のとき、しばらくの間食べていないし、胃が不快

または苦しい感じがするので物を食べたいと思います。」

- (13) 「大陸とは周り、または周りのほとんどが海に囲まれていて、たいいていくつもの国がある大きな土地です。」
 (14) 「彼がどこに住んでいるか知っていますか。知っていたら、住所と電話番号を教えてください。」
 (15) 「この島を運転してまわるのには約1時間かかります。南北約10キロの距離があります。」
 (16) 「切符は印刷された紙です。それを持って飛行機や電車などで旅行ができます。」
 (17) 「わたしの友達は13歳の誕生日の3日前に亡くなりました。彼はまだ12歳でした。」
 (18) 「読書のためのたくさんの本を所蔵している部屋あるいは建物は図書館と呼ばれます。」
 (19) 「アメリカの学生は『バケーションを取る』と言い、イングランドでは『ホリデーを取る』と言います。」

P130 6

- (1) farmers (2) Whales (3) sick[ill] (4) deep[dirty] (5) angry
 (6) cousin (7) islands (8) vegetables (9) zoo (10) spring
 (11) subjects (12) sports

訳と解説

- (1) 「米や野菜を育てる人は農民と呼ばれます。」
 (2) 「くじらは海にすむ最も大きな動物です。」
 (3) 「病気のときはたいいてい薬を飲みます。」
 (4) 「この池はたいへん深い〔汚い〕ので水底が見えません。」
 (5) 「わたしは父のお気に入りのお花びんをこわしてしまいました。彼はきっとわたしを怒るでしょう。」
 (6) 「父親の兄弟はおじです。おじの子どもはいとこです。」
 (7) 「日本には北海道、本州、四国、九州の4つの主要な島があります。」

(8) 「ニンジン、ジャガイモ、カボチャ、そしてそのほかの野菜は健康にとってとても大切です。」

- (9) 「ほとんどの子供は動物園に行くと、サル、ライオン、ゾウを見るのが好きです。」
 (10) 「これらの花を植える最もよい季節は3月、4月、5月のような春です。」
 (11) 「わたしは学生のとき、理科、数学、体育が大好きな科目でした。」
 (12) 「ラグビー、テニス、サッカー、クリケットは、イングランドの伝統的なスポーツです。」

7

- (1) light (2) come (3) mind (4) way (5) look
 (6) run

訳と解説

- (1) ① 「それをお持ちしましょうか。」 「いいえ、けっこうです。それはとても軽いのです。」
 ② 「明かりをつけましょうか。」 * turn ... on 「…(ラジオ・テレビなど)をつける」
 (2) ① 「今夜、パーティーがあります。来ませんか。」
 * Why don't you ~? 「～しませんか。」
 ② 「さくらはもうすぐ咲くでしょう。」 * come out 「咲く」
 (3) ① 「彼はいつもぎりぎりになって考えを変えてばかりいます。」 * change one's mind 「考えを変える」
 ② 「少しだけ外で待っていただけませんか。」
 * Would you mind ~ing? 「～していただけますか。」
 (4) ① 「パリへ行く最善の方法は列車と船です。」

- ③ 「わたしは学校から家へ帰る途中でいつもその公園を通り抜けます。」 * on one's way back home from ... 「…から家へ帰る途中で」
 (5) ① 「わたしの代わりに子供たちの世話をしていただけますか。6時30分に出かけなければなりません。」
 * look after ... 「…の世話をする」
 ② 「彼の電話番号を知っていますか。」 「いいえ。電話帳で調べてください。」 * look up ... 「(辞書などで)…を調べる」
 (6) ① 「2つの川が太平洋に流れ込んでいます。」
 * run 「(川が)流れる」
 ② 「わたしの父は将来スーパーマーケットを経営したいと思っています。」 * run 「(店など)を経営する」
 ③ 「その映画は長期間上演されました。」 * run 「(劇・映画などの)連続上演」

8

P131

- (1) aloud (2) road (3) sun (4) through (5) write

訳と解説

()内の単語は意味は異なるが、同じ音で発音される同音異義語である。

- (1) 「生徒たちは授業中に大声で(= aloud)話すことを許され(= allowed)ませんでした。」 * allowed(「許す」の過去形)も aloud も [ə'laʊd] と発音。
 (2) 「その少女は自転車に乗って(= rode), ゆっくりと道路(= road)を走りました。」 * rode(「乗る」の過去形)も road も [raʊd] と発音。
 (3) 「父親は自分の息子(= son)に日(= sun)の出とともに

起きるように言いました。」 * son も sun も [sʌn] と発音。

- (4) 「そのどろぼうは窓を押し開けました(= threw)が、それは彼が通り抜ける(= through)には小さすぎました。」 * threw(「投げる」の過去形)も through も [θru:] と発音。throw open ... 「…(戸・窓など)を押し[ぱつと]開ける」の意味に注意する。
 (5) 「子供たちはまだ十分小さいうちに右(= right)手で書く(= write)ことを身につけるべきです。」 * write も right も [raɪt] と発音。

9

- (1)① blew ② blue (2)① one ② won
 (3)① Would ② wood (4)① red ② read
 (5)① knows ② nose (6)① ours ② hours
 (7)① waste ② waist (8)① seen ② scene
 (9)① whole ② hole (10)① wait ② weight
 (11)① peace ② piece (12)① guessed ② guest

訳と解説

- (1) ① 「冷たい風が吹きこみました。」
 ② 「空がなんて青いのでしょう！」
 * blew(「吹く」の過去形)も blue も [blu:] と発音。
- (2) ① 「わたしはたくさん切手を持っています。あなたにこの切手をあげましょう。」
 ② 「きのう、試合でだれが勝ったか知っていますか。」
 * one も won(「勝つ」の過去形)も [wʌn] と発音。
- (3) ① 「紅茶をいかがですか。」— 「はい、お願いします。」
 ② 「このテーブルは木で作られています。」
 * would も wood も [wʊd] と発音。
- (4) ① 「秋には木の葉が赤くなります。」
 ② 「わたしは昨晚、その本を読みました。」
 * red も read(「読む」の過去形)も [red] と発音。
- (5) ① 「地球が丸いことをみんな知っています。」
 ② 「顔についている鼻はにおいをかぐために使われます。」
 * knows も nose も [noʊz] と発音。
- (6) ① 「あなたの子供はみんな男の子ですが、わたしたちのはみんな女の子です。」
 ② 「大阪からニューヨークまで飛行機で約 13 時間かかります。」
- (7) ① 「必要のない物を買ってお金をむだづかいはいけません。」
 ② 「トムはメグの腰に腕をまわしました。」
 * waste も waist も [weɪst] と発音。
- (8) ① 「大きな船が青い海を帆走しているのが見えました。」
 ② 「湖の上にボートがあるのは美しい光景です。」
 * seen(「見る」の過去分詞)も scene も [si:n] と発音。
- (9) ① 「まる1日、雨が降りました。」
 ② 「ゴルフの試合では、地面の穴にボールを入れなければなりません。」
 * whole も hole も [həʊl] と発音。
- (10) ① 「『歳月人を待たず』ということわざがあります。」
 ② 「食べすぎではいけません、さもないと体重がふえますよ。」
 * wait も weight も [weɪt] と発音。
- (11) ① 「第二次世界大戦の終結以来、日本は平和を享受しています。」
 ② 「スミス先生はチョークを 1 本取り、黒板に絵を描き始めました。」
 * peace も piece も [pi:s] と発音。
- (12) ① 「ホホワイトさんは 40 歳くらいだと推測したが、実際には彼女は 53 歳です。」
 ② 「バス、列車、飛行機などで運ばれる人は乗客と呼ばれ、ほかの人の家やホテルに泊まっている人は宿泊客と呼ばれます。」
 * guessed(「推測する」の過去形)も guest も [gest] と発音。

1

P132

エ, オ, キ, ク

解説

ア balance イ educate ウ university

カ elevator ケ président コ calendar

2

ア, オ, カ, サ, チ

解説

ア railroad オ between カ myself

サ newspaper チ guitar

3

イ, ウ, オ, サ, ス

解説

第1音節にアクセント…ア, エ, カ, ク, ケ, コ, セ, ソ

第3音節にアクセント…キ, シ

4

(1) エ (2) ア (3) エ

解説

(1) ア be-fóre イ be-gín
ウ a-róund エ fín-ish
(2) ア cér-tain-ly イ to-mór-row

ウ al-réad-y エ De-cém-ber
(3) ア án-y-thing イ fám-i-ly
ウ néws-pa-per エ an-óth-er

5

エ, カ

解説

ア tóld[ou], fáll[ɔ:], góld[ou]
イ bóx[a], ónly[ou], póst[ou]
ウ tálk[ɔ:], lów[ou], óld[ou]
エ すべて[au]

オ dírtý[ə:(r)], wárm[ɔ:(r)], éarly[ə:(r)]
カ すべて[ou]
キ wánted[id], séemed[d], ásked[t]
ク thóught[ɔ:], thóugh[ou], thróugh[u:]
ケ sóuthern[ʌ], tówn[au], fóund[au]

6

P133

(1) ア (2) ウ (3) ア (4) イ

解説

(1) [ʌ] ア [sʌm] イ [nou] ウ [puə(r)]
エ [klóʊðɪŋ]
(2) [eə(r)] ア [wʌnt] イ [jiə(r)]
ウ [peə(r)] エ [pi:p]

(3) [ei] ア [jeik] イ [fá:ðə(r)] ウ [méni]
エ [əgóu]
(4) [e] ア [i:t] イ [hévi] ウ [ti:tʃ]
エ [wi:k]

7

- (1) エ (2) ア (3) イ

解説

- (1) [e] ア [kli:n] イ [dʒæpəni:z]
 ウ [greit] エ [ikspénsiv]
 (2) [ə:(r)] ア [wə:(r)ld] イ [tʃeə(r)]

ウ [hɑ:(r)d] エ [kántri]

- (3) [ʌ] ア [wɔ:tə(r)] イ [máni]
 ウ [kámiks] エ [læf]

8

- (1) ウ (2) エ (3) イ (4) ウ (5) ア

解説

- (1) ウは[ɑ:(r)], 他は[ə:(r)] (2) エは[ð], 他は[θ]

(3) イは[ʒ], 他は[dʒ] (4) ウは[ʃ], 他は[s]

(5) アは[ei], 他は[e]

9

- (1) エ (2) イ (3) イ (4) ア (5) ウ
-
- (6) イ (7) ア

解説

- (1) エ[ɔ:], 他は[ou] (2) イ[u], 他は[u:]
 (3) イ[ɔ:(r)], 他は[ɔ:(r)] (4) ア[ʌ], 他は[ju:]

(5) ウ[eə(r)], 他は[ə:(r)] (6) イ[s], 他は[ʃ]

(7) ア[d], 他は[t]

10

- (1) ウ (2) エ (3) エ (4) ウ (5) ア

解説

- (1) ウ[u], 他は[ʌ] (2) エ[ei], 他は[æ]

(3) エ[e], 他は[i:] (4) ウ[ɑ:(r)], 他は[ə:(r)]

(5) ア[u], 他は[u:]

P134 11

- (1) ア (2) エ (3) エ (4) ア (5) オ

解説

- (1) ア[ð], 他は[θ] (2) エ[i:], 他は[ei]

(3) エ[ʌ], 他は[ju:] (4) ア[i:], 他は[e]

(5) オ[a], 他は[ʌ]

12

- (1) エ (2) オ (3) イ (4) ウ (5) イ
-
- (6) ア

解説

- (1) エ[au], 他は[ou] (2) オ[e], 他は[ei]

(3) イ[ɑ:(r)], 他は[ə:(r)] (4) ウ[i:], 他は[e]

(5) イ[ei], 他は[i:] (6) ア[ɑ:(r)], 他は[ou]

13

- (1) × (2) ○ (3) ○ (4) × (5) ○
-
- (6) ○

解説

- (1)
- abroad
- [ɔ:],
- boat
- [ou]

(2) allow[au], around[au](3) large[ɑ:(r)], artist[ɑ:(r)]

- (4) publish[ʌ], dollar[ɑ]
 (5) children[i], business[i]

- (6) measure[e], pleasant[e]

14

- (1) イ (2) × (3) ア (4) ○ (5) ×
 (6) イ (7) ウ (8) ○

解説

- (1) ア [au] イ [ʌ] ウ [au]
 (2) ア [ei] イ [e] ウ [æ]
 (3) ア [ai] イ [i] ウ [i]
 (4) すべて[t]

- (5) ア [ou] イ [ɔ:] ウ [u:]
 (6) ア [i:] イ [e] ウ [i:]
 (7) ア [tʃ] イ [tʃ] ウ [k]
 (8) すべて[ei]

15

- (1) イ (2) イ (3) イ (4) ウ

解説

- (1) ínterest は[i:], evént, bréakfast, léssson は[e]
 (2) párent は[eə], mistáke, fávorite, láter は[ei]

- (3) exámple は[æ], surpríse, excítíng, scíentíst は[ai]
 (4) becóme は[ʌ], tomórrow, fóllow, hósptal は[ɑ]

16

- (1) オ (2) ウ (3) ア (4) エ (5) イ

解説

- (1) fíeld は[i:], orígíally は[i]
 (2) fáll は[ɔ:], grów は[ou]

- (3) stránge は[ei], bréakfast は[e]
 (4) díe は[ai], wrítten は[i]
 (5) cóusin は[ʌ], sóld は[ou]

17

- (1) エ (2) ア (3) イ (4) ウ (5) イ

解説

- (1) événíng は[i:], éíghty は[ei], prétty は[i],
 bréakfast は[e]
 (2) táught, thóught, dáughter, Áugust すべて[ɔ:]
 (3) ángry は[æ], dránk は[æ], láte は[ei], begán は[æ]

- (4) clóud は[au], fóund は[au], thróugh は[u:],
 enóugh は[ʌ]
 (5) Márch は[ɑ:(r)], gárdén は[ɑ:(r)], léárn は[ɔ:(r)],
 hárd は[ɑ:(r)]

18

- (1) ア (2) エ (3) ア (4) イ

解説

- (1) wound[u:] ア soup[su:p] イ found[faund]
 ウ thought[θɔ:t] エ thousand[θáuznd]
 (2) close[s] は形容詞。動詞のときは [klouz] と発音される。
 ア lose[lu:z] イ advise[ədvaíz]
 ウ because[bikɔ:z] エ increase[ínkrís]

- (3) bow[bau] は名詞で「おじぎ」の意味。
 ア allow[ə'láú] イ know[nou]
 ウ crow[krou] 「からす」 エ below[bilóu]
 (4) tears[íə(r)] は名詞で「涙」の意味。
 ア bear[beə(r)] イ fear[fiə(r)]
 ウ wear[weə(r)] エ heard[hə:(r)d]

(1) イ (2) エ (3) イ (4) ウ

解説

(1) read[e]…過去形 ア [ei] イ [e] ウ [i:]
 エ [i:]

(2) lives[ai]…名詞「命」 ア [i:] イ [i] ウ [i]
 エ [ai]

(3) close[s]…形容詞「親しい」 ア [z] イ [s]
 ウ [z] エ [ʃ]

(4) learned[id]…形容詞「学問のある」 ア [d]
 イ [t] ウ [id] エ [t]

1

P136

(1)① though his father told him not to do so

② エ

③ エ→ウ→ア→オ→イ

解説

- ① 「彼の父親は彼にそんなことをしないように言ったのに」という意味の文にする。tell … not to ～で「…に～しないように言う」という意味を表す。* in spite of … 「…にもかかわらず」
- ② この lesson は「教訓」の意味。

全訳

小さな少年があるとき、父親と列車で旅行をしていました。その少年は ^A 父親の警告にもかかわらず、列車の窓から頭を出し続けました。とうとう父親は ^B 少年に教訓を与えようと思いましたが、そこで、少年が列車の窓から頭を出しているときに、突然少年の帽子を取り、自分の後ろに隠しました。「そら、見ろ。帽子をなくしてしまったじゃないか。わたし

はおまえが頭を窓の外に出していると、風で帽子が飛ばされてしまうと言ったじゃないか。」と父親は言いました。

すると、その小さな少年は泣き出し、とても悲しそうでしたので、とうとう父親は「さあ、泣くんじゃない。わたしが帽子が戻ってくるように、口笛を吹いてあげよう。」と言いました。そう言って、父親は突然口笛を吹き、すばやく自分の背後から帽子を取り出しました。少年は本当にとっても喜び、しばらくの間、どのようにしてお父さんが帽子を戻ってこさせたのかを不思議に思いながら静かにすわっていました。とうとう、少年は父親の旅行かばんを突然手に取り、窓の外へ放り投げました。「お父さん、旅行かばんのために口笛を吹いて、戻ってこさせてよ。」と彼は叫びました。

(2)① surprised to find

② ウ

解説

- ① be surprised to ～ 「～して驚く」
- ② mutual は「お互いの」という意味。* 最終段落参照。

全訳

ある日、2人の男が路面電車に乗っていました。男の1人が運賃を払おうと、ポケットに手を突っ込んで財布を取り出そうとしました。ところが、驚いたことに、財布がそこになり ことに気づきました。彼はもう1人の男の方を向いて「君はぼくの財布を盗んだな。」と叫びました。しかし、ちょう

どそのとき、彼はもう1つのポケットに手を突っ込んだところ、なくなったはずの財布が入っていたことに気づきました。

「ああ、すみません。自分の間違いというのがわかりました。」と男は叫びました。

もう1人の男はすぐに答えました。「やあ、気にしないで。ぼくたちは2人とも間違いをしていたのです。君はぼくを泥棒と間違え、ぼくは君を紳士と間違えていたのですよ。」

(3)①A held B gone D asked

② ア

③ イ

解説

- ①A hold … up 「…を取り上げる」
- ② go bad 「腐る、悪くなる」
- ③ 海からのニュースがあるかどうかを魚にたずねた。
- ④ on earth で「一体」という意味で、疑問詞を強調する。
- ⑤ fresh は「最新の」という意味。海に2週間以上いない

ので、海の最新のニュースはない。

全訳

ある日、男が夕食の魚を買いに魚屋へ行きました。彼は1匹の魚を取り上げて注意深く調べたあと、鼻のところまで 持ち上げて、においをかぎました。A 「おい。何をやっているんだ。」と店主が叫びました。「な

ぜ魚のおいなんてかぐんだ。その魚が[Ⓐ]悪くなっているとも思っているのか。」

「わたしはおいなんてかいでいませんよ。」とその男は答えました。

「それじゃあ、顔をそんなに魚に近くくっつけて何をしていたんだね。」と店主はたずねました。

「わたしは魚のおいをかいでいたのではなく、魚に話しかけていただけなんですよ。」とその男は答えました。

「魚に話しかけていただって。」と店主は言いました。「ほおー、[Ⓒ]一体なんて言ったんだい。」

「何か海からのニュースはないかと[Ⓓ]たずねたのです。それだけのことでしょ。」と男は答えました。

「そうか、それで魚はその質問になんて答えたんだい。」と店主はたずねました。

「もう2週間以上も海にいないんだから、[Ⓔ]とれたての新しいニュースなんてないよ、と魚は答えましたよ。」

- (1) エ
- (2) オ
- (3) do all I have said
- (4) ア
- (5) television
- (6) ウ

解説

- (1) フレッドがうれしそうにしていた理由を表すものを選ぶ。
- (2) フレッドが手に入れたチケットで何をしようと考えたかは、次の段落の内容からわかる。
- (3) 「あなたはわたしが言ったすべてをやるべきです。」という意味の文にする。
- (4) 自分の計画通り物事が進んで、フレッドが心の中で言った言葉。
- (5) 直後に「部長がきのう、それをわたしたちみんなが試合を見るために持って来た。」とあるので、「テレビ」だと推測できる。
- (6) ウ フレッドは夕方に帰宅すると、ジーンにその朝なぜ会社に電話をかけるよう頼んだのかを教えた。(×) 本文25行目でフレッドはその理由についてジーンに、I'll tell you this eveningと言っているが、実際にそうしたかどうかについては本文中に記述がない。

全訳

大試合が行われる日でした。家庭や会社、学校や工場でみんながそれについて話していました。

「きょうは休日ですべきだよ。そうすれば、みんな家にいてその試合をテレビで見られるのに。」とフレッド・ウィルズは仕事に行くときに同僚に言いました。同僚は笑いました。「多くの人は家にいるだろうな。彼らは具合が悪いとか、親族のだれかが亡くなったとか言うのだろう。」と彼は言いました。「そうだろうな。それはいい言い訳だ。」とフレッドは言いました。

フレッドは会社員として勤めていて、会社に着くと、机の

上に1通の手紙を見つけました。それは知り合いからの手紙でした。彼はそれを開けました。「敬愛なるウィルズ様」と手紙は書き出してありました。「先日のあなたの助けに感謝の気持ちをこめて、この手紙を書いています。手紙といっしょに、あの大試合の入場券をあなたに送ります。わたしは自分用に買ったのですが、足を骨折してしまい、家にいなければならないのです。」フレッドはその入場券を見つめました。彼はそれを手にしていることが信じられませんでした。多くの人々がその試合の入場券を手に入れようとし、そして今、彼、フレッド・ウィルズはそれを持っているのです。「あなたはとでもうれしそうね。何があったのですか。」とよりの机にすわっている若い女子社員が言いました。「① ぼくは…」フレッドは話すのをやめました。「② だれにも言うべきではない。」とフレッドは思ったのです。「いや、何でもないんだ。ちょうど幼なじみから手紙が届いてね。」と彼は言いました。女子社員はまた仕事を始めました。フレッドは入場券を見つめました。彼はそれを机の下で握っていました。入場券をどうすればいいだろう。どうすれば会社から抜け出すことができるだろう。彼は部長に具合が悪いとは言えませんでした。彼は自分が具合が悪いようには見えないことくらいわかっていました。

フレッドは考えに考えました。彼は仕事が終わった手つきませんでした。それから約1時間後、彼は何をすべきかを思いついたのです。彼は机から立ち上がると、会社の外へ出て行きました。彼は通りの角にある公衆電話のところへ歩いて行き、妹のジーンに電話をしました。「ジーンかい。フレッドだよ。聞いて、ぼくのためにあることをしてくれ。ぼくの会社に12時に電話をかけて。そして部長と話したいと

頼むんだ。部長には、病院から電話をしていてフレッド・ウィルズの母が病気だと言ってくれ。わかったかい。」と彼は言いました。「いいけど、どうしてなの。」とジーンは聞き返しました。「今晚、話すよ。いいかい、^③ ぼくが言ったことを全部しなければいけないよ。」とフレッドは言いました。

彼は電話を切ると、会社に戻りました。12時を少し過ぎたころ、部長が彼のところへ歩いてきました。「君に悪い知らせがある、フレッド。病院からだれかがわたしに電話をくれたんだ。君のお母さんが病気だ。お母さんに会いに行った方がいいよ。」と彼は言いました。フレッドは悲しそうな顔を装いました。「部長、ありがとうございます。早速行ってまいります。そして、できる限り早く戻ってまいります。」と彼は言いました。

フレッドはすばやく会社を出ました。彼は外に出ると、笑い出し「^④ うまくいったぞ。」と心の中で思いました。彼はバスに乗り、競技場へ行きました。その大試合は3時まで始まりませんが、フレッドは早く競技場に着きたいと思ったのでした。彼は前の方の場所をとりたかったのです。その試合はたいへん興奮するものでした。両チームともとてもすばら

しく、テレビカメラはすべての動きを映し出していました。観客は叫んで歓声をあげました。ときどき、テレビカメラは観客の方にも向けられました。カメラはみんながどれほど興奮しているかも映し出していました。

翌朝、フレッドが仕事にくると、社員みんなが彼を見ても話しかけませんでした。そのとき、部長が彼のもとへ歩いてきました。「きょうはお母さんの具合はどうかね。」とたずねました。「少しよくなりました、ありがとうございます。」とフレッドは答えました。「家に戻って、お母さんの世話をしなさい。それから、もうこの会社へは来ないでくれ。」と部長は言ってその場を立ち去りました。「しかし…でも納得できません。」とフレッドは言いました。

フレッドのとなりにすわっている女子社員が腕を上げて、戸棚を指差しました。戸棚の上には^⑤ テレビがありました。「きのう、部長はわたしたちみんながああ試合を見られるようにと持ってきてくれたんです。わたしたちは、フットボール選手だけを見たんじゃないの。わたしたちは観客の何人かも見ただよ。」と彼女は言いました。フレッドは^⑤ テレビを見つめ、そして理解したのです。

3

- (1) 無賃でニューヨークへ行けると思ったから。
- (2) bomb, 爆弾
- (3) よく似た音の語の違いは、特に英語を外国語として話す人々にとって、とても聞き取りにくい場合もある。
- (4) ① ア
② ウ
- (5) ウ
- (6) up late
- (7) 航空会社はその男の人のニュージーランドでのホテル代と食事代、カリフォルニアまでの帰りの飛行機代を払ったこと。
- (8) go to New Zealand

解説

- (1) 本文2～3行目参照。
- (2) bum という単語と、本文13行目の Of course, they found no bomb. から推測する。
- (3) difference between … 「…間の違い」
- (4) ① 質問の英文は「その男性がするつもりだった旅行はどんなものだったか。」という意味。
ア 「ロサンゼルスからオウ克蘭ド(Oakland)への飛行」 *本文14～15行目参照。
- ② 質問の英文は「何が間違った飛行機に乗っているかもしれないと、その男性を心配させたのか。」という意

味。

- ウ 「飛行機の進んでいる方向」 *本文18～19行目参照。
- (5) ア 英語を話す人だけがお互いに誤解する。(×) *下線部②の文参照。
 - イ 英語を学んでいる外国人だけがこのような誤解に陥る。(×) *本文22～23行目参照。
 - エ 誤解は、話す人が英語を使う人で、聞く人がそうでないときにだけ生じる。(×)
 - (6) 第5段落の内容と get a plate の発音から考える。
 - (7) 直後の1文に書かれている。

- (8) 聞き間違いからニュージーランドへ行ってしまったが、「わたしはいつもニュージーランドへ行ってみたくて思っていたのです。」と返せば失敗を笑うことができる。

全訳

彼は汚れた髪と汚らしい身なりをした上、ポケットにはわずか35セントしか持っていませんでした。メリーランド州のボルティモアで、彼はバスに乗り、まっすぐトイレに行きました。彼はトイレに隠れていれば、お金を払わずにニューヨークまで乗っていけると考えたのです。しかし、バスのうしろの乗客が彼を見ていました。彼女は自分の前の席の人の肩を叩いて「トイレに浮浪者がいるわ。運転手に伝えて。」と言いました。その乗客は彼の前の乗客の肩を叩きました。「トイレに浮浪者がいると運転手に伝えてください。」と言いました。

このメッセージは人から人へと伝言されて、バスの前の席まで伝えられました。しかし、その途中のどこかで、この伝言は変わってしまったのです。この伝言が運転手に伝わったときには、「トイレに浮浪者がいる。」ではなく、「トイレに爆弾がある。」となっていました。運転手はハイウェイの①端にバスを止めて、警察を呼びました。警察が到着すると、彼らは乗客にバスを降りて遠くに離れているように言いました。ハイウェイも閉鎖しました。それで15マイルもの渋滞が起きました。犬の助けを借りて、警察は2時間もバスの中を捜しました。もちろん、彼らは爆弾を見つけることができませんでした。

似かよった発音の2つの英単語は、ロサンゼルスからカリフォルニアのオークランドまで飛行機で飛んでいきたいと思っていた人にもトラブルをもたらしました。彼の問題はロサンゼルス空港で始まりました。彼は自分の出発便のアナウンスを聞いたと思い、出発ゲートまで歩いて行き、搭乗券を見せて、飛行機に乗りました。飛行機が空へ飛び立った20分後に、その人は心配になり始めました。オークランドはロサンゼルス北にあるのに、この飛行機は西に向かっているように思い、窓の外を見たところ、見えるものはすべてが海だったのです。「この飛行機はオークランドに向かっていますか。」と彼は乗務員にたずねました。彼の質問に彼女

は驚きました。「いいえ違います。わたしたちはオークランドに向かっています。ニュージーランドのです。」と彼女は言いました。

多くの英単語の発音が同じように聞こえるために、英語を話す人々は相手を誤解することがしばしばあります。もちろん、多くの誤解は上の例のように深刻なものではありません。毎日、英語を話す人々は「70それとも17と言ったのですか。」「来られると言ったのですか、来られないと言ったのですか。」というように、お互いに確かめています。②よく似た音の語の違いは、特に英語を外国語として話す人々にとって、とても聞き取りにくい場合もあります。

ある朝、アメリカに住んでいる韓国の女性が職場について、上司が彼女に「皿を手に入れましたか。」とたずねました。彼女は彼の質問をまったく理解することができませんでした。「いいえ…」と答えました。彼女は事務所の中で働いていました。なぜ、上司は彼女に皿のことをたずねたのでしょうか。彼女は1日中、上司の奇妙な質問を不思議に思っていました。引込み思案な性格のために、彼にそのことを聞けずにはいました。5時になり、彼女が帰り支度をしていると、上司が「あしたは時間どおりに来てください。けさは15分遅刻でしたよ。」と言いました。「すみません。車が動き出さなくて…」と彼女は言いました。突然彼女は話をやめてほほえみ始めました。やっ、彼女はわかったのです。彼女の上司は「皿を手に入れたのですか。」と聞いたのはありませんでした。彼は「③寝坊したのですか。」と聞いたのでした。

同じように聞こえる英単語の発音によって誤解が生じたとき、おそらく④最も有効なことはただ笑って失敗から学ぶことです。もちろん、ときには笑にくいこともあります。オークランドの代わりにオークランドに旅した人は、笑えるような気分にはなれませんでした。しかし、そのような誤解でさえも、最後には⑤すべてよい結果となったのです。その航空会社はその人のニュージーランドでのホテル代と食事代、カリフォルニアに帰る飛行機代を払ったのです。「実は、わたしはいつもニュージーランドへ行ってみたくて思っていたのです。」とその人はのちに言いました。

1

P142

- (1) ① オ ② キ ③ ア ④ ウ ⑤ カ
 (2) ① ウ ② イ ③ エ
 (3) ① 板ばさみの状態になること。 ② お世辞を言うこと。
 (4) ① using ② used
 (5) イギリス人にはそれぞれ自分の好みの紅茶があるから。
 (6) ケーキ1切れはとても小さく甘いので、英語を話す人々には食べやすいです。
 (7) イ

解説

- (1) ① come from … 「…に由来する」
 ② after … 「…にちなんで」
 ③ be known as … 「…として知られている」
 ④ between … 「…の間で」
 ⑤ put A on B 「AをBにのせる」
 (2) ① without ~ ing 「~せずに」
 ② 「肉、チーズと野菜が2枚のパンの間に置かれる」
 ③ make peace between … 「…を和解させる」
 (3) ① 直後の1文に書かれている。
 ② 下線部を含む文以下に、説明と例が書かれている。
 (4) ① 「食べ物の名前を使っている英語表現」という意味になるように、現在分詞にする。
 ② 「~するために使われる」という意味になるように、過去分詞にする。
 (5) 本文 28 ~ 30 行目参照。
 (6) so … that ~ 「とても…なので~だ」、It is … for ~ to ~. 「~が~するのは…だ。」

全訳

あなたは今までにサンドイッチを食べたことがありますか。きっとだれもが今までにサンドイッチを食べたことはあるでしょう。「サンドイッチ」という単語は何に①由来しているのでしょうか。あなたをご存知ですか。この単語はある男の人の名前に由来していて、その男の人とは、英国のサンドイッチ伯爵(1718年~1792年)です。伯爵はよく仲間たちと何時間もトランプをして楽しんでいました。彼はコックにトランプゲームを②やめずに食べられる軽食を作るよう頼みました。そうして、サンドイッチが生まれ、それは彼③にちなんで名づけられたのです。肉やチーズ、野菜が2枚に薄く切られたパンに④はさまれているのです。サンドイッチはすぐに人々の間でたいへん人気になりました。サンドイッチ伯爵は、当時、英国の有名な政治家でしたが、今では政治

家⑤としてではなく、食べ物の方でとてもよく知られています。

ところで、「サンドイッチにはさまれた肉」という英語の表現があります。それはどういう意味でしょうか。おそらく、伯爵の客人の2人が、互いにもめ事を起こし、ゲームについて言い争いを始めたのでしょう。伯爵は両方の主張を聞き、⑥仲裁しなければならなかったのです。しかし、ついには、彼らは意見が合わずに、伯爵に対して腹を立て始めたのです。伯爵は立腹した2人の友人⑦の間にはさまれて、困難な状況にいました。そこで、⑧彼は「サンドイッチにはさまれた肉だ」と言えるのです。人は両側から圧力を感じる時、サンドイッチにはさまれた肉なのです。

わたしたちは日常的な食べ物の名前を⑨使った英語の表現をたくさん見つけることができます。いくつかほかの例を見てみましょう。「だれかにバターをぬる」はおもしろい表現です。バターは英語を話す人々にとってはとても大切な食料です。バターは味を加えたり、他の食材の味を引き立てるために⑩使われます。あなた方の多くはパン⑪にバターをぬり、パンがよりおいしくなるでしょう。「⑫だれかにバターをぬる」とは、また特別な意味も持っているのです。あなたがだれかに自分をもっと気に入ってもらいたいとき、あなたはその人にとってもよいことを言い、ときには、よすぎることや実際よりもよいことを言うでしょう。あなたはその人に「バターをぬろう」としているのです。たとえば、給料をもっとあげてほしいと思う会社員は、上司に「きょうはとてもすてきなネクタイですね。」とか「ゴルフがたいへんお上手ですね。」などと言って、「バターをぬろう」とするのです。

だれかが「⑬それはわたしの紅茶ではありません。」と言えば、その人は、何かが好きではないことを意味します。英国人は紅茶を飲むのが大好きです。味が異なる多くの種類の紅茶があり、それぞれの人が紅茶に対する異なった好みをもっています。この表現は、何かが「わたしの好みの味」で

はないということを意味しています。だれかが「それはケーキの一切れだ」と言えば、その人にとって、何かをするのが容易で簡単だということを意味します。① ケーキの一切れはとても小さくて甘いので、英語を話す人々にとっては食べやすいのです。

すべての言葉には、特別な意味を表すために食べ物の名前を使う表現があります。わたしたちの日本語にもたくさんあります。そのような表現を探して、英語と日本語との違いを探ってみるのもおもしろいでしょう。

- (1) 社会の高齢化 [高齢化社会]
(2) 老人は他の人の世話を必要とすること。
老人の医療費が高額であるということ。
(3)① 工 ② ア ③ イ
(4) 問題点を減らしてよい点を増やすためには、わたしたちは老後の準備を今始めるべきです。

解説

- (1) graying「白髪になること」→「高齢化」
(2) 「2つの問題」なので、The first(本文5行目)、The second(本文11行目)という書き出しの文に注目する。
(3)① 退職した事業家の人が、新しいビジネスを始める若い人などに与えることができるものを考える。
② in trouble「困難な状況で、問題を起こして」
③ take (very good) care of …「(とてもよく)…の面倒を見る」
(4) 不定詞の副詞的用法を用いた長い副詞句が文頭にあることに注意する。

* prepare oneself for …「…の準備をする」

全訳

何世紀もの間、人間はふつう35歳から40歳以上まで生きることはありませんでした。人々は若い年齢のときに結婚し、できるだけたくさんの子供を産みました。しかし、今では、人々はより高い年齢で結婚し、より少ない子供を産み、そしてより長生きをしています。裕福な国々におけるこの① 社会の高齢化はすでによい変化と悪い変化の両方を引き起こしています。

これらの変化によって、② 2つの問題が生じています。1つ目の問題は、高齢者は世話をしてくれる人がしばしば必要となるということです。高齢者は容易に1人で出かけることも、手助けなしに多くのことをすることもできません。高齢者は安全に車を運転することもできないかもしれません。彼らは買い物に行って、自分たちに料理を作ってくれる人も必要かもしれません。高齢者が退職するとき、政府は彼らが生活するための手助けとして年金を支払います。多くの裕福な

国において、退職した人々を支援することは最も大きな政府支出の1つです。

2つ目の問題は、高齢者のための医療費が高いということです。彼らは若い人よりもよく病気になります。長期間入院する必要もしばしばあります。高額の薬も必要になってきます。

その一方で、高齢者の人々は多くの面で社会を助けています。彼らは若い人に与える知識と経験を持っています。たとえば、退職した事業家の人は、新しいビジネスを始めようとしていたり、ビジネス上の問題を抱えている若い人に① アドバイスを与えることができます。

退職者はまた、地域社会のためにボランティア活動を行う自由な時間があります。高齢者が子供に読み方を教えるといった例が多くあります。また、薬物使用者、受刑者、そして家のない人といったような② 困難な状況にいる人々の手助けもしています。

高齢者は、両親が働いている間に子供の世話をする空き時間もあります。彼らの知恵や経験のおかげで、子供の③ 面倒をととてもよく見ることができることがしばしばあります。子供と高齢者の触れ合いは重要なことなのです。なぜなら、子供は彼らからやさしさと穏やかさを学ぶことができるからです。

社会の高齢化が、問題点よりもよい点の方を多くもたらすか、わたしたちはわかりません。④ 問題点を減らし、よい点を増やすためには、わたしたちは今、老後の準備を始めるべきです。幸せて健康的な老後のために、食べるものに気を付け、定期的に運動し、金銭面での(将来の)準備に取り組み、過度のストレスを避けるようにしましょう。

- (1)① 朝晩のラッシュのほかに、昼食と昼寝のために家に帰るとき、昼の休憩のあとに会社へ戻るときラッシュがあるから。
- ② 通常の料金の3倍を払うことを意味している。
- ③ 多くの歴史的建造物をこわしたくないため。
- (2)① 混雑時に電車に乗る通勤者を車内に押し込む駅員
- ④ 車の相乗りで通勤する人々
- (3) It took the city fifteen years to construct a new subway system.
- (4) ある日は車のナンバーの下一桁が0から4の車だけ走ることができ、他の日は5から9の車だけが走れるようにすることで交通量を半分にしようとすること。

解説

- (1)① 質問は「なぜ世界のいくつかの都市では1日に4回ラッシュアワーがあるのか。」という意味。*本文4～6行目参照。
- ② 質問は「タクシーに乗ろうとするソウルの一部の通勤者が指を3本挙げるとき、それは何を意味するか。」という意味。*本文13～14行目参照。
- ③ 質問は「なぜローマでは通りを広くしたり、新しい道路を作ることができないのか。」という意味。*本文16～18行目参照。
- (2)① 直後の wear white gloves and help pack the commuters into the trains when the door close という部分が packers を説明している。
- ④ 直後の These are groups of three or more people who drive to and from work together. という文が carpools の説明になっている。
- (3) 《It takes …+時間+to …》「…が～するのに〔時間が〕かかる。」
- (4) 本文22～24行目参照。

全訳

ラッシュアワー時の交通は世界中の多くの大都市で問題になっています。通勤者は車やバス、地下鉄、電車あるいは自転車さえも利用して急いで仕事に出かけ、そして帰宅します。アメリカ合衆国の大都市にはラッシュアワーの時間帯が2つあります。1つは朝の時間帯、もう1つは夕方時間帯です。しかし、世界の他の地域の都市では、ラッシュアワーの時間帯は4つあります。たとえば、アテネやローマでは、多くの労働者が昼食をとって昼寝をするために帰宅します。このお昼の休憩のあと、彼らは急いで仕事に戻り、さらに数時間働くのです。

東京では、地下での大きなラッシュアワーがあります。東京の大部分の人は地下鉄を利用します。電車は非常に混雑します。① 押し込み係と呼ばれる地下鉄の駅員は白い手袋をし

て、電車のドアが閉まるときに通勤者たちを車両に押し込むのを手助けします。彼らはすべてのハンドバッグやブリーフケースそして服や手を確実に電車の中に収めます。

ソウルでは、多くの通勤者が仕事場までタクシーを利用することを好みます。タクシーを止めるのに、多くの人は、交差点に立ち指を2本あげます。これは、彼らが通常の2倍の料金をタクシーの運転手に支払うという意味です。なかには3本指をあげる人さえもいます。彼らは通常の3倍の料金を支払います。

ローマの街道は、ラッシュアワー時に自動車と原付自転車非常に混みます。この都市では、街道を広くしたり、新しい道路を作ることができません。なぜなら、フォーラムやコロッセウムといった、この都市のたくさんの歴史的価値のある場所を侵害したくないのです。② この都市で新しい地下鉄網を建設するのに15年かかりました。作業員が古い工芸品を見つけたり、考古学者が興味をもつ場所を発見するたびに、建設工事を中断しなければなりません。

アテネは、広い道路を作ることができないもう1つの歴史ある都市です。ラッシュアワーの問題に対処するために、アテネ市の政府は③ 交通量を半分にすることを決断しました。ナンバープレートの下一桁の数字が0から4のドライバーはある特定の日にだけ運転することができます。ナンバープレートの下一桁の数字が5から9のドライバーは、その他の日に運転することができるのです。

多くの大都市では、④ 車を相乗りする人のために高速道路に専用のレーンがあります。これらは、仕事場までいっしょに車で出かける、あるいは仕事から帰宅する3人以上の人の集まりです。彼らは、ガソリンと駐車場の費用を分担し、都市へ運転することを順番にしているのです。

通勤し帰宅することは世界中の多くの場所で困難になります。ラッシュアワー時の交通は世界共通の問題のようです。

P148

1

(1)① ア, nothing ② エ, same

(2)① エ ② ア

(3) イ

解説

(1)① 直前の「動物を殺すとそのすべての部分を食べた。」につながるよう、アを「食事のあと、何も残らなかつた。」という意味にしてあてはめる。

② 直前の「まだ食事には多くの種類はなかつた。」につながるよう、エを「人々は毎日、ほとんど同じ食べ物を食べていた。」という意味にしてあてはめる。

(2)① 「人々は武器を持つ前、植物、木、魚、そしてときどき卵や小動物を食べていた。」

*第2段落参照。

② 「多くの人々は自分の知らない場所から来る食べ物を食べている。なぜなら、それらを簡単に船、電車、トラックや飛行機で運べるからである。」*本文32～34行目参照。

(3) ア コロンブスは新世界を発見し、それといっしょに多くの新しい食べ物も発見した。(×)

ウ 今日、わたしたちはほとんどどこへでも旅行して多くの種類の食べ物を楽しむことができる。(×)

エ わたしたちは、わたしたちにさまざまな種類の食べ物を与えてくれたスペインの冒険家に感謝しなければならぬ。(×)

オ 武器を使って、人々はさまざまな種類の食べ物を食べて楽しむことができた。(×)

全訳

ずっと昔、人々は食料を探すために時間の大部分を使っていました。彼らは見つけた食料は何でも食べていました。

人々は、たいいていの場合、植物のみを食べることで生活していました。彼らはほとんどどんな種類の植物でも食べました。十分な食料を見つけることができなかつたときは、木のどの部分でも食べました。もしも、運がよければ、卵のある鳥の巣を見つけることができました。水辺で生活していた人々は、魚やそこで捕えることのできる他の多くのものも食べました。容易に殺せる小動物さえ食べる人もいました。

その後、人々は武器を作れるようになりました。武器を持って、彼らは食料のためにより大きな動物を殺すことができました。これら初期の人々はたくさん食べました。彼らが

動物を殺したときは、その動物のすべての部位を食べました。①彼らの食事の後には何も残りませんでした。

初めは、人類は食料を手に入れるために場所を移動していました。しかし、植物を育て始めると、1か所に住み続け、自分たちで育てることのできたものを何でも食べました。彼らは動物も飼い、そしてその動物が自分たちのために働くように訓練しました。彼らはときどき動物を食料にするために殺しました。その頃、生活は少しよくなっていましたが、まだ彼らの食事には多くの異なる種類の食べ物はありませんでした。②毎日毎日、人々はほとんど同じものを食べていました。

まもなくして、人々はとても遠いところへ出かけるようになりました。海を越えて旅をした探検家たちは新しい土地を発見しました。そしてこれらの土地で彼らは新しい食物を見つけ、それらを自分の故郷に持ち帰りました。

船でアフリカ大陸を回って、中国に着いたポルトガル人は「中国のりんご」を持ち帰りました。今日、わたしたちはその果物をオレンジと呼びます。その後、彼らはオレンジの種をブラジルに運びました。ブラジルからオレンジはカリフォルニアへもたらされました。これは、アメリカ合衆国で初めてオレンジが栽培された場所です。他の多くの果物もまた中国が発祥の地なのです。

アメリカでも、探検家は新しい食べ物を発見しました。この地でスペインの探検家は初めてホットチョコレートを試しました。この新しい飲み物の名前がなかつたので、彼らは外国語をそのまま取り入れました。彼らはジャガイモとサツマイモの両方を見つけました。彼らはまた、現在わたしたちが食べている他の多くの野菜も見つけました。コロンブスはパイナップルを見つけてヨーロッパに持ち帰りました。そこで彼らはそれを温かい建物の中で育てなければなりませんでした。なぜなら、ヨーロッパは非常に寒いからです。

あるスペイン人がアメリカに移住してきたとき、彼は自分の故郷から植物の種や植物をしばしば持ち込みました。砂糖キビやバナナは温かいカリブ海諸島ではよく育ちました。すぐに、彼らはそこで大規模にそれらを栽培し始めました。

そうして、色々な種類の食べ物が世界のある地域から別の

地域へと広がりました。世界で少数の人々は今でも昔の人々が何百年も前に食べていたものと同じ食べ物を食べています。彼らは、自分たちで栽培したり、家の近くで見つけた食べ物を食べ続けています。しかし今日では、列車、トラック、

船そして飛行機のおかげで、たくさんの人々が今まで見たこともない場所から運ばれてくる食べ物を食べ、会ったこともない人々によって育てられた食べ物を食べているのです。

2

- (1) ① between ③ without
 (2) Are, able
 (3) ① a ② イ ③ ウ ④ ア
 (4) ① ② イ ④ ウ
 (5) sixty thousand
 (6) to
 (7) ア, オ

解説

- (1) ① between A and B 「A と B の間に」
 ③ without 「…のない」
 (2) can = be able to
 (3) ① want to ～は「～することを望む」という意味で、不定詞の部分は名詞的用法。ここでは意味を強めるため、very much が置かれている。
 ② 「偵察するために送られた男たち」* 「～するために(…する)」は副詞的用法。
 ③ 「進む(ための)道」* 「～するための(…)」と直前の名詞を修飾するのは形容詞的用法。
 (4) ② 直前の男たちの言葉と、あとのナポレオンの言動から考える。
 ④ 文脈を考えて「不可能」が最も適当。
 (5) 6万は千が60個と考える。
 (6) he told the army to leave for Italy
 (7) イ 本文8行目参照。敵がいらないとは言っていない。
 ウ 本文11～12行目参照。
 エ 本文13行目参照。twentyは「20」。

全訳

およそ100年前、ナポレオン・ボナパルトという偉大な男がいました。彼はフランス軍隊の指導者であり、フランスは周囲のほとんどすべての国々と戦っていました。彼は自分

の軍隊をイタリアに^①進軍させたいと熱望していましたが、フランス軍とイタリア^②の間には高い山脈があり、その山々の頂上は雪で覆われていました。

「^③わたしたちはこの山脈を越えられるだろうか。」とナポレオンは言いました。

山脈の向こうの道を^④偵察するために送られた男たちは、首を振りました。そのとき、彼らの1人が「それは可能かもしれませんが、……がないので」と言いました。

「^⑤やめろ。おまえの話は十分だ。」とナポレオンは言いました。「イタリアへ進軍。」

人々はあざ笑いました。^⑥6万人の軍隊は道^⑦のない山脈を越えようとしていました。しかし、ナポレオンはすべての準備が整うことだけを待って、そして^⑧軍隊にイタリアに向けて進軍するように言いました。

軍隊、馬、大砲の隊列は20マイルにも及びました。彼らが険しい場所や^⑨進む道のない場所に来たとき、ラッパは「突撃せよ。」と鳴りました。するとすべての男たちがベストを尽くし、全軍は先に進み続けました。

まもなく、軍隊は無事に山脈を越えました。4日後、彼らはイタリア領内に進軍しました。

「勝利を決意した者は、決して『^⑩不可能』とは言わないものだ。」とナポレオンは言いました。

- (1) エ
 (2) オ→ア→ウ→エ→イ
 (3) ア
 (4) イ
 (5) エ
 (6) so, that
 (7) ア, カ

解説

- (1) they は直前の複数名詞 these buildings を指す。
 (2) 直後の4文参照。
 (3) 直後の文参照。
 (4) 直後に but があり、「同じことを楽しんだ」という内容が続くので、「裕福な人々と貧しい人々の生活」は「異なっていた」が適切。
 (5) 前の文から複数名詞を探すと, baths と bodies がある。2行上に large baths と smaller baths という記述があることから, baths が適切。
 (6) so … that ～「とても…なので～」の文にする。
 (7) イ ローマ人は周囲のすばらしい眺めを楽しみたかったので、より高い位置にある道路を望んだ。(×)
 ＊本文16～17行目参照。
 ウ 古いローマの道路と水路はすべてこわされ、今日では使われていない。(×) ＊本文2～3行目参照。
 エ 小さい浴場では水をたくさん使えなかったので、たいいていの人々は大きな公衆浴場を訪れて体をきれいにした。(×) ＊本文21～27行目参照。小さい浴場では水がたくさん使えなかったという記述はない。
 オ 水がローマに届いたとき、敵が水路をこわそうとしていたためローマ人は高い水路をほしと思わなかった。(×) ＊本文32～34行目参照。

全訳

今日のローマ市では、古代ローマの建造物を今でもいくつか見ることができます。そしてわたしたちはそれらの壮大さと実用性に変驚きます。例えば、今日でもなお使われている古い道路や水路がいくつかあります。ローマ帝国が終わったあとも、人々はそれらを長い間使い続けました。これらの建造物から、^①それらが古代ローマの生活でいかに役に立っていたかがわかります。彼らの生活には道路や水がとても重要でした。

古代ローマの公共広場には大きな石がありました。それは帝国内の別の都市までどのくらいの距離があるかを示してい

ました。帝国のすべての道はそこから始まっていたのです。時がたち、新たな道路が加わりました。ローマ人は道路をできるだけ長く、そしてできるだけまっすぐに建設しました。このことが古代ローマの軍隊に役立ち、彼らはすばやく動き回ることができました。すべての道路はローマに通じていました。多くの人々と物が道路を通りました。

古代ローマ人が^②道路の建設方法を知っていたということを知ってわたしたちは驚きます。ローマ人は地面を掘り下げ、土や石を取り除きました。彼らは砂を敷いたあと、割れた石といっしょにコンクリートを中に敷きました。それから、小石を敷きました。最後に大きくて平らな石を一番上に置きました。このようにして、じょうぶな道路が建設されました。

^③道路は中央が高くなっていました。雨水は道の両側に流れ落ち、道の端に沿って流れて、それから地面の穴に落ちました。兵士たちが周囲の区域を見る必要があったため、ローマ人はもっと高い道路がほしいともありました。中には土地より1メートル半高い道路もありました。何百年の間、道路はローマ人にとってとても有益なものでした。

裕福な人々と貧しい人々の暮らしは^④異なっていましたが、彼らはよく同じものを楽しみました。ほとんどの浴場が無料だったため、ほぼ全員が浴場に行きました。ローマ人は働いたあとに体をきれいにするのが好きだったので、たいいていの人々が1日に1度浴場を訪れました。ローマには大きな浴場がいくつかあり、また、何百ものもっと小さな浴場もありました。裕福な家庭には自分たちの風呂もありました。浴場は体を洗うためだけのものではありませんでした。大きいほうの^⑤浴場には美しい庭園がありました。図書館や会議室や店もありました。ローマ人はそのあたりを歩いたり、友人と話したり、ただ考えごとをしたりするのが好きでした。彼らは1日の大半をよくそこで過ごしました。これらの大きな浴場ではたくさんの水が使われました。

彼らはローマの浴場にどうやってそんなにたくさんの水を運んだのでしょうか。彼らには大きな川から都市に水を運ぶ水路が必要でした。地面の上では、水路はしばしば橋のように見えました。ローマ人はそれらを岩の中にも建設しようと

ました。彼らは冷たくてきれいな水がほしかったため、そうすれば、水が水路の大部分をトンネルの中を通して流れることができました。それに水を敵から隠すこともできました。水がローマに届いたときには、ローマ人たちはたいい水が丘の上に届いてほしいと思いました。⑥ 丘の上の水路はとて

も高いものでした。それで水は容易に丘を下って市の異なった場所まで流れていくことができました。市内では、水は道路の下のパイプを流れていました。何百年もの間、ローマ人は何度も水路を直して新しい水路を建設しました。

4

- (1) top, bottom
- (2) ウ
- (3) the numeral for ten looks a little like two crossed hands
- (4) They[The Romans] could write Roman numerals in any order
- (5) 主にスペースを省くために
- (6) イ
- (7) ⑦ ones ⑧ tens
- (8) CM

解説

- (1) top 「1 番上」, bottom 「1 番下」
- (2) ① hold ... up 「…を上げる」
- ③ hold ... together 「…をくっつける」
- (3) 「…に(少し)似ている」 look (a little) like ...
- (4) by ...がないので、主語を補う。(古代の)ローマ人と考える。
- (5) 文脈からこの to は不定詞の副詞的用法。mainly「主に」
- (7) 全訳参照。どちらも複数形になることに注意。
- (8) 左側から順に、1000、900、60、4にあたるローマ数字が並ぶようになればよい。1000=M, 60=50+10=LX, 4=IV なので、900の部分を完成すればよい。900=1000-100=CM

全訳

あなたは今までに右の絵のような時計を見たことがありますか。

この時計の文字盤の記号はローマ数字と呼ばれています。ローマ人は大昔にイタリアに住んでいた人々のことです。わたしたちは、時計の(1~12の)時間の表示や、建造物の(表面に刻まれる)日付、そのほか特別なことのために今でもそれらの数字を使用します。

ローマ人は直線を好んだようで、彼らは自分たちの数字をとても真っ直ぐで角ばったものにしました。それらは、上 下に小さな横線がついていて、とてもしゃれたものでもあります。しかし、たとえそうであっても、2500年前のローマ数字は、本当に指を表した絵にすぎないのです。finger(指)を表すローマ語は digitus で、わたしたちが使う digit(数字)という言葉はそれに由来しているのです。そして、digit は

0から9までの数字を表すだけでなく、「指」を意味します。

見ておわかりのように、1, 2, 3, 4を表す数字はちょうど真っ直ぐ上に ① あげられた指のようです。5を表す数字は、(4本の)指を親指から離して ③ くっつけた状態で ② 開いた手のようです。そして ④ 10を表す数字は交差させた2つの手に少し似ています。

古代において、⑤ ローマ数字はどんな順序でも書くことができました。なぜなら、それぞれの数字が常に同じ数を表していたからです。しかし原則として、最初に1番大きな数字が書かれました。

そのずいぶん後に、引き算の考え方が、⑥ 主にスペースを節約するために、導入されました。④ 1番目の数字が ⑤ 2番目の数字よりも小さいとき、それは ⑥ 2番目の数字から引かれます。だから IV は V から I(5から1)を引いたことを意味します。すなわち4です。

あなたが時計の文字盤の絵を注意して見ると、初期のローマ数字である IIII と後に作られたローマ数字である IX があることに気づくでしょう。何らかの理由で、時計職人はほとんどいつもこれら2つの数字をこのように表します。

そのほかの大部分の数字には、ローマ人は最初の10個の数字の組み合わせを作りました。12は10が1つと ⑦ 1が2つで XII。15は10と5が1つずつなので XV。20は ⑧ 10が2つなので XX。

大きな数字を表す記号には文字が使われました。ローマ人は50にはLを、100にはCを、500にはDを、そして1000にはMを使いました。

P156 1

- (1) ギターやピアノを弾かない人でさえ、音楽が好きです。
 (2) 植物が音楽を聞くとより丈夫になること。
 (3)① イ ② ウ ③ ウ ④ エ
 (4) イ

解説

- (1) even 「…でさえ」
 (2) 直前の文の that 以下を指す。
 (3)① 音楽を聞くと植物が強くなるかどうかの実験をするわけだから、「庭に2つの部屋を作って両方の部屋に同じ種類の野菜を置いた。」という意味にする。
 ② 主語は The temperature なので単数扱い。
 ③ うしろが比較級なので、それを強調させる much を選ぶ。
 ④ その前の内容から「音楽を聞いた野菜は、静かな部屋の野菜よりもずっと大きくなっていった。」という意味にする。
 (4) 第1段落では「音楽と人間の関係」、第2段落では「音楽と植物の関係」、そして第3段落では音楽だけでなく、「動植物と騒音の関係」について書かれている。

全訳

音楽の歴史はたいへん古いです。音楽がいつどうやって始まったのか、だれも知りませんが、世界中の人々は常にそれを愛し続けてきました。音楽が好きでないという人がいるでしょうか。答えはノーです。A ギターやピアノを弾かない人でさえ、音楽が好きです。うまく歌を歌えない人でさえ、音楽を聞くことを楽しみます。音楽は常に生活のなかで最も必

要なもの1つであり続けてきました。おそらく音楽なしでは人は生きていけないでしょう。

動物や植物も音楽が好きなのでしょう。それらには音楽がわかるのでしょうか。ある日、エバンズ夫人は新聞でとてもおもしろい記事を読みました。大学の教授が、B 自分の植物が音楽を聞いていたらより丈夫になることを発見したのです。最初、彼女はそれは冗談だと思いましたが、彼女は自分で、C それをやってみたくと思いました。彼女は庭に2つの部屋を作り、両方の部屋に D 同じ種類の野菜を置きました。部屋の温度は同じで、一切雑音はありませんでした。片方の部屋では音楽がかけられました。もう一方の部屋は静かでした。わずか24時間後、彼女は何と驚いたことでしょう。音楽を聞いた野菜は E 静かな部屋の野菜よりも F ずっと大きくなっていたのです。

今日、多くの科学者が、人だけでなく、動物や植物も音楽を楽しむのだと言っています。わたしたちのように、動物や植物はよい音楽を必要とします。彼らは、大きな、恐ろしい音は好みません。科学者たちは、動物や、植物や人々を傷つける騒音公害に不満をこぼしています。彼らは、わたしたちが毎日出している多くの種類の騒音について考えることが必要だと言っています。

P158 2

- (1) エ (2) エ (3) ウ (4) ウ (5) ウ
 (6) イ (7) イ (8) ウ (9) ウ (10) ウ

解説

- (1) 次の名詞 babies を修飾する分詞は、「生きている」の意味の living が適切。
 (2) 「より大きい魚から逃げるために」という意味にする。
 (3) this が指す内容は直前の文。
 (4) 「息をしたいときに水面にすばやく着くことができる」という意味にする。
 (5) 「…で遊ぶ」 play with …
 (6) ア イルカは冷血である。(×) *本文2行目参照。

- ウ イルカは水中で生きることができる。(×) *本文2~3行目参照。
 エ イルカは一種の魚である。(×) *本文1行目参照。
 オ イルカは卵を産む。(×) *本文4~5行目参照。
 (7) ア イルカは魚と同じような方法で泳ぐ。(×) *本文7~10行目参照。
 ウ イルカは体と尻尾を横に動かす。(×) *本文9~10行目参照。

- エ イルカのひれは頭のまん中にある。(×) *本文6行目参照。
- オ イルカは泳ぐときに尻尾を使わない。(×) *本文9～10行目参照。
- (8) ア イルカには大きな口と大きくて鋭い歯がある。(×) *本文13行目参照。
- イ イルカは歯を使わずに魚を捕まえる。(×) *本文13～14行目参照。
- エ イルカは何度もかんで魚を食べる。(×) *本文14～15行目参照。
- オ イルカは魚を食べない。(×) *本文14～15行目参照。
- (9) ア 人々は海岸の近くでイルカを見ることができる。(×)
- イ 船に乗った人は船を追いかけて泳ぐイルカを見ることができない。(×)
*本文16～17行目参照。
- エ 人々はどこでもイルカを見ることができる。(×)
- オ 船に乗った人は船を追いかけて泳ぐのが好きなイルカを見ることができない。(×)
*本文16～17行目参照。
- (10) ア わたしたちは海洋水族館でイルカを見ることができない。(×) *本文19行目参照。
- イ わたしたちは海でしかイルカを見ることができない。(×)
- エ イルカは空中に高く飛び上がることができるが、人の手から魚をもらうことはできない。(×)
*本文21～22行目参照。
- オ イルカは決して小さなボートを引けるようにはならない。(×) *本文23行目参照。

全訳

イルカはとてもおもしろい動物です。イルカは魚のように見えますが、魚ではありません。魚は冷血動物ですが、イル

カは他の動物と同じように温血です。魚は水中でも生きられますが、イルカは生きられません。長い間、水中にいたことはできますが、それから呼吸をするので上がってこなければなりません。魚は卵を産みますが、イルカは①(生きている)子供を産みます。子供は、他の動物と同じように母親の乳を飲みます。

イルカの姿は魚のようです。背中我真ん中にひれがあります。魚のように尻尾もあるし、その尻尾を泳ぐために使いますが、魚と同じ方法ではありません。魚は体と尻尾を横に動かします。魚は他の魚を捕まえたり、②より大きな魚から泳いで逃げるために、すばやく横に動くことができます。イルカは移動するとき、体と尻尾を上下に動かします。③このようにすると、呼吸をしたい④とき、水の1番上まですばやく到達することができます。イルカは水の外に飛び跳ねることもとても簡単にできます。空中に高く飛び上がることができます。あなたたちはこれを見ることができます。

イルカは大きな口と、小さいが鋭いたくさんの歯を持っています。食べるための魚を捕まえるのにこれらの歯を使います。捕まえた魚を食べるのには歯使いません。魚をかまずに食べる(飲み込む)のです。

イルカはどこで見ることができるでしょうか。大きな船に乗れば、何頭か見ることができるでしょう。なぜなら、イルカは船のあとを(追いかけて)泳ぐのが大好きだからです。船に乗った人はイルカを何時間も見ることができます。そのあとイルカは去って行ってしまいます。

海洋水族館でもイルカを見ることができます。ここでは、多くの海の魚や動物が、人々が観察できるように飼われています。みんなイルカを見るのが好きです。なぜなら、彼らは賢くて、いろいろなことができるようになっているからです。彼らは人の手から魚をもらうために空中に高く飛び上がります。彼らはボール⑤で遊びます。たとえば、はっきりと頭の上に乗せたり、お互い投げ合ったりします。小さなボートを引けるようになったイルカもいます。

3

P160

- (1) チンパンジーはほほえみや鳴き声、他の顔の表情を使って意思の伝達をするよりも、手を使って意思の伝達をするほうが得意であること。
- (2) ① ウ ② イ
- (3) ア
- (4) 顔の表情と鳴き声。
- (5) ① オ ② ウ
- (6) わたしたちが毎日使う手のジェスチャーは、わたしたちが話すことと同じくらい大切です。
- (7) イ

解説

- (1) 直前の文の that 以下を指す。
- (2) ㉔ 同じ文の前半の words と同意のものを選ぶ。
- ㉕ 前の段落で、1つの手のジェスチャーが複数の意味を表すことが述べられているので、「動物のジェスチャーは、顔の表情や鳴き声よりも難しい情報を与えることができる」という意味にする。
- (3) 下線部㉖第1文で、some areas of our ancestors' brains とあり、次の文に these areas of the brain とあること、また下線部㉖最後の文にも、use the same areas とあるので、手のジェスチャーと言語は、理解する脳の領域が同じであることがわかる。
- (4) 直後の文より、hand gestures を除く facial expression と cry that ~ を抜き出して答える。
- (5) ㉗ 空腹のときにする手のジェスチャーが意味するものを選ぶ。
- ㉘ けんかをしているときにする手のジェスチャーが意味するものを選ぶ。
- (6) the hand gestures we use every day と、the words we speak とを比較した文。
- (7) ア チンパンジーの個々の顔の表情には2つ以上の意味があることを科学者たちは発見した。(×) *本文17～18行目参照。
- ウ チンパンジーは他者にメッセージを伝えるのに手のジェスチャーのみを使う。(×) *本文3～5行目参照。
- エ 動物が意思の伝達をするとき、動物が出す鳴き声は手のジェスチャーよりも重要である。(×) *鳴き声と手のジェスチャーの重要性を比較する文は本文にない。

全訳

親指を立てる。愛想よく手を振る。これらの手のジェスチャーはみな、わたしたちが毎日、意思の伝達するのに使う身ぶり言語の一部です。チンパンジーも他者にメッセージを伝えるのに手を使うことができます。チンパンジーはほほえみや鳴き声や他の顔の表情を使って意思の伝達をするよりも、手を使って意思の伝達をするほうが得意であることを、科学者たちは発見しました。チンパンジーは人間に近いの

で、^㉙この発見は人間がどのようにして話し始めたかについての重要なヒントをわたしたちに与えてくれます。

人間だけがことばを使って意思の伝達ができ、科学者たちは長年、わたしたちの先祖がどのようにして^㉚言語を使うことができるようになったのかを見出だそうとしてきました。彼らは、類人猿に近いわたしたちの先祖は最初に手のジェスチャーを通して意思の伝達をしたのだと言います。^㉛やがて、わたしたちの先祖の脳のいくつかの領域がこの種の意思伝達のためにさらに発達しました。ついに、脳のこれらの領域は簡単な言語が理解できるようになりました。今日の類人猿は手のジェスチャーを考えるのに脳のいくつかの領域を使うことを科学者たちは知っています。彼らはまた、今日の人類がことばを理解するのに同じ領域を使うことも知っています。

アメリカの大学の科学者たちは、手のジェスチャーや、^㉜類人猿が意思の伝達をする他の方法を研究するために、47頭の類人猿を観察しました。科学者たちはすべての手のジェスチャー、顔の表情、1頭の類人猿が他の類人猿に対して出す鳴き声を記録しました。彼らはまた、その動物たちがいつ遊んだり食べたり他のことをしているかも記録しました。個々の顔の表情と鳴き声は、例えば、その動物が恐れているとき、というように、ほぼいつも1つの状況だけで使われることがわかりました。

けれども、個々の手のジェスチャーは2つ以上の意味を示すことができます。例えば、動物が空腹のとき、手のひらを上向きにして手を伸ばすことは「^㉝もっと食料をください。」ということの意味します。けんかをしているとき、同じジェスチャーは「^㉞助けてください。」を意味します。

このことは、類人猿が手のジェスチャーを柔軟な方法で使うことを示しています。人間の言語と同様に、動物のジェスチャーは顔の表情や鳴き声よりも難しい^㉟情報を与えることができるのです。

人類とチンパンジーは同じ先祖を持ち、この2つのグループは約250万年前に互いとは別のものになったと科学者たちは考えています。人類の言語は、類人猿に近いわたしたちの先祖が使っていた手のジェスチャーから来ていると、科学者たちは考えています。それゆえ、^㊱わたしたちが毎日使う手のジェスチャーは、わたしたちが話すことばと同じくらい大切なのです。

1

P162

(問) ウ, カ, ケ, サ

解説

- (問) ア グリーンバーグ氏は偉大なスポーツ選手であるだけでなく政府の役人でもあるので、ニューヨークでとても有名である。(×) *本文1~2行目参照。
- イ グリーンバーグ氏は21歳のときから、ニューヨークの貧しい人々に手袋を与え続けている。(×) *本文19行目参照。21歳のときではなく、21年前。
- エ グリーンバーグ氏は多くの書類といくつかの手袋を書類かばんに入れて持ち歩いているのでビジネスマンのように見える。(×)
- オ グリーンバーグ氏は夏にときどき、ニューヨークでいくつか手袋を買うので、書類ケースの中に常に手袋が入っている。(×) *本文15~16行目参照。During the rest of the year「1年の残りの間」とあるので夏とは限らない。
- キ 春と夏と秋に、グリーンバーグ氏はたくさんの手袋の売買をしている。(×)
*手袋を「売る」とは書かれていない。
- ク グリーンバーグ氏が手袋の代金を欲しがっていたのを見て、驚いた人もいた。(×)
*本文20~22行目参照。
- コ グリーンバーグ氏は、父親がしていたように貧しい人々に手袋を与え始めた。(×)
*父親が手袋をあげていたとは書かれていない。
- シ 多くの人々は、冬はニューヨークの貧しい人々にとって厳しい時期だということが理解できなかった。(×)
- ス グリーンバーグ氏の父親はとてもお金持ちだったので、たくさんのお金でみんなをより幸せにできると信じていた。(×) *本文23行目参照。
The Greenberg family was poorとある。

全訳

マイケル・グリーンバーグは、人気のあるニューヨーカーです。彼は政府の人間ではありませんし、スポーツ界や芸術の世界で有名なわけでもありませんが、路上の人々、とりわけ貧しい人なら彼のことを知っています。

この貧しい人々にとっては、彼はマイケルでも、ましてやグリーンバーグ氏でもありません。彼らにとって彼の名は「手袋 (Gloves)」・グリーンバーグなのです。「手袋が来るぞ。」と、彼らは彼が通りを歩いて来るのを見ると言うのです。どうして彼にはそのような名前がついたのでしょうか。彼は他のビジネスマンと同じように見えます。彼はスーツを着こなし、書類かばんを持ち歩いています。しかしながら、彼は違うのです。彼の書類かばんには、書類や本が入っているだけではありません。そこには、数組の手袋も入っているのです。

冬の寒い日には、グリーンバーグ氏は他のニューヨーカーと同じような行動はしません。彼は歩道を見ることも、通りを急いで歩くこともしません。彼は人々を見て回っているのです。彼は冷たい手をした貧しい人々を探しているのです。そういうわけで、彼は書類かばんに手袋を入れてあるのです。彼は手袋をしていない人を見かけると立ち止まります。その人が貧しそうであれば、手袋をあげます。「メリークリスマス。」と彼は言います。彼はその人と握手をします。そして、また冷たい手をした人を探して進み続けるのです。

冬の間は毎日、グリーンバーグ氏は手袋を与え続けます。1年の残りの間は、彼は手袋を買います。彼のことを知っている人々は、彼に手袋を送ります。彼のアパートには山のようには手袋があります。子供用の手袋、仕事用の手袋、婦人の夜会用の手袋と、ありとあらゆる色とサイズの手袋があるのです。

グリーンバーグ氏は21年前に手袋を与え始めました。今では、ニューヨークの貧しい人々の多くは、彼のことを知っています。彼らはなぜ彼が手袋を与えるのかを知っています。けれども、中には驚く人たちもいます。彼らは、彼が手袋代が目当てだと思っています。彼らは、彼が貧しい人々がもう少し温かく、幸せな気分になれるように手助けをしたいと願っているだけだ、ということを理解できないのです。

グリーンバーグ氏の家庭は貧しかったのですが、マイケルのお父さんはいつもものを与えていました。彼はそうすることで、みんながより幸せになると信じていたのです。マイケル・グリーンバーグも同じように感じているのです。彼はニューヨークの貧しい人々に何かしてあげたいと願っているのです。彼は、冬は彼らにとって厳しい時期だと思っていま

す。これらの貧しい人々の多くは、行くべき暖かい場所も、温かい洋服もありません。一組の手袋は小さなものかもしれませんが、彼は冬に手袋があるとずいぶん違うと思ってい

ます。彼がニューヨークの路上生活者たちに人気があることは、驚くべきことではないのです。

- (1) ① by ② with
 (2) picked
 (3) ③ 自分の足に何か違和感を覚えたこと。
 ④ 医者にスキーができない理由がないと言われたこと。
 (4) ⑤ make, come ⑥ nothing, but
 (5) she realized how important skiing was in her life
 (6) ① エ ② イ ③ ア ④ ウ
 (7) ① × ② × ③ ○ ④ × ⑤ ○

解説

- (1) ① by oneself 「ひとりで」
 ② Something is wrong with … 「…は何かおかしい」
 (2) pick 「選ぶ」
 (3) ③ 直前の文の she felt something wrong with her leg を指す。
 ④ 直前の文の He said there was no reason why she couldn't. を指す。
 (4) ⑤ 《make … + 動詞の原形～》で「…を～させる」という意味。* come true 「実現する」
 ⑥ nothing but … 「…以外～ない」
 (5) 「彼女は自分の人生において、スキーがいかに大切であるかを知った。」という意味の文にする。
 (7) ① スキーはダイアナができる唯一のスポーツだった。(×) * スキー以外が「できなかった」とは書かれていない。
 ② ダイアナの病気は将来に希望が持てないほど重かった。(×) * 本文第3～4段落参照。
 ③ ダイアナは病院で足を切断する前、スキーチームに所属していなかった。(○)
 * 本文 23～25 行目参照。スキーチームに所属したのは高校2年生のとき。
 ④ ダイアナは世界選手権で優勝するために宗教団体に入っていた。(×)
 * 本文 35～37 行目参照。スキーをやめているときに宗教団体に入っていた。
 ⑤ ダイアナが勝ち取った金メダルの合計は29だった。(○) * 本文第9段落参照。

全訳

ダイアナ・ゴールデンは幸せな幼少時代を過ごしましたが、スポーツはあまり得意ではありませんでした。実際のところ、彼女がチームの一員に選ばれるのはいつも最後でした。彼女はまったく選ばれないこともありましたが、ダイアナがとても得意としていたスポーツが1つありました。それはスキーでした。冬には、週末のたびに、ダイアナは家族といっしょにスキーをしました。彼女はスキーが好きでした。なぜなら、①ひとりでできるからです。彼女は②選ばれるのを待つ必要がなかったわけです。

ダイアナが12歳のある日、彼女は③脚に何か違和感を覚えました。彼女は変だとは思ったのですが、④そのことを忘れてしまおうとしました。のちになって、それがまた起こりました。彼女の両親は彼女を医者に連れて行きました。不幸なことに、ダイアナは骨肉腫で、片脚を切断しなければなりません。そんなときでも、ダイアナは両親と医者の前ではとても勇敢でした。しかし、彼らが病室を去ると、彼女は長時間も泣き続けたのです。彼女は自分の人生が不幸になると思い続けました。

数日後、ダイアナは担当医の1人にまだスキーをやれるかどうか聞いてみました。彼は、スキーができない理由はまったくくないと言いました。⑤それを聞いて、彼女はとても元気になりました。ダイアナは病院にいる間、ガンで亡くなっていくほかの子供たちを目の当たりにしました。彼女は自分が生きていることは、運がよいのだと気づき始めました。

数か月後、ダイアナは再びスキーに挑戦する準備ができました。彼女はもう1度スキーができるという確信がなく、失敗をこわがっていました。彼女の両親は、彼女を国立身体障害者用スポーツというプログラムをもつスキー場へ連れて行

きました。彼女は身体に障害をもったほかの運動選手を見ました。また、彼女のスキーのコーチにも会いました。彼は戦争で片脚をなくしていましたが、一流の選手のようにスキーをしました。彼はダイアナに①彼女の夢を実現させる自信と勇気を与えました。

熱心な努力と決意をもって、ダイアナはふたたびスキーを始めました。それは驚くべきことでした。すぐに彼女は以前と同じくらい上手にスキーをしていました。高校2年生のある日のこと、学校のスキー部のコーチが彼女の練習を見ました。彼は彼女にスキーチームに加わるように勧めました。彼女はもっと強靱な身体、とりわけ、脚、背中、腕を作るためにトレーニングを始めました。1年後、彼女はノルウエーで開かれた身体に障害をもつ運動選手のための世界大会で優勝しました。同じ年に、彼女は世界身体障害者選手権のダウンヒル種目で優勝しました。①ダイアナは大きな喜びに満ちていました。②彼女はスキーやレースに勝つこと以外は何も考えませんでした。ついに、ダイアナは合衆国身体障害者スキーチームのスターになりました。新聞や雑誌は彼女を取り上げました。彼女はチャンピオンやヒーローと呼ばれました。しかし、ダイアナは自分がヒーローだなんて信じていませんでした。彼女はただ自分のベストを尽くしただけだったので。

高校卒業後、②ダイアナは有名大学に進学しました。彼女

は大学の競技場でスキー部といっしょにトレーニングをしました。彼女は松葉杖を使わなければなりませんでした。彼女は走ったり競技場の階段を駆け上がったりしました。

大学2年生のとき、③ダイアナはスキーをやめました。彼女は自分の将来が心配だったので。彼女は自分が何者であるかも、人生において何をしたいのかもわからなかったのです。彼女は人生の意義について考え始めました。彼女は宗教団体に参加しました。彼女は勉強をし、読書をしました。しかし、しばらくして、④彼女は自分の人生において、スキーがいかに大切なものなのかを知りました。

1984年に卒業したあと、④ダイアナはスキー界に復帰しました。彼女はふたたび、⑤より強靱な身体を作るために、以前にも増していっしょうけんめい練習に取り組みました。彼女は身体障害者のスキーヤー、健常者のスキーヤーの両方と、いっしょにトレーニングをしました。大きな決意をもって、彼女は身体障害者のスポーツ界の歴史の中で、最も偉大なスキーヤーになりました。

ダイアナ・ゴールデンは、世界選手権と国内選手権で28個の金メダルを手に入れました。ついに、彼女は1988年にオリンピックでも金メダルを手に入れました。1980年代、彼女は身体障害者の種目と健常者の種目の両方でメダルを獲得し続けました。1988年には、彼女はその年のアメリカ合衆国アルペンスキーヤーと称されたのです。

3

P166

(1)① イ (2) ウ (3) エ (4) ア

(2) 彼はゆっくり運転していたが、彼の気持ちは動揺していたということ。

(3) ウ

(4) ウ、オ

(5) 警察に気づいてもらえるよう、スピード運転や信号無視、逆走など気が狂ったような運転をすること。

解説

(2) race はもともと「速く走る」という意味。「気持ちが速く走る」→「気持ちが動揺する」と考える。

(3) 本文 21 行目参照。drove the wrong way on one-way streets とある。

(4) ア レスタークイット夫妻は車から警察に助けを求めた。(×) *警察に助けを求めたのはレスタークイット氏ひとりのとき。

イ 暴漢は警察署の前で二度発砲した。(×) *本文 31 ~ 35 行目参照。

エ レスタークイット氏は、若いとき映画スターだった。(×)

(5) 警察の注意をひくために考えついた計画のことである。

直前の段落ですでに実行されている。

全訳

ある夏の午後、ジーンとクロシルド・レスタークイット老夫妻は、フランスのリールに住んでいる娘の家を訪ねました。6時数分前に、レスタークイット夫妻は帰宅することにしました。彼らは娘にさよならをして、車のところまで歩いて行って乗り込みました。彼らは、穏やかでのどかな運転で帰宅しようと思っていました。ところが、そのドライブはまったく穏やかでのどかなものではありませんでした。

レスタークイット氏が車を走らせようとしたとき、後部座席から暴漢が急に起き上がったのです。彼はレスタークイット氏の頭に銃口を突きつけました。「おれをバリまで連れて行け。」と怒鳴りました。

「わかりました。① わたしはあなたが望むところならどこへでもお連れいたします。けれど、まずはじめに、わたしの妻を車から出させてください。」とレスタークイット氏は答えました。

暴漢は同意しました。彼女が無事に車の外に出ると、レスタークイット氏はエンジンをかけ、車を縁石から離し、通りに出て行きました。② 彼はゆっくり運転していましたが、気持ちは動揺していました。銃やナイフなしでは暴漢と戦うことができないと、81歳のその老人はわかっていました。彼は自分には助けが必要なることを知っていました。警察はどこにあるだろうか。彼は交差点を通るたびに横の通りを見直し、警察の車を見つけないと願っていました。しかし視界には1台すら入ってきませんでした。

突然、レスタークイット氏は、警察の注意をひきつけるよい方法を思いついたのです。彼はアクセルを踏み込むと、車は非常に速い速度で走り出しました。「③ 何をしているんだ。」と暴漢は怒鳴りました。「逃げています。さっきのところで警察の車が見えたような気がしたのです。」とレスタークイット氏はうそをつきました。

レスタークイット氏は気でも狂ったかのような運転を始めたのです。彼は側道を時速100キロで車を走らせ、赤信号を無視し、一方通行の道を逆行しました。2車線の道路では、対向車線を走りました。1人の警察官すら彼を発見してくれなかったのです。

明らかに、④ レスタークイット氏の計画はうまくいっていませんでした。彼には新しい計画が必要でした。しかし、ど

のような？ 突然、彼はリール警察署はわずか数ブロックだけ離れたところにあることを思い出したのです。「よし」と彼は思ったのです。「⑤ 警察を自分の車に連れてこれられないなら、わたしが自分の車を警察に持っていこう。」

角を曲がると、警察署は前方に見えました。次の瞬間、彼はがっかりしてしまいました。警察署の前には中庭があり、その中庭に通じる大きな2枚の扉は閉まっていたのでした。レスタークイット氏はしばらく考えました。そして、彼はアクセルが床につくまで踏み込んで、扉に向かって車をまっしぐらに走らせました。

車は扉を突き破って、中庭で止まりました。レスタークイット氏は「⑥ 助けてくれ。ヤツがわたしを殺そうとしている。」と叫びました。そして、彼は男の銃をつかもうと手を背後に伸ばしました。彼が銃をつかんだちょうどそのとき、暴漢は引き金を引きました。弾丸はレスタークイット氏の手を負傷させ、フロントガラスを貫通しました。暴漢がもう1度引き金を引く前に、レスタークイット氏は車のドアを開けて、地面に倒れました。車が扉を突き破る音を聞いて、警察署から警官が走ってやってきて、すばやく暴漢を逮捕しました。

ジーン・レスタークイットは現実の世界にいたのではなく、アクション映画の中にいるように思えました。アクション映画につきものの暴漢、ヒーロー、暴走車、車の激突などさまざまなことがありました。ジーン・レスタークイットにとって幸いなことは、たいいていアクション映画にあるもう1つのできごと、つまりハッピーエンドがあったのです。

(1)① ウ ② カ ③ ア ④ ア ⑤ イ

(2) was the right thing he wanted for Jane

(3) イ

(4)⑥ birthday ⑦ silver elephant brooch

(5) イ→エ→ア→ウ

(6) イ

(7) もしすべてのろうそくが消えなければ、願いはかなわないだろう。

(8) he wanted Jane to be his wife

解説

(1)① before very long 「まもなく」

② 「彼女がどのように感じたか」という意味にする。

③ 単数名詞の前について「もう1人の」の意味を表す another が適切。

④ from one … to another 「ある…から別の…へ」

⑤ 「気に入ったものを何も見なかった」という意味にする。

る。

(2) the right thing を he wanted for Jane が後ろから修飾する形にする。

(3) others は他の商品のこと。only a few ～「ごくわずかの～」、like は前置詞で「…のような」の意味。

(4)⑥ 前にある Happy に続く語。

⑦ ジェーンの家に着いてからマイクの頭から離れなかつ

たものであり、ジェーンがほしがっていたものである。

- (5) *A*の *But just at this moment* から、この前に別の場面があるとわかる。また、*someone* を受ける初出の人物 *my aunt and uncle* がこれに続くので *A*→*ウ*となる。イには代名詞や接続詞がなく、エには *he* と *it* が あることから、イ→エとすると、*he = Mike, it = the brooch* で意味が通る。
- (6) 「このおいしい食事を食べるのに忙しい」というマイクの返答から、「なぜあまり話さないのか」という問いが適切。
- (7) *If all the candles do not go out, then you won't get your wish.* が完全な文。
- (8) 本文5行目参照。

全訳

マイクは会社で初めてジェーンに会ったときに彼女を気に入りました。マイクは会社の子供たちとはあまり出かけませんでしたが、ジェーンは違いました。彼女はかわいくておもしろい人でした。彼らは何度かいっしょに昼食を食べ、マイクは自分が好きなものと同じものをジェーンも好むのでうれしく思いました。①まもなく、彼らはいっしょに夕食を食べるようになり、劇場に行くようになりました。数か月後、マイクはジェーンに自分の妻になってほしいということはわかっていたのですが、自分のことを彼女が②どう感じているかはわかりませんでした。会社にはジョージ・パーキンスという③別の男性がいました。彼もときどきジェーンと出かけていました。マイクは、ジョージではなく自分がジェーンが夫として選んだ人になることを望んでいました。

マイクは彼女の誕生日にとても珍しい贈り物をしたと思いました。彼はデパートに入りましたが、彼女に何を買ったらいいかわかりませんでした。店内のある場所から④別の場所へ行ったあと、彼は宝石売場にやって来ました。最初は、そこでも気に入ったものは⑤何も見あたりませんでした。しかし、ちょうど立ち去ろうとしたとき、象の形をした小さい銀のブローチが見えました。そのブローチは⑥まさに自分がジェーンのためにほしいと思うものだ、と、マイクはすぐにわかりました。

「いいご選択ですね。この宝石はとても珍しいものなのです。銀の見事な作品でよく知られた男性によってメキシコで作られました。⑦そのようなものはほかにごくわずかしかなかった。」と店員が言いました。

「きっとジェーンは喜ぶだろう。彼女は高級な宝石が好きだし、このブローチはとても珍しいから。」とマイクはその夜、ジェーンの誕生パーティーに行くときに思いました。

ジェーンの家に行く途中、マイクはジョージ・パーキンス

のことを考えました。「パーティーにはジェーンの家と友人の友人がいるのだろうか。でも、ジョージはその『数人の友人』の1人なのだろうか。」

ジェーンがドアを開けると、彼は「ハッピー」と言い、それから「⑧パースデー、ジェーン」と続ける前に一瞬しゃべるのをやめました。彼はただ自分の目を疑いました。ジェーンの緑色のドレスに、小さな銀の象のブローチがついていたのです。それは彼のプレゼントの箱に入っているものと同じでした。彼はジェーンの目につかないうちにその小さな箱をポケットに入れました。

「早かったのですね、マイク。ほかの人たちはまだここに来ていないのですよ。何か飲み物をお持ちしましょうか。」とウェスト夫人が言いました。

「まだ結構です、ウェストさん。」とマイクは答えました。彼が考えることができたのは小さな銀の象のことだけでした。「ジョージが彼女にあげたのだろうか。もしかしたら会社で。」

ジェーンは母親はまだ話をしており、マイクは耳を傾けなければならぬことはわかっていました。

「会社はどうですか、マイク。ずっととても忙しいそうですね。」とウェスト夫人は言っていました。

「順調、ともかく順調です。そんなに忙しくありません。ちがいます。」とマイクは言いました。

「この夕刊はもう見ましたか、マイク。いい話が載っているのですよ…」とウェスト氏が言いました。

ジェーンは父親は話し続けましたが、その時間のほとんどを、マイクは聞いていませんでした。ときどき「おっしゃるとおりですね、ウェストさん。」や「ほくもそう思います。」と言いましたが、ジェーンは父親が何を話しているのかはわかっています。彼は⑦銀の象のブローチのことが忘れられませんでした。彼はパーティーでジェーンへの贈り物を持っていないのはきっと自分だけだろうと思っていました。

マイクはジェーンに、ドレスにつけてあるブローチがいいねと言いはじめました。それがどこから来たのがわかると彼は思ったのです。しかし、ちょうどそのとき、だれかが戸口にきました。「きっとおぼとおじだわ。友達のメアリーも来るのよ。」とジェーンはマイクに言いました。

「会社からほかになんか来ないの。」とマイクはたずねました。

「ええ。」と彼女は答え、戸口へおじとおぼを出迎えに行きました。

このときマイクは、ブローチがジョージからのものだとは確信していました。「きっと昼間のうちに会社でジェーンにあげたんだ。ほくはどうしたらいいだろう。贈り物を家に忘れてきたと言うべきだろうか。後であげると言うべきだろ

うか。」

数分後にメアリーが入ってきて、全員が夕食を食べるためにすわりました。

マイクは、自分は家族のパーティーにいてジョージはいない、ということしか考えられませんでした。

ジェーンは彼に、⑧ どうしてあまりしゃべらないのかとずねました。

「このおいしい食事をいただくのに忙しすぎてね。」と彼は答えました。彼は言うことをほかに何も思いつきませんでした。

それから、誕生日ケーキの時間になりました。「ケーキには21本のろうそくがあるわよ、ジェーン。全部を吹き消せると思う？」とウェスト夫人はケーキを運んできて食卓に置きながら言いました。

「最初に願い事をして。ろうそくを吹き消す前に願い事をするのよ。全部のろうそくが消えたら、願いがかなうわ。⑨ 消えなかったら、かなわないわよ。」とメアリーはジェーンに言いました。

「⑩ 銀の象のブローチを持るといいな。」とジェーンは言い、すべてのろうそくを吹き消しました。

「何だって。何と言ったの。」とマイクが言いました。

「ドレスについているブローチは私のものではないの。メアリーのものなのよ。このドレスに合うと彼女が思って、今夜持っていてもいいと言ってくれたの。とても珍しい宝石なのよ。メアリーのお母さんがメキシコにいるときに買ったのよ。」

マイクは小さな四角い箱を他の贈り物といっしょに置きました。

「さあ、贈り物を開ける時間よ、ジェーン。」とウェスト夫人が言いました。

「そうだね。願いがかなうといいな。」と彼女の父親が言いました。

ジェーンはすべての贈り物を開けました。ジョージからは便せん1箱をもらいました。彼は会社でそれを彼女にあげたのです。彼女の両親はコンピュータを、おじとおばはCDを、メアリーは本をあげました。それからジェーンは小さな箱を開けました。彼女はブローチを見たとき、「マイク、どうしてわかったの。ずっとこれがほしかったの。あなたのお陰でとてもうれしい。あなたの贈り物はとても珍しいものだろうって、わかってたわ。」と言いました。

ジェーンの願いはかない、そしてマイクも⑪ 自分の願いがかなうとこのとき確信しました。

P171 5

- (1) イ
- (2) エ
- (3) ウ
- (4) もし彼がそのお金を小額紙幣に両替したら、それが盗まれたものだとだれも証明できません。
- (5) ア
- (6) the holes from the pin
- (7) イ、オ、ク

解説

- (1) 本文1～2行目と直前の文参照。
- (2) 直後の3文参照。エミルが泣いたのはポケットのお金がなくなったからで、それは彼の母親が熱心に働いて得たものだったことからエが適切。
- (3) 直前の内容から、エミルはMr Greenを泥棒と思い捕まえようとしている。now or neverは、今をのがしたらもうその機会がないことを表す。
- (4) 本文53～54行目参照。
- (5) 下線部⑤は、紙幣がエミルのものだと証明できないのなら、エミルと支店長のやりとりはこれで終わりだということを表す。
- (6) 本文79行目参照。
- (7) ア エミルは洗面所で小さな袋から紙幣を取り出し、紙幣にピンを突き刺した。(×) *紙幣を袋から出してはいない。
ウ エミルは駅で鉄道警備員にすべてを話したが、警察にはそれを言えなかった。(×)
エ グリーン氏はエミルのお金を盗み、エミルが眠っている間に電車を乗りかえた。(×) *本文29～30行目参照。
カ 銀行員は盗まれたお金のことを聞くとすぐに銀行支店長の執務室へと走った。(×)
キ グリーン氏がボールを愚かな少年と呼んだとき、ボールは警笛を吹いた。(×) *本文55行目のYou silly boyはジョージに言ったことば。

ケ エミルがピンを机に置いたあとでさえ、泥棒は銀行から逃げようとしなかった。(×) *本文 83～84 行目参照。

全訳

そのときはエミルと黒いぼうしをかぶった男性だけでした。彼はばかげた話をする見知らぬ男性とはいたくありませんでした。エミルはもう一度お金をさわって確かめたかったのですが、もう1人の男性の前ではそうたくありませんでした。エミルは客車の端にある手洗い所に行きました。彼はポケットから小さな袋を取り出してお金を数えました。それはまだそこにありましたが、どうすれば、より安全にできるでしょうか。そこで彼は思い出しました。上着にピンが入っていたのです。彼はそのピンを取り出し、袋、紙幣、内ポケットの布に突き刺しました。お金はもう安全でした。

エミルは席に戻りました。グリーン氏は眠っていました。

① エミルは喜びました。彼は窓の外を見ました。彼は木や野原や家を見て楽しみました。

数分後、彼は危うく座席から落ちそうになりました。「もう少しで眠るところだった。それはいけない。」と心の中で思いました。しかし、彼は本当に疲れていました…。

エミルは目覚めると、客車の床に横になっていました。電車は動いていました。ゆっくりとエミルは思い出し始めました。もちろん、自分は町に行くところだ。自分は眠っていたのだろうか、黒いぼうしの男性のように…。しかし、その男性はそこにはいませんでした。客車にはエミルだけでした。彼は床から起き上がりました。それから、彼は内ポケットの中を探りました。

お金はそこにありませんでした。

エミルは痛みを感じ、ポケットから手を出しました。ピンから離れた指には血がついていましたが、小さな袋はそこにありませんでした。② エミルは泣き出しました。もちろん、血のことで泣いていたわけではありません。彼はお金のことで泣いていたのです。彼の母親はとても熱心に働きました。そして、このときには祖母のためのお金や町を訪問するためのお金がなかったのです。

「ぼくが不注意だった、それで泥棒がぼくのお金を盗んだんだ。次の駅で鉄道警備員を呼んで何もかも話さない。鉄道会社が警察に連絡するだろう。でも、そうすると警察と問題になるな。」と彼は思いました。彼は駅広場の中央にある像を思い出しました。ある日、エミルはよじ登って鼻を赤く塗りました。突然、警官が広場へやってきました。エミルは逃げましたが、その警官が自分を見たと思いました。

いや、警察に言うことはできない。

電車が止まりました。ドアが開き、人々が客車から降りました。突然、彼はその人たちの中に黒いぼうしを見ました。

泥棒だろうか。お金を盗んだ後、別の客車に移ったのかもしれない。

エミルはすばやく降りました。黒いぼうしはどこだ。彼はできるだけ速く走りました。あそこだ。泥棒グリーン氏がいました。彼は大きく急いでゲートを通り抜けていました。

「捕まえてやる。」とエミルは怒って思いました。

彼は鉄道員に切符を渡し、黒いぼうしの後を追いました。

「やるなら今しかない。」と彼は思いました。

③ エミルは泥棒の後を追って走りました。泥棒をつかまえようとあらゆる方法を試しましたが、つかまえられませんでした。それから彼はジョージ、ポールと他の男の子たちに会いました。彼らは親切にもエミルを手伝うと言ってくれました。彼らは泥棒を追っていっしょに走りました。ついに、彼らは泥棒が銀行に入っていくのを見ました。

ジョージはドアのところで他の少年たちを止めて、「ポールとぼくが中に入る。エミルはここにいていいよ。ポールが警笛を鳴らしたら、エミルと他のみんなは銀行の中に入れ。」と言いました。

ジョージとポールは銀行の中に入りました。グリーン氏は机の前に立っていました。その机の後ろでは、銀行員が電話で話していました。

ジョージは泥棒に近付き、ポールは彼の後ろに立ちました。ポールはポケットに警笛を入れており、吹く用意はできていました。

銀行員が電話を終え、机のところに来ました。

「ご用件をお伺いたします。」と彼はグリーン氏に言いました。

④ 「この70ポンドを両替してもらえますか。10ポンド紙幣を5ポンド紙幣に、5ポンド紙幣を1ポンド紙幣にしてください。」彼はポケットからお金を取り出しました。

「待て。そのお金は盗まれたものだ。」とジョージが叫びました。

「何だって。」と銀行員が驚いて言いました。

「この男はそのお金をぼくの友達から盗んだんだ。お金を小額紙幣に両替したら、それが盗まれたものだだけでも証明できなくなる。」とジョージが言いました。

「このばか者が。」とグリーン氏が叫びました。

ポールが警笛を吹きました。

エミルと他の少年たちが銀行の中に走ってきました。彼らはみなグリーン氏の周りに立ちました。

銀行の支店長が執務室から出てきました。

「この騒ぎは何事かね。」と彼がたずねました。

エミルが泥棒を指差しました。「ここにいるこの男がぼくのお金を盗んだんです。ニュートンからの電車でぼくが眠っていた間に取ったんです。」

銀行の支店長は真剣そうでした。「さしあたり、私がお金を預からなくてはなりません。」と彼は言いました。

彼は紙を1枚取り出し、彼らの名前と住所を書きとめ始めました。

「この男の名前はグリーンです。」とエミルが言いました。

泥棒は大声で笑いました。「私の名前はミラーだよ、グリーンではなく。」

「こいつを信じないで。これははくのお金で、返してもらわないといけません。母がお金を祖母に届けてほしいとばくに頼んだんです。」とエミルが大声で言いました。

「そうなのかもしれないが、君にたずねなくてはならない。そのお金が君のものだって証明できるかね。紙幣の裏に君の名前が書いてあるかい。紙幣の番号は書きとめたかい。」と支店長が言いました。

「もちろん、書いていません。」とエミルが言いました。

「紙幣に何か目印はあったかい。」

「ないと思います。」

「^⑤やれやれ、ではそれで終わりですね。そのお金は私のものです。私は決して子供から盗んだりしません。」と泥棒が銀行の支店長に言いました。

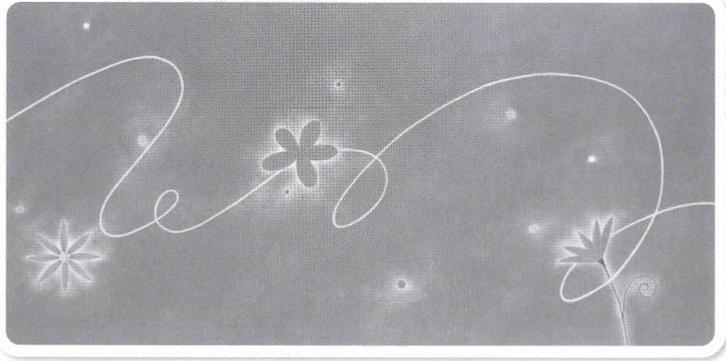
「ちょっと待って。」とエミルが大声で言いました。「今、思い出しました。紙幣に^⑥目印があります。お金がポケットの中にあると確信したかったので、ポケットの布と中にお金が入った袋をピンで突き刺しました。紙幣をよく見れば、ピンで刺した穴が見えます。」

銀行の支店長は紙幣を持ち上げて光にかざしました。だれもが静かに見守りました。泥棒は後ずさりしました。

「少年の言うとおりで。」と支店長が言いました。

「そしてここにピンがあります。」とエミルが言いました。彼はピンを上着から出して机に置きました。

泥棒は振り返り、少年たちをかき分けました。「捕まえろ。」と銀行の支店長が叫びました。



ジャック
Jack 21
英語 Vol.3
発展編

クラス 氏名

